経済学部シラバス

令和 3 年度

(2021 年度)

大 阪 市 立 大 学 経 済 学 部

経済学部シラバス

目　　次

目次 …… 1
学年歴…… 3
2021 年度カレンダー …… 4
経済学部専門教育科目開講科目表 …… 5
経済学部専門科目　科目ナンバーについて …… 7
OCU 指標について …… 8

◎前期開講科目◎
入門科目…… 13
基礎科目Ⅰ…… 15
基礎科目Ⅱ…… 19
応用科目…… 21
演習科目…… 45
◎後期開講科目◎
基礎科目Ⅰ…… 143
基礎科目Ⅱ…… 147
応用科目…… 150
演習科目…… 169
◎集中講義開講科目◎
応用科目…… 187

論文採点基準表 …… 190
注意事項 …… 191
杉本地区キャンパスマップ・教室一覧 …… 194
教員名簿 …… 196

2021年度　学年暦

学年開始	4月 1日（木）
新入生ガイダンス	4月 1日（木）
入学式	4月 6日（火）（予定）
新入生健康診断	4月 7日（水）
前期授業開始日	4月 8日（木）
創立記念日	6月 1日（月）（通常通り授業実施）
授業・試験期間	7月26日（月）～8月6日（金）
夏季休業	8月 7日（土）～9月15日（水）
研修期間	9月16日（木）～9月30日（木）
後期授業開始日	10月 1日（金）
振替授業日	11月 4日（木）月曜日の授業を実施
冬季休業	12月24日（金）～1月 6日（木）
授業・試験期間	1月28日（金）～2月10日（木）
研修期間	2月14日（月）～3月18日（金）
春季休業	3月19日（土）～
卒業式	3月24日（木）（予定）

※ 振替授業日	―	各曜日に一定の授業回数を確保するため、授業回数が多い曜日に授業回数が少ない曜日の授業を行う。
※ 研修期間	―	集中講義や補講などが行われることがある。
※ 授業・試験期間	―	定期試験や授業を行う。
※ 入学式・卒業式	―	日程確定後、ホームページ（ホーム＞教育・学生生活＞授業・履修関係＞行事予定・授業時間）に掲載します。

振替授業日及び試験期間について

近年、祝日の増加・変更や大学行事に伴う休講措置等により、授業・試験にあてることのできる日数が減少しています。そこで、本学では振替授業（・試験）日を設けるとともに、さらに回数が不足する場合は、休業期間や研修期間に授業・試験を実施する場合があります。

☆ 参 考

・新入生歓迎祭（ふたば祭）開催に伴う休講

4月16日（金）3～5時限

［歓迎祭開催日程：4月16日（金）午後～、17日（土）終日］

・大学祭（銀杏祭）開催に伴う休講

11月1日（月）全時限

［大学祭開催日程：10月30日（土）～11月1日（月）］

・大学入学共通テスト準備に伴う休講

2021年1月14日（金）全時限

［大学入学共通テスト：1月15日（土）・16日（日）］

2021年度カレンダー

4月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

1日（木）新入生ガイダンス
6日（火）入学式（予定）
8日（木）前期授業開始

16日(金)新歓祭午後休講

5月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

6月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			

7月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31

26日（月）～8月6日（金）
授業・試験期間

8月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

7日（土）～9月15日（水）
夏季休業期間

9月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

16日（木）～30日（木）
研修期間

10月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

1日（金）後期授業開始

11月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30				

1日（月）銀杏祭休講

4日（木）振替授業日
（月曜の授業を実施）

12月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

24日（金）～1月6日（木）
冬季休業期間

1月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

14日（金）大学入学共通テスト
に伴う休講措置

28日（金）～2月10日（木）
授業・試験期間

2月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28					

14日(月)～3月18日（金）
研修期間

3月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

19日（土）～春季休業期間

24日（木）卒業式（予定）

振替授業日　授業開始日　休業期間　休業日　授業・試験期間

2021年度　経済学部専門教育科目表

科目群	授業科目	担 当 者	単位	期別	標準履修学年	ページ	他学部生履修	備考
入門科目	日本経済の論点	杉　田	2	前期	1年生限定	13	不可	
	世界経済の論点	森　脇	2	前期	1年生限定	14		
基礎科目I	近代経済学(マクロ経済学2)	中　嶋	2	前期	2	15	不可	
	近代経済学(ミクロ経済学2)	柴　田	2	前期	2	16		
	政治経済学Ⅱ	塩　谷	2	前期	2	17		
	経済数学	(廣 野)	2	前期	2	18		
	近代経済学(マクロ経済学1)	岡　澤	2	後期	1	143		
	近代経済学(ミクロ経済学1)	浦　西	2	後期	1	144		
	政治経済学Ⅰ	若　森	2	後期	1	145		
	基礎・経済統計	中　川	2	後期	1	146		
基礎科目II	経済学説史特殊講義	若　森	2	前期	2～	19	可	
	社会思想史特殊講義	中村 健吾	2	前期	2～	20		
	西洋経済史	塩　谷	2	後期	2～	147		
	応用マクロ経済学	内　藤	2	後期	2	148	不可	
	応用ミクロ経済学	辻	2	後期	2	149		
応用科目	統計解析論	中　川	2	前期	2～	21	可	
	計量経済学	岡　澤	2	前期	2～	22		
	経済情報論	(上 田)	2	前期	2～	23		
	公共経済学	(新 居)	2	集中	2～	187		前期集中講義
	財政学	松　本	2	前期	2～	24		
	環境経済学	(野　村)	2	前期	2～	25		
	金融経済論	辻	2	前期	2～	26		
	空間経済学	高　塚	2	前期	2～	27		
	産業組織論	北　原	2	前期	2～	28		
	国際経済学	久　保	2	前期	2～	29		
	国際協力論	(徳　原)	2	集中	2～	188		前期集中講義
	世界経済論	有　賀	2	前期	2～	30		
	ヨーロッパ経済論	(影 浦)	2	集中	2～	189		前期集中講義
	東南アジア経済論	金　子	2	前期	2～	31		
	関西経済論	(木 下)	2	前期	2～	32		
	労働経済論特殊講義	黒　田	2	前期	2～	33		
	経済統計論特殊講義A(コンピュータ講座)	中　島	2	前期	2～	34	不可	
	産業政策論	五 十 川	2	前期	2～	35	可	
	産業経済論	浦　西	2	前期	2～	36		
	証券経済論特殊講義(野村證券提供講座)	辻	2	前期	2～	37		
	アジア経済史	彭	2	前期	2～	38		
	商業簿記基礎論	(小 田)	2	前期	2～	39	可(商学部を除く)	
	ミクロ経済学上級講義1	内　藤	2	前期	3年生以上限定	40	不可	
	計量経済学上級講義1	(鹿 野)	2	前期	3～	41		
	Global Economy	ア ウケマ	2	前期	2～	42		
	Introduction to International Economics	久　保	2	前期	2～	43		

科目群	授業科目	担 当 者	単位	期別	標準履修学年	ページ	他学部生履修	備考
	Lectures on Economics A	中村　英樹	2	前期	2～	44	不可	
	Lectures on Economics B	（阪　原）	2	後期	2～	150		
	経済原論ⅠA	齋　藤	2	後期	2～	151	可	
	経済原論ⅡA	中　嶋	2	後期	2～	152		
	経済統計論	中村　英樹	2	後期	2～	153		
	流通経済論	柴　田	2	後期	2～	154		
	経済統計論特殊講義B（コンピュータ講座）	五 十 川	2	後期	2～	155	不可	
	社会経済論	（佐 藤）	2	後期	2～	156	可	
	計算機経済学	中　島	2	後期	2年生以上限定	157	不可	（注）5
	戦後経済史	ア ウケマ	2	後期	2～	158	可	
	地方財政論	小　川	2	後期	2～	159		
	福祉経済論	黒　田	2	後期	2～	160		
	アジア経済論	朴	2	後期	2～	161		
	産業政策特殊講義2（商友会・経友会講座）	松　本	2	後期	2，3	162		
	経済政策論特殊講義2(税関講座)	久　保	2	後期	2～	163		
	労働経済論特殊講義1（連合大阪寄附講座）	ウェザーズ	2	後期	2～	164		
	国際経済上級講義	森　脇	2	後期	3年生以上限定	165	商学部生のみ可	
	経済史上級講義	彭	2	後期	3年生以上限定	166	不可	
	ミクロ経済学上級講義2	北　原	2	後期	3年生以上限定	167		
	計量経済学上級講義2	（鹿 野）	2	後期	3～	168		
演習科目	基礎演習	朴　他	2	前期	1	45	不可	
	基礎演習(再履修クラス)	中村　健吾	2	後期	1	169		
	イノベーティブ・ワークショップ（課題探求演習）	中村健吾　他	2	前期	2年生限定	58		
		中島　他		後期	1年生限定	170		
	論文演習	中　嶋	2	前期	2年生以上限定	65		
		朴　他		後期	1～	180		
	専門演習3	朴　他	4	通年	3	66		
	専門演習3B	中村健吾　他	4	通年	3	80		
	専門演習4	朴　他	4	通年	4	92		
	卒業論文	朴　他	12	通年	4	117		
関連科目	教員免許（中学社会、高校公民・地歴・）取得のための「教科に関する科目」のうち商・法・文学部が提供する専門科目							
他学部提供専門科目	商学部：　専門外国語、プロジェクト・ゼミナール、テーマ・ゼミナール、経営学、経済学、会計基礎論、企業と法、各概論、商業科教育法Ⅰ、商業科教育法Ⅱを除く科目 法学部：　外国語演習、専門演習、法情報学、各発展科目、基礎演習を除く科目 ※　受講の際には、提供学部のシラバス・掲示を確認すること。							

担当者（　　）は非常勤講師、★は特任教員

（注）

1. 全学共通科目については、「全学共通科目シラバス・履修案内」を参照のこと。
2. 標準履修学年については、原則として遵守すること。
3. 全ての科目において受講生が多数の場合は受講制限されることがある。
4. 他学部提供の専門科目の受講については、提供学部のシラバス・時間割等を確認すること。
5. 定員50名程度。希望者が多数の場合は抽選。

経済学部専門科目　科目ナンバーについて

経済学部専門科目の科目ごとに附される、科目ナンバー（例.『近代経済学（マクロ経済学1)』 の科目ナンバーは“EAB1J2101”）は以下のとおり、分類されています。

上１、２桁	経済学部経済学科専門科目	EA
上３、４桁	科目分野	PR：入門科目 B1：基礎科目Ⅰ B2：基礎科目Ⅱ AP：応用科目 EX：演習科目
上５桁	講義で使用される主要な言語	J：日本語 E：英語
上６桁	推奨される履修開始のセメスターの位置	表１を参照
上７桁	難易度	0＝大学導入レベル 1＝学部１年レベル 2＝学部２年レベル 3＝学部３年レベル 4＝学部４年レベル 5＝大学院入門レベル
上８、９桁	科目識別ナンバー	

表１

学年	１回生		２回生		３回生		４回生	
開講期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
上６桁目	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**7**	**8**

OCU（Osaka City University）指標とは

本学での４年間の学修を通して、皆さんがどのように多様な学修成果を身につけたかが卒業時に問われます。OCU 指標は、これら多様な学修成果をどの程度身につけたかを視覚的にわかりやすい形で示す総合化指標です。

OCU 指標は、各授業科目で身につく内容を複数の学修成果に分解して数値化され、累積されていきます。学生の皆さんは、OCU 指標を利用することで、各学年の途中で現在の学修状況と自分が希望するキャリアのために身につけるべき学修成果を見比べて、今からどのような能力を身につけるべきかを考え、その足りない部分を補うためにどのような授業科目を履修すれば良いのか知ることができます。

科目ナンバーとの関連

それぞれの授業科目を修得することで身につける事が出来る学修成果の配分は、科目ナンバーごとに決められています。

学修成果の種類

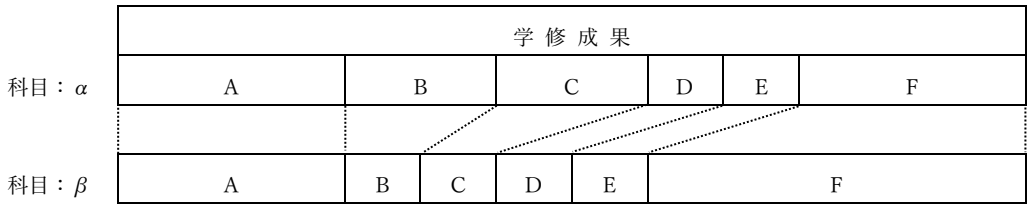
OCU 指標における学修成果は次の６つです。学修成果 A～E は全学共通、学修成果 F は経済学部独自の項目です。

学 修 成 果	内　容
A：論理的思考	修得した専門知識を、論理的な思考と柔軟な発想によって応用することができる
B：情報活用	多様な情報を収集・分析し、それらを日々の生活のなかで活用することができる
C：外国言語・文化	外国の言語と文化を学習・修得し、世界のさまざまな国・地域の人びとと意思疎通することができる
D：表現	分析の結果を、言語や記号を用いてわかりやすく表現することができる
E：社会貢献	グローバルな社会の一員であり、かつ地域社会の一員であることの自覚をもち、自らの知識・技能を活かして、（他者と協調して）社会の発展のために寄与することができる
F：複眼的構想力 （経済学部独自項目）	学修成果Ａ～Ｅを活用し、多様な見方を総合して、問題解決の新しい方途を複眼的に構想することができる

OCU 指標の計算例

各科目の OCU 指標は、科目ナンバーごとに定められた各学修成果の配分と成績評価（グレードポイント：GP）によって決まります。あらかじめ定められた学修成果の配分にしたがって GP が配分され、各学修成果の OCU 指標となります。

＜科目ナンバーごとの学修成果配分例＞



科目αの学修成果配分 A：B：C：D：E：F＝３：２：２：１：１：３

科目βの学修成果配分 A：B：C：D：E：F＝３：１：１：１：１：５

＜成績の差により身についた学修成果のイメージと OCU 指標算出方法の例＞

	学 修 成 果					
科目α：AA	A	B	C	D	E	F

（GP 4 ＝ A A の場合：成果配分の比率に従って 4/4 倍で累積される）

	学 修 成 果					
科目β：B	A	B	C	D	E	F

（GP 2 ＝ B の場合：成果配分の比率に従って 2/4 倍で累積される）

科目αで身についた学修成果 A の OCU 指標　3 /（3 ＋ 2 ＋ 2 ＋ 1 ＋ 1 ＋ 3）× 4 ＝1.0

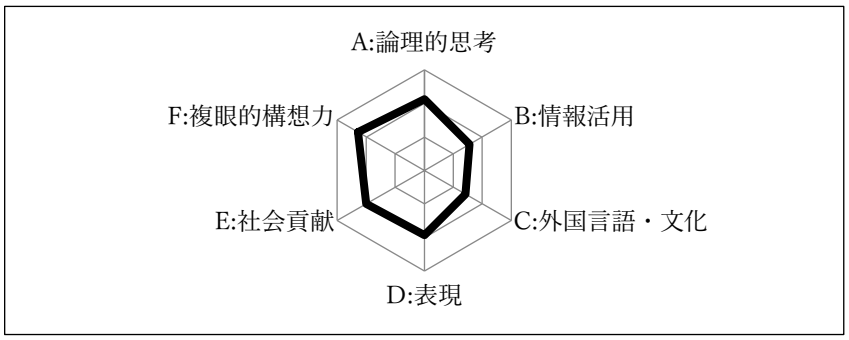
科目βで身についた学修成果 A の OCU 指標　3 /（3 ＋ 1 ＋ 1 ＋ 1 ＋ 1 ＋ 5）× 2 ＝0.5

レーダーチャートについて

学生の皆さんそれぞれの OCU 指標は、半期ごとにレーダーチャートで示されます。各学修成果の OCU 指標は、それまでに単位を修得した科目の学修成果の累計になります。

形については綺麗な六角形が理想ではなく、学部（学位プログラム）（または自身の希望するキャリア）によって様々です。自身のレーダーチャートは学修支援推進室にて常時確認することが出来ます。

OCU 指標レーダーチャートのイメージ



OCU 指標の成果配分

科目分野	科目 No.	A 論理的思考	B 情報活用	C 外国言語・文化	D 表現	E 社会貢献	F 複眼的構想力
入門科目（PR）	EAPRJ～	4	2	1	2	1	2
基礎科目Ⅰ（B1）	EAB1J～	3	3	1	2	1	2
基礎科目Ⅱ（B2）	EAB2J～	2	2	1	3	2	2
日本語で提供される応用科目（APJ）	EAAPJ～	2	2	1	3	2	2
英語で提供される応用科目（APE）	EAAPE～	1	2	3	2	2	2
応用科目のうちの上級講義（APJ5）	EAAPJ5～	2	2	1	2	2	3
演習科目（EX）	EAEXJ～	2	2	1	2	1	4

前 期 開 講 科 目

新型コロナウイルスの感染拡大状況により、授業方式（遠隔・対面）途中で変更になる場合があります。

授業コード	E000012010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	日本経済の論点		
英語科目授業名	Issues on the Japanese Economy		
科目ナンバー	EAPRJ1001		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	杉田　菜穂		
科目の主題	本講義は、経済学部1年次向けに提供される科目です。経済学部では、皆さんが経済学を理論・実証・歴史という様々な側面から体系的に学ぶことができるようなカリキュラムが組まれています。その経済学の学びの第一歩となるように、本講義では日本経済の様々な論点を取り上げて、みなさんの経済に対する問題関心を喚起することを目標とします。		
授業の到達目標	日本経済についての基本的な知識を習得することを目標とします。		
授業内容・授業計画	２人の担当者（松本、杉田）がオムニバス形式でそれぞれのテーマについて講義をします。松本担当の前半、杉田担当の後半について、それぞれの内容に関する小テスト（課題）が実施される、というサイクルを２回繰り返します。授業内容・計画の詳細は、各担当者の初回の講義で通知されます。 第１回_イントロダクション 第２回_松本：財政から日本経済を考える① 第３回_② 第４回_③ 第５回_④ 第６回_⑤ 第７回_松本担当・小テスト（課題） 第８回_杉田：暮らしから日本経済を考える① 第９回_② 第10回_③ 第11回_④ 第12回_⑤ 第13回_⑥ 第14回_杉田担当・小テスト（課題）		
事前・事後学習の内容	講義内で配布された資料や指定された参考書などについて、予習・復習をしてください。		
評価方法	各担当者の初回の講義で、講義の内容や小テスト（課題）に関する通知があります。小課題の成績（松本50点満点、杉田50点満点）の合計点により評価を行います。		
受講生へのコメント	オムニバス形式の講義なので、それぞれの講義について担当者の指示に従ってください。		
教材	テキストおよび参考書：必要に応じて、各担当者が講義中に指示します。		

授業コード	E000022010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	世界経済の論点		
英語科目授業名	Issues on the World Economy		
科目ナンバー	EAPRJ1002		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	日本の明治以降の経済発展を西欧諸国やアジア諸国と比較することが目的です。		
授業の到達目標	日本の経済発展の特殊性と普遍性を西欧諸国やアジア諸国と比較して明らかにすることが目標となります。		
授業内容・授業計画	①復習、②トピックスの説明、③新聞・雑誌記事等を使った現状の解説の3つのセクションにわけて授業を進行する予定です。復習のセクションでは小テストを行うことも考えています。 第１回_イントロダクション 第２回_近代経済成長の条件整備 第３回_近代経済成長の概観 第４回_工業化のなかの農業（1） 第５回_工業化のなかの農業（2） 第６回_工業化（1） 第７回_工業化（2） 第８回_資本形成とその源泉 第９回_外国貿易とその役割 第10回_人口と労働供給 第11回_労働市場と二重構造 第12回_財政と金融 第13回_物価と国民生活 第14回_財政と金融　近代経済成長の回顧と展望 定期試験		
事前・事後学習の内容	①授業で指示した参考書に目を通す、②授業の復習をしっかりする、ことが重要です。		
評価方法	定期試験の成績です。		
受講生へのコメント	特に私語には注意して下さい。		
教材	テキスト：特にありません。 参考書：授業中に指示します。		

授業コード	E021010010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	近代経済学（マクロ２）		
英語科目授業名	Modern Economics (Macroeconomics 2)		
科目ナンバー	EAB1J2106		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	経済全体の短期的な動きを概括するマクロ経済学の考え方を説明する。		
授業の到達目標	IS-LM分析を中心としたマクロ経済理論を修得するとともに、財市場と貨幣市場の相互作用を考慮に入れたうえで、財政政策や金融政策の効果を理解できるようになること。		
授業内容・授業計画	まず、消費と投資に注目しつつ財市場を取り上げ、次に利子率が重要な役割を果たす貨幣市場について説明する。そして、両市場の相互作用の中でGDP水準がどのように決まるかをIS-LMモデルにより説明する。財政政策・金融政策の効果を検討した後、さらにIS-LMモデルを拡張したマンデル・フレミングモデルを用い、輸出・輸入や資本移動を考慮して、GDP水準の決まり方について説明する。		
事前・事後学習の内容	授業前に前回講義内容を振り返り、頭の中で議論の流れが繋がるよう準備する。講義内容が明瞭に記憶に残っているうちに、自分でノートを整理しておくとよい。		
評価方法	最終レポート100%。		
受講生へのコメント	遠隔授業である。WebClassから毎回の講義資料にアクセスし、自分なりの書き込みをしたノートを作れば理解が進む。		
教材	テキスト：特になし。 参考書：授業中に適宜指示する。		

授業コード	E021020010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	近代経済学（ミクロ２）		
英語科目授業名	Modern Economics (Microeconomics 2)		
科目ナンバー	EAB1J2107		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	ミクロ経済学の分野のうち、生産者の行動、市場均衡そして不完全競争を取り扱う。生産者の行動においては、費用関数および生産関数を用いて企業の利潤最大化行動を取り扱う。市場均衡においては、一般均衡分析と部分均衡分析を取り扱う。不完全競争については、独占とクールノー均衡を取り扱う。		
授業の到達目標	以下の能力を身につけることを目標とする １　生産者の行動については、企業の利潤最大化行動と参入退出による産業均衡について説明できるようになること。 ２　市場均衡については、一般均衡分析においてはパレート効率的配分の、部分均衡分析においては余剰分析の概念を説明できるようになること。 ３　不完全競争については、独占とクールノー均衡について説明できるようになること。		
授業内容・授業計画	第１回_はじめに：取り扱う範囲の概説 第２回_生産者の行動：生産関数と費用関数 第３回_生産者の行動：短期費用関数 第４回_生産者の行動：短期における企業行動 第５回_生産者の行動：短期における産業 第６回_生産者の行動：長期費用関数 第７回_生産者の行動：長期における企業行動 第８回_生産者の行動：長期における産業 第９回_一般均衡分析：消費 第10回_一般均衡分析：生産 第11回_一般均衡分析：生産と消費 第12回_部分均衡分析 第13回_独占と寡占 第14回_生産要素市場		
事前・事後学習の内容	事前には、教科書の取り扱い範囲を読むこと。事後には、講義中に作成したノートをもとに理解を深めること。		
評価方法	到達目標１～３の達成度で評価を行う。 単位を取得するためには、講義で紹介したテクニカルタームを適切に用いて、60%以上の内容を説明できることが求められる。計算問題が出題された場合には、あわせて60%以上の正答率が求められる。 成績を評価する手段としては、期末レポートを用いる。課題提示、提出はwebclass経由で行う。		
受講生へのコメント	事前に指定された教科書の該当範囲を、講義前・後に読むこと。 講義中は、板書を写す時間をとるので、手を動かして記憶を確かなものにすること。		
教材	テキスト：西村和雄「ミクロ経済学入門(第3版）」岩波書店 参考書：なし		

授業コード	E021131010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	政治経済学Ⅱ		
英語科目授業名	Political EconomyⅡ		
科目ナンバー	EAB1J2108		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	塩谷　昌史		
科目の主題	政治経済学Ⅰでは、資本主義を理解するための基礎的な概念と、資本主義社会の長期的な発展・変容を学びました。この政治経済学Ⅱでは、資本主義の社会・経済システムを「技術」という視角から考えることにします。		
授業の到達目標	本講義では、近年欧米で話題になっているS.ズボフ『監視資本主義の時代』(The Age of Surveillance Capitalism)（未邦訳）の内容を中心に制度に、資本主義の社会・経済システムにおける「技術」についての皆さんの理解を促したいと思います。そのことをとおして、資本主義社会の構造的な変容を説明するうえでの、手がかりをつかんでほしいと思っています。		
授業内容・授業計画	講義は、以下の順序で進行します。 第１回　イントロダクション 第２回　Home or Exile in the Digital Future 第３回　August 9, 2011: Setting the Stage for Surveillance Capitalism 第４回　The Discovery of Behavioral Surplus 第５回　The Moat Around the Castle 第６回　The Elaboration of Surveillance Capitalism: Kidnap, Corner, Compete 第７回　Hijacked: The Division of Learning in Society 第８回　Two Species of Power 第９回　Big Other and the Rise of Instrumentarian Power 第10回　A Utopia of Certainty 第11回　The Instrumentarian Collective 第12回　Of Life in the Hive 第13回　The Right to Sanctuary 第14回　A Coup from Above		
事前・事後学習の内容	授業中に紹介する、政治経済学に関する古典的なテキストや現代の重要なテキストを、授業の前と後に参照することを勧めます。		
評価方法	学期末試験の成績により評価を行ないます。		
受講生へのコメント	科学技術の進歩と経済制度の変容は、密接に関わっています。本講義では、『監視資本主義の時代』の内容に基づき、科学技術の進歩と資本主義の変容について理解してもらいたいと思っています。		
教材	Zuboff, Shoshana, The Age of Surveillance Capitalism, The Fight for A Human Future at the New Frontier of Power, Profile Books, 2019.		

授業コード	E021200010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	経済数学		
英語科目授業名	Mathematics for Economics		
科目ナンバー	EAB1J2104		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	廣野　誠		
科目の主題	この授業の目的は，経済学を学んでいくために必要な基礎的な数学を学ぶことにある.		
授業の到達目標	この授業を履修することで，経済学に必要な基本的な数学を習得し，経済学で利用できるになることを目標とする.		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔で実施する. 第１回_1次関数・2次関数と市場分析 第２回_指数・対数と金利計算 第３回_数列の極限と微分の定義 第４回_微分の公式 第５回_関数の増減と最適化の条件 第６回_最適化の例：利潤最大化の条件 第７回_積分の定義 第８回_微積分の基本定理と積分計算の例 第９回_確認テスト 第10回_確率の基礎 第11回_確率変数と期待値 第12回_確率分布 第13回_多変数の確率分布 第14回_確認テスト 定期試験		
事前・事後学習の内容	各授業の前後に90分程度の予習・復習を行うことが望ましい.		
評価方法	期末試験（100%）＋確認テスト（点数調整）		
受講生へのコメント	オフィスアワーは，授業内で指定する.		
教材	テキスト： 参考書：尾山大輔・安田洋祐『改訂版 経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』日本評論社		

授業コード	E022510010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	経済学説史特殊講義		
英語科目授業名	Special Lecture on History of Political Economy		
科目ナンバー	EAB2J3251		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	この講義では、資本主義や市場経済の動態とそれが抱える問題を長期的な歴史的展望のもとに把握した経済学思想家を取り上げる。今年度は、ポスト新自由主義時代の思想家として現在も注目を集めている、カール・ポランニー(1886-1964)の経済学説-時代背景・生涯・思想形成-を学びます。		
授業の到達目標	カール・ポランニーの経済学説について理解を深める。		
授業内容・授業計画	大まかな予定は以下の通り。 第１回_イントロダクション 第２回_カール・ポランニーの時代と生涯①ヨーロッパの辺境ハンガリーの後進性と民族問題 第３回_カール・ポランニーの時代と生涯②思想形成と世界史的事件 第４回_カール・ポランニーの思想形成①　ハンガリーの「共産主義」とウィーンの「社会主義」 第５回_カール・ポランニーの思想形成②　オーストリアの「経済的自由主義」とオーストリア・ファシズム 第６回_『大転換』を読む①　ポランニーのファシズム理解 第７回_『大転換』を読む②　産業革命の人間社会への衝撃（居住の破壊と救貧論争） 第８回_『大転換』を読む③　人間・自然・生産組織を市場に従わせる制度（商品擬制） 第９回_『大転換』を「離れて」読む①　「社会的共通資本」と「コモン」 第10回_『大転換』を「離れて」読む②　「脱商品化」と「再商品化」 第11回_『大転換』を読む④　市場経済の拡張　対　社会の自己防衛（二重運動） 第12回_晩年のプロジェクト①ガルブレイスの「アメリカ資本主義批判」を読む 第13回_晩年のプロジェクト②経済効率至上主義と産業文明に無防備すぎると、人間と地球は壊れてしまう（産業文明と自由の砦） 第１４回_総括		
事前・事後学習の内容	①教材や資料をWebclassにアップするので、それを小まめにダウンロードし内容理解に努めること。 ②理解が不十分と認識したり説明をしてほしいと思う点があれば、Webclassから質問してください。 ③教材で「考えてみよう」「調べてみよう」と書かれている点については、実践してください。 ④各回の教材について、自分の言葉で要点をまとめてみよう。 ⑤①～④の蓄積が活きるような、期末レポート課題をつくります。どんなレポート課題がふさわしいかについても、Webclassから提案してください。 ⑥資料配信を中心に行いますが、質疑の時間（学生同士、教員と学生）を双方向で行う機会を何度か設けたいと思っています。この点については詳細が決まり次第、Webclassで連絡します。		
評価方法	期末レポートによって評価する。なお、期末レポートの評価に、授業態度（Webclassへのアクセス状況や小課題への対応など）への評価が反映されるように、課題や設問を設定する。		
受講生へのコメント	①この授業は、今年度については、オンラインで実施することになります。Webclassを連絡・教材の共有手段として使用します。 ②オンラインで対応できるよう、協力をお願いします。 ③わからないことがあれば、質問してください。 ④積極的な参加を期待します。		
教材	①テキスト（これは各自入手してください。教材とともにテキストを利用します） 若森みどり『カール・ポランニーの経済学入門』平凡社新書 ②参考文献（以下、いくつか挙げておきます。授業のなかで、さらに紹介する予定です） ギャレス・デイル『カール・ポランニー伝』平凡社 若森みどり『カール・ポランニー―市場社会・民主主義・人間の自由』NTT出版 カール・ポラニー『[新訳 大転換』東洋経済新報社 カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店 カール・ポランニー『現代に生きるカール・ポランニー』大月書店 ミルトン・フリードマン『資本主義と自由』日経BP社 ジョン・ケネス・ガルブレイス『ゆたかな社会』岩波書店 宇沢弘文『社会的共通資本』岩波新書 斎藤幸平『人新世の「資本論」』集英社新書 ジャン＝ルイ・ラヴィル、ホセ・ルイス・コラッジオ『21世紀の豊かさ』コモンズ		

授業コード	E022530010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	社会思想史特殊講義		
英語科目授業名	Special Lecture on History of Social Thought		
科目ナンバー	EAB2J3252		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	この講義では、シティズンシップの諸権利から区別される「人間の権利」に関するもろもろの哲学的な基礎づけの試みを検討する。		
授業の到達目標	物事を根本から考えてみる姿勢を養うとともに、「人権」という特定の主題に絞った思想の歴史を学んでもらう。		
授業内容・授業計画	【授業内容】 　ヨーロッパの思想史において人間の尊厳と権利は、「人格」の概念と密接に関連づけながら論じられてきた。「人格」という語の語源は、「仮面」を意味していたラテン語のpersonaにある。それは、生身の人間、あるいは単なる人間を道徳および法-権利の世界へと引き入れるためのカテゴリーとして機能してきた。私たちは、権利と尊厳の主体となるためには単なる人間にとどまり続けることはできず、「人格」という仮面をかぶらなければならないし、その仮面に描かれた人為的な顔を周囲の人びとからそれとして承認してもらわなければならなかった。 　講義では、シティズンシップと人権との区分から話を始めて、「人格」の概念の変遷、自然権が人権へと転化していく過程、「尊厳」の概念の基礎の変更と拡張などのトピックを、重要な哲学者たちの著作に沿って論じることにする。		
事前・事後学習の内容	講義中に言及する思想史の古典的テキストを自分で読んでみることを求める。		
評価方法	学期末試験の成績によって成績を評価する。		
受講生へのコメント	受講生には、講義ノートを丁寧にとることを求めたい。また、私の講義内容に対する受講生諸君の疑問と批判を歓迎する。		
教材	この講義では教科書を用いないが、以下の文献を参考書とする。 田上孝一編著『権利の哲学入門』社会評論社、2017年。 中村健吾「人権の思想史 断章」、『経済学雑誌』第112巻 別冊（後期）講義資料、2011年10月。 中村健吾編著『古典から読み解く社会思想史』ミネルヴァ書房、2009年（とくに第１章、第２章、第８章、第９章）。		

授業コード	E022040010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	統計解析論		
英語科目授業名	Statistical Analysis		
科目ナンバー	EAAPJ4207		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	数理統計学の経済学への応用において最も重要な線形回帰分析を学ぶ。 　実は、数理統計学の初歩として多くの教科書に載っている平均の検定、平均差の検定、分散分析なども、線形回帰分析の一特殊例である。従って、線形回帰分析ができれば、これらの特殊例を強いて独自に学ぶ必要は無い。本講義では、あくまでも特殊例としてこれらも説明する。 なお、新型コロナ感染症の流行状況によってオンライン授業になる可能性がある。		
授業の到達目標	本講義の目標は、線形回帰分析の意味、結果の解釈、様々な応用への適用ができるようにすることである。 分析のためのツールとしてはMicrosoft Excelを想定する。		
授業内容・授業計画	教科書にそって説明していく。 第１回_イントロダクション 第２回_相関と回帰（1　回帰係数）　教科書4.1 第３回_相関と回帰（2　単回帰　最小二乗法）　教科書4.2の前半 第４回_相関と回帰（3　回帰の適合度、回帰による予測、関数形）　教科書4.3、4.4 第５回_回帰分析の統計理論（1　重回帰とはなにか）教科書11.4.1 第６回_回帰分析の統計理論（2　偏相関係数と重回帰）　教科書4.2.6 第７回_回帰分析の統計理論（3　重回帰の適合度とモデル選択）教科書4.4.2,4.4.3 第８回_回帰分析の統計理論（4　線形回帰に関する統計学）教科書11.1 第９回_回帰分析の統計理論（5　係数の信頼区間、係数に関する検定）教科書11.2、11.3 第10回_回帰分析の統計理論（6　重回帰の諸問題）教科書11.5 第11回_応用：平均の検定、平均差の検定 第12回_応用：相関係数の検定、独立性検定 第13回_応用：比率の検定、比率差の検定 第14回_ダミー変数の様々な設定法 定期試験（新型コロナ感染症の流行状況によって課題の提出となる場合がある）		
事前・事後学習の内容	基礎・経済統計の履修が望ましい。予復習を行うこと。		
評価方法	定期試験による.ただし,客観的に本講義修了レベルの到達度が証明できる場合は,相応の成績で単位を与える. なお、新型コロナ感染症の流行状況によって提出された諸課題による評価となる場合がある		
受講生へのコメント	線形回帰分析を使って身近なデータを分析しよう！		
教材	テキスト：森棟他（2015）『統計学（改訂版）　＜NLASシリーズ＞』		

授業コード	E032010010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	計量経済学		
英語科目授業名	Econometrics		
科目ナンバー	EAAPJ4208		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	データ分析・計量経済学の基本的な考え方について、初学者に向けて講義します。		
授業の到達目標	データを正しく読み解くために重要な考え方や技術を理解する。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔方式により実施する予定です。 以下の講義計画は状況を見て変更する可能性があります。 第１回 ガイダンス・因果効果とは何か? 第２回 ランダム化対照実験 第３回 実験・自然実験の例 第４回 回帰分析① 第５回 回帰分析の例 第６回 回帰分析② 第７回 回帰分析③ 第８回 回帰分析④ 第９回 差分の差分法 第10回 パネルデータ分析 第11回 回帰不連続デザイン 第12回 操作変数法 第13回 イベント分析 第14回 二段階最小二乗法		
事前・事後学習の内容	講義の内容を復習するために練習問題を数回出題する予定です。		
評価方法	中間レポートと期末試験の成績に基づいて評価する予定です。		
受講生へのコメント	講義資料や連絡事項をWebClassにアップするので、各自定期的に確認するようにしてください。		
教材	教科書 Joshua D. Angrist and Jorn-steffen Pischke (2014) Mastering 'Metrics: The Path from Cause to Effect, Princeton University Press. 参考文献 1. 中室牧子・津川友介 (2017) 『原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法 』ダイヤモンド社 2. 伊藤公一朗 (2017) 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法 (光文社新書)』光文社 3. 山本勲 (2015) 『実証分析のための計量経済学』中央経済社		

授業コード	E032030010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	経済情報論		
英語科目授業名	Economic of Information		
科目ナンバー	EAAPJ4210		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	上田　智巳		
科目の主題	この講義の主題は、わたしたち人間の意思決定である。 意思決定とは、端的に言えば、「複数の選択肢の中から一つを選ぶこと」である。そのプロセスは、各選択肢の価値の評価、比較等を含む、一連の情報処理過程とみなせる。 意思決定に関係する学問分野は多いが、経済学もその一つである。その経済学では、伝統的に、人間は完全に合理的であると仮定されてきた。しかし、認知心理学などの分野において、わたしたちの意思決定行動にかんする実証的な研究が積み重ねられた結果、わたしたちの意思決定は必ずしも合理的ではないことが明らかになった。また、合理的な意思決定からどのように逸脱しているかについて、一定の傾向があることも見いだされた。 この講義では、わたしたちの意思決定に関して実証的研究が明らかにしてきたことについて解説する。また、実証的研究の成果を反映させた、意思決定情報処理のモデルについても検討する。		
授業の到達目標	わたしたち人間の意思決定の特徴、傾向（わたしたちはどのように合理的でないのか）が理解できる。また、それらを踏まえた意思決定過程のモデルが理解できる。		
授業内容・授業計画	● 授業内容 この授業は遠隔により実施する。授業日当日までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めること。WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。 ● 授業計画 第01回： この講義の概要 第02回： 意思決定とは 第03回： プロスペクト理論 第04回： 限定合理性、二重過程理論 第05回： ヒューリスティック 第06回： フレーミング効果 第07回： 異時点間選択 第08回： 社会的選好 第09回： 集団における判断・意思決定 第10回： 地域・文化による判断や意思決定の傾向の違い 第11回： 多属性意思決定 第12回： 幸福感 第13回： 意思決定に対する処方的アプローチ 第14回： まとめ 定期試験		
事前・事後学習の内容	各回の講義において、その内容を深く理解するには、それまでの回の講義内容を理解しておくことが必要である。したがって、各回の授業前には、必要に応じて、前回までの内容を再度確認しておいてもらいたい。		
評価方法	小テスト（50%）および定期試験（50%）によって評価する。 小テスト、定期試験ともに、遠隔にて（WebClass上で）実施する。		
受講生へのコメント	(1) 質問がある場合は、WebClassの「質疑応答」を利用してほしい（質疑応答の進め方は「学生向け遠隔講義入門」の「質疑応答について」を参照してください）。あるいは、WebClassの「メッセージ」を利用してもよい。 (2) この講義で扱う内容は、行動経済学、認知心理学、社会心理学などの研究領域に関係するものである。科目名には「経済」という語が含まれているが、必ずしも経済学の分野に限定せず、私たちの意思決定一般について検討していきたい。		
教材	教科書は用いない。 毎回、授業資料を配布する（WebClassにアップする）。		

授業コード	E022080010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	財政学		
英語科目授業名	Public Finance		
科目ナンバー	EAAPJ4217		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	松本　淳		
科目の主題	現代の財政制度やその課題、そして改革の方向といったことを総合的に理解することは大変難しい。それは、現代の財政が複雑化していると同時に、財政学の理論も近年、多様となっているためである。本講義では、この複雑化した財政をできる限り理解してもらうために、財政理論、財政の歴史、そして財政制度に関するトピックスというように一方向に偏らない講義を心がける。		
授業の到達目標	本講義における到達目標は、まずは財政学に関する基礎知識を身につけてもらうことである。しかし、知識を身につけるだけにとどまらず、財政に対する興味・関心を受講後も持ち続けてもらうこと、また、財政について「自分の頭で考える」きっかけを作ることも目標とする。		
授業内容・授業計画	毎回の講義ではレジュメおよび資料を共有しながら講義を進める。 第１回_本講義の趣旨・問題意識の確認とガイダンス 第２回_財政学とは何を考える学問か？ 第３回_政府の必要性についての財政理論 第４回_資源配分調整機能についての財政理論 第５回_所得再分配機能についての財政理論 第６回_経済安定化機能についての財政理論 第７回_日本財政の歴史（高度成長期の財政史） 第８回_日本財政の歴史（オイルショックから臨調行革までの財政史） 第９回_日本財政の歴史（バブル景気からバブル崩壊まで） 第10回_日本財政の歴史（平成不況の始まり） 第11回_日本財政の歴史（小泉改革から政権交代まで） 第12回_日本財政の歴史（リーマン・ショックから現在まで） 第13回_トピック１　土建国家という日本独特の公共事業 第14回_トピック２　生活保障とセーフティネットについて 定期試験		
事前・事後学習の内容	毎回の講義の最後に、簡単に次回の講義のあらすじを伝えるので受講者は事前に関心のある文献を読むと理解が深まると思われる。また、毎回の講義後は配布（アップロードされた）レジュメと資料を復習しておくこと。		
評価方法	学期末の試験により評価する（レポートになる可能性もあるので、その際には随時連絡します）。持ち込みは不可とする。		
受講生へのコメント	講義では、一方的なものとならないように、受講する学生に目を配りながら、時には質問をすることもある。ぜひ恥ずかしがらずに答えてもらいたい。		
教材	テキスト：特になし 参考書：特になし		

授業コード	E022140010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	環境経済学		
英語科目授業名	Environmental Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4219		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	野村　魁		
科目の主題	経済成長とともに深刻化しているとされる環境問題について理解を深める。また、環境問題の原因と解決のために、企業や家計、政府という経済主体がおのように行動するのかを経済学の視点から理解する。		
授業の到達目標	経済学の視点・枠組みを用いて様々な環境問題を捉えることができるようになる。日本の環境政策・制度およびそれらの問題点を理解、必要とされる政策について理解を深める。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔（標準手順：発展）により実施する。授業日当日までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めること。WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。 第１回_イントロダクション（環境経済学とは） 第２回_需要曲線と供給曲線 第３回_市場取引 第４回_市場の均衡と余剰分析 第５回_市場の失敗①（外部性と公共財） 第６回_市場の失敗②（社会的費用と余剰分析） 第７回_市場の失敗と解決 第８回_政策手段の選択 第９回_政府の失敗 第10回_排出権取引制度 第11回_コースの定理①（利用権の設定） 第12回_コースの定理②（取引費用の存在） 第13回_環境価値評価 第14回_費用便益分析 定期試験		
事前・事後学習の内容	事前にアップロードする資料を用いて予習して、わからない点を明確にしてください。小テストを行う際には事前に告知するので、復習を怠らないでください。		
評価方法	小テスト(30%) レポート(70%) 小テスト、レポートともにWebClassへ提出してください。		
受講生へのコメント	ミクロ経済学を事前に履修していることが望ましい。		
教材	テキスト：特に指定しない 参考書：栗山浩一、馬奈木俊介『環境経済学をつかむ』有斐閣、2020年 日引聡、有村俊秀『入門　環境経済学-環境問題解決へのアプローチ-』中公新書、2002年		

授業コード	E022090010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	金融経済論		
英語科目授業名	Monetary Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4220		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	ミクロ経済学１・２及びマクロ経済学１・２の知識を前提に、金融経済論の基礎を学ぶ。		
授業の到達目標	金融経済論の基礎知識を習得し、金融問題や経済問題について経済学的に考える力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔（標準手順：基本）により実施する。授業日当日までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めること。WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。 「利子率」、「金融危機と信用秩序維持政策(プルーデンス政策)」、「デリバティブ(金融派生商品)」を中心に、金融経済論を学ぶ。 第１回_金融取引と利子率決定理論 第２回_利子率の期間構造 第３回_名目利子率と実質利子率 第４回_債券市場の利子率 第５回_金融危機と金融行政(1)昭和金融恐慌 第６回_金融危機と金融行政(2)金融自由化 第７回_金融危機への対応 第８回_自己資本比率規制 第９回_預金保険制度(1)預金保険制度 第10回_預金保険制度(2)預金保険制度の問題点 第11回_サブプライム・ローン問題 第12回_先物取引 第13回_オプション 第14回_スワップ		
事前・事後学習の内容	前回の授業内容を復習しておくこと。 次回の授業テーマについて調べておくこと。		
評価方法	遠隔(WebClass)での10回の小テストで評価する予定です。		
受講生へのコメント	質問がある場合は、教材一覧から「質疑応答」を選択して行ってください。質疑応答の進め方は「学生向け遠隔講義入門」の「質疑応答について」を参照してください。 微分を用いた計算ができ、条件付き最大化(最小化)問題が解けることを前提に授業を行います。		
教材	テキスト：使用しない。 参考書：特になし。		

授業コード	E034060010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	空間経済学		
英語科目授業名	Spatial Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4239		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	われわれの経済活動において，空間や距離が持っている重要性を理解する．また，企業や家計（労働者）といった経済主体の移動や立地がどのように決まるかを，経済学の視点から理解する．		
授業の到達目標	（1）われわれの経済活動において空間や距離がなぜ重要性か （2）各経済主体の移動や立地がどのようなメカニズムで決まるか について経済学の観点から理解し，これらに関わる政策の是非等について考える力を身に付ける．		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔（標準手順：発展）で行うことを基本とする．ただし，試験については学内で行う予定である（詳細は授業内で連絡する）． 授業日当日までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上，受講を進めること．WebClassでの受講にあたっては，WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと． 第１回_イントロダクション 第２回_余剰分析の復習1 第３回_道路事業の厚生評価 第４回_余剰分析の復習2 第５回_アメニティの評価 第６回_アロンゾの住宅立地モデル1 第７回_アロンゾの住宅立地モデル2 第８回_中間試験 第９回_開発規制の効果分析 第10回_コンパクトシティと都心居住 第11回_ホテリングの空間競争モデル1 第12回_ホテリングの空間競争モデル2 第13回_都市はなぜ存在するか1 第14回_都市はなぜ存在するか2 期末試験		
事前・事後学習の内容	事前の学習：WebClassに事前にアップする資料を読んでくる． 事後の学習：講義で習ったことをよく復習しておく．		
評価方法	中間試験・期末試験によって評価する．		
受講生へのコメント	ミクロ経済学，経済数学（微積分，最適化など）を事前に学習していることが望ましい．		
教材	テキスト：特に指定しない． 参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	E047310010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	産業組織論		
英語科目授業名	Industrial Organization		
科目ナンバー	EAAPJ4229		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	産業組織に関わるミクロ経済学的分析に触れる。		
授業の到達目標	企業行動について、ミクロ経済学的（特に、ゲーム理論的）な視点を持てる様になる。また、数値例でそれを確かめられる様になる。		
授業内容・授業計画	講義形式で行う。 第1回 ガイダンス 第2回 完全競争 第3回 寡占：数量競争 第4回 寡占：価格競争 第5回 2～4回補論 第6回 価格差別 第7回 垂直的関係 第8回 製品差別化 第9回 6～8回補論 第10回 広告 第11回 ネットワーク外部性 第12回 研究開発第 13回 参入・退出 第14回 10～13回補論 定期試験		
事前・事後学習の内容	ガイダンス時に指示する。		
評価方法	期末試験によって行う。		
受講生へのコメント	講義用HP（4月開設予定）：http://www.econ.osaka-cu.ac.jp/kitahara/io/2021io.htm		
教材	＜参考書＞ Belleflamme, P. and Peitz, M. (2015) Industrial Organization: Market and Strategies, 2nd ed., Cambridge University Press.（書籍HPにてスライド版無料ダウンロードサービスあり。） 花園誠（2018）『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣		

授業コード	E033090010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	国際経済学		
英語科目授業名	International Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4230		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	先進国・中進国・途上国に分類したとして、貿易と金融のグローバル化はそれぞれの社会・経済にとって今後ますます重要な役目を果たすであろう。自由貿易と為替レートの変動がスタンダードになりつつある昨今，とりわけ中進国や途上国では保護貿易や為替の安定を議論する声も根強い。 国際経済についての議論を様々な角度（経済理論）から検証することが本講義のねらいである。		
授業の到達目標	貿易と金融の両面を適宜融合させて，昨今の国際経済事情について理解を深めることが最大の目標となる。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔（標準手順：発展）により実施する。授業日当日までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めること。WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。 基本的には講義形式が中心であるが，講義のテーマによっては討論を求める。なお，図表などを用いた解説をおこなうこともあるが，高度な数学的解説は用いないよう配慮する。 第１回_イントロダクション 第２回_国際収支 第３回_国際資本移動 第４回_貿易理論 第５回_貿易収支と実質為替レート 第６回_貿易収支と為替レート政策 第７回_前半のまとめ 第８回_バラッサ＝サミュエルソンの定理 第９回_金利平価 第10回_オーバーシューティングモデル 第11回_国際金融のトリレンマ 第12回_経済政策の効果 第13回_開発経済学（双方向オンライン、録画配信） 第14回_国際経済を考える（双方向オンライン、録画配信） 定期試験		
事前・事後学習の内容	ノートを再度まとめ，復習することが望ましい。		
評価方法	中間テスト30%　期末試験（またはレポート）70%		
受講生へのコメント	講義中のディスカッションには積極的に参加して欲しい。		
教材	テキストは使用しない。参考文献は講義中に指示する。		

授業コード	E006140010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	世界経済論		
英語科目授業名	World Economy		
科目ナンバー	EAAPJ4242		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	資本制の成立期以来の世界経済の動態を捉えることで、学生諸君の世界認識の参考にしてもらいたいと思います。		
授業の到達目標	現代世界経済に対する理解を深め、そこで獲得した認識・センスを在学中の研究活動や卒業後の人生に活かすことができること。		
授業内容・授業計画	まず西洋経済史を主体として経済史を概観して、資本制という社会システムに関する理解を深めます。ついで世界経済の段階区分を行い、さらに現代世界経済の総体的な把握へと進みます。		
事前・事後学習の内容	テキストの該当箇所を事前に下読みし、事後には再読して理解を深めるとよいでしょう。		
評価方法	定期試験を主体とするが、講義中で随時、主題を示してその場でエッセイを書いてもらうことがあります。 授業中の課題30%、定期試験70%の予定。		
受講生へのコメント	諸君は世界を観る眼鏡を持っていないと思います。この講義では担当者の世界観を提示し、１つの眼鏡を提供しますので、のちのち自分なりの眼鏡を作る参考にしてください。		
教材	拙著『グローバリゼーションの政治経済学 第三版』（同文舘出版，2017年第2刷）		

授業コード	E038040010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	東南アジア経済論		
英語科目授業名	Southeast Asian Economy		
科目ナンバー	EAAPJ4240		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	東南アジア各国を経済面、社会面、文化面から多角的に分析する。		
授業の到達目標	東南アジア地域の経済発展とそれに伴う社会や文化の変容について理解を深めることを目的とする。		
授業内容・授業計画	本講義では、東南アジア地域の経済を政治制度・経済制度・文化・社会などから多角に分析する。 その中で主要な開発経済学の理論も紹介する。東南アジア全体の産業政策、都市化、教育の発展の経緯を鑑みた上で、各国の経済をより詳細に考察する。域内格差、所得格差、貧困問題、といった旧来からの論点に加え、近年、ますます重要になってきている環境問題、中国との結びつき、ジェ ンダーの観点からも東南アジア各国経済を検討する。		
事前・事後学習の内容	授業後に配布資料を用いて復習すること。授業中に指示する参考文献も読んでください。		
評価方法	レポート35%期末試験65%		
受講生へのコメント	授業中に与えるテーマに関して小レポートを作成・提出してもらいます。		
教材	テキスト：特になし。 参考書・参考資料等渡辺利夫編（2009）『アジア経済読本（第４版）』東洋経済新報社Witt, M.A. & G. Redding eds. (2014) The Oxford Handbook of Asian Business Systems, Oxford University Press.		

授業コード	E038050010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	関西経済論		
英語科目授業名	Kansai Economy		
科目ナンバー	EAAPJ4241		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	木下　祐輔		
科目の主題	皆さんは「関西」についてどれだけ知っていますか。本講義では，我々に最も身近な地域である大阪・関西について，その成り立ちや現状と課題，それを克服するための処方箋を学びます。加えて，単なる出来事や用語の紹介にとどまらず，背景となった経済的・社会的な要因まで踏み込んで解説します。 2019年12月以来の新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大は現在も収束が見えず，緩やかに拡大を続けてきた世界経済は後退しました。日本経済も感染拡大により，経済成長予測は大幅な下方修正を余儀なくされました。関西経済も大きな打撃を受けています。ここ数年関西経済を牽引してきたインバウンド(訪日外国人)消費は入国規制により蒸発しました。加えて，感染抑止のための休業要請，営業時間の短縮などで飲食店を中心に倒産が相次いでいます。 しかし，ここで立ち止まるわけにはいきません。関西には，医療・医学，製薬業の長い歴史と大学と研究機関の集積があり，いくつもスタートアップ企業が生まれています。インバウンドも同様です。今こそ外国人だけでなく地域住民も共存できる戦略構築に取り組む好機でしょう。大規模なスポーツイベントではデジタル化を活用し，新たな動きも見られます。そして，何より55年ぶりとなる大阪・関西万博が後4年に迫っているのです。この講義では，多くの世界初を生み出してきた関西のイノベーションを振り返るとともに，コロナ禍を乗り越え，関西経済の未来を切り拓くヒントを皆さんと一緒に考えていきたいと思います。		
授業の到達目標	以下の３点を本講義の到達目標とします。 (1)全国と比べた関西の特徴，強みや弱みを説明できる (2)関西経済が抱える課題とその解決策について説明できる (3)一つでも多く関西の良いところを知り，履修前よりも関西を好きになる		
授業内容・授業計画	講義は全て遠隔(発展：オンデマンド動画配信)で行います。 全14回の講義のうち，前半は歴史や他地域との比較を通じて大阪・関西経済を概観し，データを使って関西経済が抱える課題について解説します。後半は教科書に基づき，関西経済に関するトピックスを解説します。最新の情勢を基に講義を進めますので，これから社会に出る皆さんが最低限知っておくべき内容が講義を受けることで自然に身に着けられるでしょう。 また，現実経済に関心を持ってもらうために，毎回10分程度，関西経済や企業，就職に関する最新の経済ニュースを紹介し，記事を読むポイントを解説します。ぜひ「批判的な目で」聞き，皆さんなりの見方を身に着けてください。		
事前・事後学習の内容	講義はレジュメと動画を用いて行います。講義後半では教科書の内容に従って行うため，教員が事前にアナウンスする該当箇所を通読した上で動画を視聴してください。講義後はできれば当日に復習を行うとともに，講義中に気になった単語や内容について，必ず自分で調べる手間を惜しまないでください。また，A4用紙半分くらいで講義の内容をまとめておくと，社会に出てから必要な要約力が鍛えられるでしょう。		
評価方法	主に期末試験(WebClassで実施)で評価します。講義で取り上げるトピックスは受講者の関心に合わせて変える予定なので，WebClass上で実施するアンケートで自分が聞きたい内容をリクエストしてください(2回程度)。記載内容も最終評価に反映させますので，しっかりと取り組んでください。		
受講生へのコメント	皆さんは社会に出ると多くの場面で「選択」を迫られます。後悔しない選択肢を選ぶためには，広く学び，自らの頭で考えることが必要です。全14回の講義を通じて身に着けた分析力や観察力は，就職活動で企業や業界の現状や先行きを考えるだけでなく，社会に出てからも調査力・企画力・提案力として必ず役に立つはずです。 この講義での学びが皆さんの視野や可能性を広げ，将来社会に出ても役立つ「生きた知識」にしてもらえるように。関西について知りたい全ての人の受講を歓迎します。		
教材	○テキスト： ・アジア太平洋研究所，『アジア太平洋と関西-2020年版関西経済白書』，日経印刷株式会社，2020年9月。 ○参考書： ・宮本又郎，『商都大阪をつくった男 五代友厚』，NHK出版，2015年。 ・橋爪紳也，『1970年大阪万博の時代を歩く』，洋泉社，2018年。		

授業コード	E045010010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	労働経済論特殊講義		
英語科目授業名	Special Lecture on Labour Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4271		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	黒田　雄太		
科目の主題	労働経済学について、理論・実証双方の観点から総合的に議論する。 現実のデータおよび最新の研究を概観しながら、日本が抱える労働問題の現状と課題について学ぶ。		
授業の到達目標	①労働経済学の基本的な理論を理解し、現実の問題・データを経済学的に解釈できるようになる。 ②日本の労働環境における問題点およびその解決策について議論できるようになる。		
授業内容・授業計画	この授業は原則として遠隔授業で行う。 スライドを用いた講義を行い、資料はウェブ上で閲覧可能にする。 第１回_労働経済学の基礎 第２回_労働供給1 第３回_労働供給2 第４回_労働需要1 第５回_労働需要2 第６回_労働市場の均衡1 第７回_労働市場の均衡2 第８回_保障賃金格差 第９回_教育と労働市場1 第10回_教育と労働市場2 第11回_技能形成と外部・内部労働市場1 第12回_技能形成と外部・内部労働市場2 第13回_労働市場における男女差1 第14回_労働市場における男女差2		
事前・事後学習の内容	事前学習は不要だが、日頃からニュースや新聞の関連話題に触れておくことが望ましい。 講義後は適宜復習を行い、質問や意見があれば遠慮なく教員に尋ねること。		
評価方法	最終レポートによって評価する。 レポートの提出はWebclassで行う。		
受講生へのコメント	質問やコメントを歓迎します。 事前の質問がある場合は、教員紹介ページに記載されているメールアドレスに連絡すること。		
教材	テキスト：川口大司（2017）『労働経済学 理論と実証をつなぐ』有斐閣 参考書：必要に応じて講義内で紹介する。		

授業コード	E042040010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	経済統計論特殊講義Ａ（コンピュータ講座）		
英語科目授業名	Special Lecture on Economic Statistics A		
科目ナンバー	EAAPJ4251		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	この授業は遠隔（オンデマンド）で実施する。 様々な業務がコンピュータ上で処理されるようになり、会社などの組織の役割なども含めた全ての構造を、そのままプログラム構造に反映させる必要性が生じました。オブジェクト指向プログラミングは、この要請によって生み出されたプログラムの作成方法です。現在は、業務や組織などを表現する表記方法として脚光を浴び、マネージメントなど「文系的」な職種でも活用されるようになっています。プログラミングを学ぶことで、オブジェクト指向の考え方を身につけます。		
授業の到達目標	下記の３つの能力を身につける事を目標にします。 1）業務などを適切な要素に分解できる能力を身につける。 2）その関係を明確に関連付ける能力を身につける。 3）それらが全体として矛盾が生じないような分析能力を身につける。		
授業内容・授業計画	JAVAプログラミングを学びます。基礎的な文法から始まり、パン屋や定食屋のシミュレーションを行い、どのような経営戦略を取ると、利益を最大にできるのか検討します。 授業では、毎回課題が与えられます。授業中に、その課題を完成し提出してもらいます。 第１回_ガイダンス 第２回_JAVAの基礎 第３回_変数 第４回_配列 第５回_for 文 第６回_if 文 第７回_パン屋のシミュレータ作成 第８回_パン屋のシミュレーションと経営戦略 最適な生産数を求める。 第９回_メソッドの作り方 第10回_メソッドの使い方 第11回_パン屋のシミュレーションと経営戦略 売り切れ戦略と売り残し戦略の分岐点 第12回_クラスの作り方 第13回_クラスの使い方 第14回_定食屋のシミュレーション		
事前・事後学習の内容	事前学習：授業で使用するテキストを配布するので、それを予習すること 事後学習：授業中の解説を元に課題を完成させ提出する。		
評価方法	毎回提出する課題により評価する。		
受講生へのコメント	プログラミング経験がない人が受講することを前提とした授業をする。		
教材	テキスト：特になし 参考書：特になし		

授業コード	E022130010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	産業政策論		
英語科目授業名	Industrial Policy		
科目ナンバー	EAAPJ4244		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	五十川　大也		
科目の主題	政策や規制が社会に与える影響についてミクロ経済学の手法を用いて学ぶ。特に、近年ますます重要性を増している「科学技術イノベーション政策（STI政策）」に焦点を合わせる。関連して、イノベーション測定に関する種々の論点を取り上げるともに、イノベーションの経済学的な分析事例についても紹介する。		
授業の到達目標	・政策や規制が社会に与える影響について、経済学的な視点から議論できるようになる。 ・イノベーションおよび関連する政策について、エビデンスに基づいた分析を行う基礎能力を身につける。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔（標準手順：発展）により実施する。授業日当日までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めること。WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照すること。 第１回　ガイダンス、イントロダクション 第２回　寡占市場と政策・規制 第３回　価格差別と政策・規制 第４回　企業合併、寡占理論と市場集中度 第５回　垂直的統合、垂直的取引制限 第６回　情報と企業行動、広告 第７回　科学技術イノベーション政策：イノベーションと経済学 第８回　イノベーション測定手法 第９回　需要推定とプロダクト・イノベーション 第10回　事例分析（1）：太陽光発電-公的補助の役割 第11回　事例分析（2）：ハイビジョンテレビ-補間財の役割 第12回　事例分析（3）：スタチン系製剤-フォローオン・イノベーションの役割 第13回　STI政策と政策評価手法 第14回　STI政策プロセスと費用便益分析		
事前・事後学習の内容	・講義資料に基づいて学習を進めること。 ・毎授業後にチェックテストを受講すること。		
評価方法	毎授業後に実施するチェックテストと期末レポートによって評価する。		
受講生へのコメント	講義内容に関する質問やコメントを歓迎する。		
教材	テキスト：大橋弘編（2014）「プロダクト・イノベーションの経済分析」東京大学出版会 参考書：授業の中で適宜指示する。		

授業コード	E022110010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	産業経済論		
英語科目授業名	Industrial Economics		
科目ナンバー	EAB2J3206		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	産業の規制政策について、その根拠および問題点を簡単なミクロ経済学の理論をもとに解説する。		
授業の到達目標	現行の規制政策を簡単な経済学の理論に基づいて解説できるようになることを到達目標とする。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔（標準手順：発展）により実施する。授業日当日までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めること。WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。 パワーポイントによるスライドを使用する。 第１回_規制の定義と分類 第２回_社会的余剰 第３回_市場の失敗 第４回_自然独占 第５回_公共財の供給 第６回_外部性 第７回_料金水準論 第８回_料金体系 第９回_公共料金の決定理論 第10回_公益事業の価格理論（１）ーフルコスト価格・二部料金制度ー 第11回_公益事業の価格理論（２）ーピークロード価格・ラムゼイ価格ー 第12回_公益事業の規制方式（１）ー総括原価方式ー 第13回_公益事業の規制方式（２）ーインセンティブ規制方式ー 第14回_公的供給と民営化 定期試験		
事前・事後学習の内容	授業1週間前に、次回の講義に関する資料を本授業のWebサイトに掲載する。必ず事前に内容を確認し、授業に臨むこと。また、授業のはじめに前回の講義内容について小テストを実施する。各自講義の要点をまとめるなど、準備を欠かさないようにすること。		
評価方法	小テスト（遠隔、50%）および期末試験（遠隔、50%）によって評価する。		
受講生へのコメント	質問がある場合は、教材一覧から「質疑応答」を選択して行ってください。質疑応答の進め方は「学生向け遠隔講義入門」の「質疑応答について」を参照してください。 あらかじめ新聞やニュースなどを通し、我が国の社会・経済の仕組みへの関心を高めておくことを希望します。		
教材	テキスト：特になし。 参考書： 「現代の公益事業」石井 晴夫（編著）ＮＴＴ出版 「公的規制の経済学」植草 益　ＮＴＴ出版「ハンドブック経営学」神戸大学経済経営学会 編　ミネルヴァ書房「公共経済学」柴田弘文・柴田愛子　東洋経済新報社「交通市場と社会資本の経済学」杉山武彦 監修 有斐閣「航空の経済学」村上、加藤、高橋、榊原 編　ミネルヴァ書房		

授業コード	E044060010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	証券経済論特殊講義（野村證券提供講座）		
英語科目授業名	Special Lecture on Security Economics		
科目ナンバー	EAAPJ3202		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	資本市場に求められる役割とは何か。激変する世界の資本市場の全容と投資のリスク＆リターンの考え方、株式投資・債券投資・ポートフォリオ分析・外国為替相場など、証券投資における重要なテーマに関する理論と応用を、実務に従事している講師より実践的な視点から講義する。		
授業の到達目標	３つの目的をもって受講してもらいたい。１つは、経済学を学ぶにあたって必要な知識である、応用理論としての証券論である。債券や証券の価格理論、利子率、企業利益に関する知識は、経済学の基礎としても応用としても役立つものである。２つ目は、ポートフォリオに代表されるリスク管理の考え方である。このアイデアは証券投資で利用される「特殊な技術」ではなく、現在、非常に広い範囲で応用されている。最後にグローバル化である。野村グループは世界30カ国以上に26,629名（2020年3月末現在）の役職員が在籍し、その国籍は約90か国に及んでいる。グローバル化における先進的な取り組みから生きた知識を学び取ってほしい。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔（標準手順：基本）により実施する。授業日当日までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めること。WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。 野村證券のスタッフが交代で講義を行う。 ※講義計画は、野村證券ならびに野村グループ各社の人事異動やその他諸般の事情により変更される場合がある。 第１回　ガイダンス・経済情報の捉え方 第２回　金融資本市場の役割とその変化 第３回　債券市場の役割と投資の考え方 第４回　株式市場の役割と投資の考え方 第５回　投資信託の役割とその仕組み 第６回　証券投資のリスク・リターン 第７回　ポートフォリオ・マネジメント 第８回　外国為替相場とその変動要因について 第９回　資本市場における投資家心理 第10回　ライフプランと資産形成 第11回　公的年金制度について 第12回　確定拠出年金について 第13回　DCポートフォリオの作成 第14回　マネープランの作成		
事前・事後学習の内容	金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。		
評価方法	遠隔(WebClass)での複数回の小テストで評価する予定。		
受講生へのコメント	質問がある場合は、教材一覧から「質疑応答」を選択して行ってください。質疑応答の進め方は「学生向け遠隔講義入門」の「質疑応答について」を参照してください。 授業のたびごとに理解することを心がけるようにしましょう。		
教材	参考文献：榊原 茂樹／城下 賢吾／姜 喜永／福田 司文／岡村 秀夫 著『入門証券論　第3版』有斐閣コンパクト。		

授業コード	E033030010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	アジア経済史		
英語科目授業名	Economic History of Asia		
科目ナンバー	EAAPJ4213		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	本講義は、中国経済史を中心に、中国と周辺地域との経済的なつながりに意識しながら、時系列に沿って古代から現代に至るまでのアジア経済史を概観する。		
授業の到達目標	受講生が中国経済史の流れ、地域経済・世界経済一体化の史的動向、各時代の経済発展の特徴および重要な課題などを系統的に把握することを主な目標とする。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔方式より実施する。 時代ごとに重要な課題を取り上げる。貨幣制度、国家の経済政策、商品経済と市場圏の拡大、環境と経済との関係、地域経済・世界経済一体化の過程などに重点を置く。具体的には、次の授業計画を参照。なお、貨幣制度や市場圏の拡大などについては、各講に組み込む形で説明する。 第１回_イントロダクション 第２回_農業経済と自然環境 第３回_集権政治下の国家経済 第４回_シルクロード 第５回_宋代中国の商品経済 第６回_モンゴル帝国時代の東西貿易 第７回_朝貢と海禁 第８回_明清中国の「互市」制度 第９回_通商条約の時代 第10回_洋務運動と殖産興業 第11回_半植民地経済の拡大 第12回_社会主義的実践 第13回_改革開放とグローバル経済 第14回_総括 ＊授業の進行状況や参加者の反応・要望などに応じて変更する可能性がある。		
事前・事後学習の内容	参考書や参考資料を読んで予習する。授業中のメモと配布資料などを読み、課題を回答する形で復習を行う。		
評価方法	授業中の取り組み（練習問題の回答と授業の参加度）（50%）と期末レポート（50%）による総合評価 ＊なお、ほぼ毎回課題を出題し、一週間以内に回答の提出を求める計画である。この点を覚悟したうえで履修を選択してください。		
受講生へのコメント	各回の授業内容は、授業の進行状況や参加者の反応・要望などに応じて変更する可能性がある。		
教材	教科書は用いない。WebClassで授業レジュメなどの参考資料を配布。		

授業コード	E037020010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	商業簿記基礎論		
英語科目授業名	Basic Commercial Bookkeeping		
科目ナンバー	EAAPJ3201		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	小田　和幸		
科目の主題	″企業の経済事象は、簿記により財務諸表を作成することで初めて把握できます。″ そして、その財務諸表を読みとることで、企業が経済活動を続けるための原動力となる経営管理や業績評価を行うことが可能となります。 本講義では、まず簿記の重要性や基本的な知識（日本商工会議所簿記検定3級レベル）を学習します。 その上で、会計の用語・財務諸表の構造・読み方分析等、財務諸表を理解するために必要な基礎的な力を身につけます。		
授業の到達目標	日本商工会議所簿記検定3 級合格レベルの計算能力を身につける。 財務諸表の理解力を深めて経済学の知識に役立てる。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔になります。 youtubeで講義配信を行います。 初回から重要な項目をお話ししますので、教材（4冊セット）は事前に大学生協にてご購入下さい。 第１回_ガイダンス・簿記の目的 第２回_取引・仕訳・勘定記入・試算表 第３回_商品売買・現金の記帳方法 第４回_手形・有形固定資産の記帳方法 第５回_株式会社の資本・税金 第６回_試算表の作成・伝票 第７回_決算・英米式決算法 第８回_その他の決算整理 第９回_その他の決算整理 第10回_財務諸表の作成 第11回_財務諸表の作成 第12回_収益性分析 第13回_安全性分析 第14回_採算性分析 第15回_まとめ		
事前・事後学習の内容	新しい学問ですので事前の学習はテキストの該当範囲を一読するのみで結構です。 事後の学習は問題集の計算演習を複数回行うようにして下さい。 重点的に計算演習が必要な項目は講義内でお伝え致します。		
評価方法	小テストの成績および期末試験の成績で評価します。 小テストは2回実施します。小テスト2回分で20%になります。 期末テストが80%になります。 両方とも遠隔にて実施しますが、詳細な実施方法は講義内でお伝えします。		
受講生へのコメント	受講する際には教材および電卓を必ずご準備して下さい。 単に資格取得に繋げるだけでなく、理解したうえで資格取得に繋がるよう講義を行います。 簿記に関する理解力を向上させて、経済学の学習及び就職活動に活かせるように頑張っていきましょう。		
教材	資格の大原ALFA 3 級商業簿記テキスト、問題集、解答解説集、講義レジュメ		

授業コード	E041090010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	ミクロ経済学上級講義１		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Microeconomics 1		
科目ナンバー	EAAPJ5505		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	内藤　克幸		
科目の主題	大学院入門レベルのミクロ経済学を解説する。 本講義では特に標準的な価格理論（消費者理論、生産者理論、一般均衡理論等）を取り上げる。 なお、本講義は大学院生向け科目（大学院科目：ミクロ経済分析1）を意欲のある学部生にも開放するという意図で設置されたものであり、大学院生を対象としたレベルで講義を進める。		
授業の到達目標	大学院入門レベルのミクロ経済学の基礎を習得し、数理的な経済モデルを構築する能力を身に付けることを目標とする。		
授業内容・授業計画	本講義は対面により実施する。 第１回_数学準備1：基礎概念 第２回_数学準備2：微分 第３回_数学準備3：最適化問題 第４回_消費者理論1：選好と効用 第５回_消費者理論2：効用最大化問題 第６回_消費者理論3：支出最小化問題 第７回_消費者理論4：双対性 第８回_生産者理論1：生産技術 第９回_生産者理論2：利潤最大化問題 第10回_生産者理論3：費用最小化問題 第11回_一般均衡理論1：基礎概念 第12回_一般均衡理論2：純粋交換経済 第13回_一般均衡理論3：生産経済 第14回_発展的課題 定期試験		
事前・事後学習の内容	積み上げ式の講義であるため、講義内容をしっかりと復習する必要がある。		
評価方法	期末試験80%、課題提出20%		
受講生へのコメント	講義資料等をWebClassに掲載する。		
教材	テキスト：神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年（購入不要） 参考書：授業中に適宜指示する。		

授業コード	E041110010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	計量経済学上級講義１		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Econometrics 1		
科目ナンバー	EAAPJ5507		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	鹿野　繁樹		
科目の主題	計量経済学は経済学における実証分析の体系であり、経済学の科学性・再現性を担保する上で重要な役割を担う。特に、非実験データによる因果性の統計的推測に重きを置く。		
授業の到達目標	この講義の目標は、統計学と計量経済学の基礎をマスターすることである。		
授業内容・授業計画	まず確率・統計を復習し、最小2乗法（OLS）による回帰直線を学ぶ。 次いで、古典的仮定のもとでの単回帰モデル・重回帰モデルの推定と検定を習得する。 最後に、回帰モデルの関数型の拡張を考える。 第１回_イントロダクション 第２回_確率論（1）：確率変数と確率分布 第３回_確率論（2）：正規分布・多次元分布 第４回_統計的推測（1）：基礎編 第５回_統計的推測（2）：推定と仮説件手 第６回_回帰直線と最小2 乗法（OLS） 第７回_決定係数 第８回_古典的回帰モデルとOLS 推定 第９回_回帰係数の仮説検定 第10回_統計ソフトgretl による回帰分析 第11回_重回帰分析（1）：重回帰OLS 第12回_重回帰分析（2）：コントロール変数 第13回_回帰モデルの拡張（1）：モデルの関数型 第14回_回帰モデルの拡張（2）：ダミー変数 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義の進行は、下記テキストに基づく。テキストを講義の前後によく読むこと。 テキスト章末の復習問題を解くこと。		
評価方法	毎回の講義終了後の復習問題、宿題、期末試験に基づき成績を決定する。		
受講生へのコメント	計量経済学上級講義２とセットの科目です。引き続き後期に計量経済学上級講義２を受講して下さい。		
教材	鹿野繁樹（2015）「新しい計量経済学」日本評論社。		

授業コード	E047380010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	Global Economy		
英語科目授業名	Global Economy		
科目ナンバー	EAAPE4204		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	JUSTIN AUKEMA		
科目の主題	本授業では、グローバル経済の基礎及び歴史的起源について紹介する。特に、現在の経済制度である資本主義の構築や歴史的推移に焦点を当てる。「資本主義はどこから由来し、どのように発展してきたか」という問いを中心に、負債や私有財産、労働階級などといった資本主義の中における根本的な概念について探究していく。		
授業の到達目標	グローバル経済の基礎及び歴史的起源について理解し、それらのことについて英語でコミュニケーションを取れる能力を身につけること。		
授業内容・授業計画	授業は全て英語で行われる。毎週課題として授業テーマに関連するテキストからの一部を読み、授業内で教員が示す質問に回答する。授業の前半では、講義を聞き、英語の聞き取り能力の向上に努める。後半では、学生主体のディスカッションを行う。中間テストの他、「グローバル経済」に関連する各々選んだテーマについて研究し、学期末に発表をする。 第１回_ 授業紹介：資本主義って何？ 第２回_ 歴史的資本主義 第３回_ 負債の由来 第４回_ 私有財産にまつわる概念 第５回_ 労働者階級の形成 第６回_ 帝国主義や奴隷制 第７回_ 中間テスト 第８回_ 経済と性別役割分業 第９回_ エネルギーと経済 第10回_ 経済危機はなぜ起こるの？ 第11回_ 資本主義・グローバル経済の今後 第12回_ 学生発表（I） 第13回_ 学生発表（II） 第14回_ フィードバックとまとめ		
事前・事後学習の内容	毎週、予め次回の講義テーマに関連するテキスト（学術書の抜粋など）を読むこと。講義内容の理解のために必要であることに加え、テキストを踏まえ学生ディスカッションを行う。		
評価方法	【定期試験は実施しない。その代わり次のような評価方法と割合になる】 課題（テキスト解読と課題質問）：50% 学生発表（学期末）：25% 中間テスト：15% 授業内ディスカッション：10%		
受講生へのコメント	本授業は、全て英語で行われるため、学生は積極的に英語テキストの読書・解読や講義の聞き取りなどに強い意志があることが条件。		
教材	テキスト：教員による配布プリントのみ		

授業コード	E047430010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	Introduction to International Economics		
英語科目授業名	Introduction to International Economics		
科目ナンバー	EAAPE4205		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	This course offers a general introduction to International Economics.		
授業の到達目標	The main objective of the course is to train you in studying the basic knowledge of International Economics in English.		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔（標準手順：発展）により実施する。授業日当日までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めること。WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。 This course is designed to cover a wide variety of topics, such as trade, finance and development. In addition, we will discuss some issues every class. 基本的に講義言語は英語を使用する。 第１回_Prescription? 第２回_Macroeconomics (Basic) 第３回_Gross Domestic Product 第４回_Trade & Technology 第５回_The Classical View of Trade 第６回_Free Trade and Complications 第７回_Foreign Aid 第８回_Foreign Currencies 第９回_The End of Poverty? 第10回_Prescription for a Happy Society 第11回_Hot Issue <Education> 第12回_Hot Issue <Poverty> 第13回_Hot Issue <Trade> 第14回_Hot Issue <Exchange rates> 定期試験		
事前・事後学習の内容	配布資料の見直しと復習をすること。		
評価方法	Attendance and participation, Quizzes, Exams/Research Project 受講者の人数によってディスカッションやプレゼンテーションを取り入れるため評価方法を変更する可能性がある。		
受講生へのコメント	Students are expected not only to attend all classes but to be active in discussion as well. 語学力は問わない。		
教材	None		

授業コード	E047390010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	Lectures on Economics in English A		
英語科目授業名	Lectures on Economics in English A		
科目ナンバー	EAAPE4206		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹、中村　健吾、彭　浩		
科目の主題	In this course, three lecturers will each give lectures on different aspects of economy under the influences of mechanization, internationalization and globalization.		
授業の到達目標	All the lectures will be given in English for the students to get accustomed to English hearing and thinking.		
授業内容・授業計画	If the number of participants is large, this class will be provided by using Web tools. Lecture materials will be uploaded to the Web by the day of a class. Hence, participants should study those and prepare for the class. If you participate this class, you should check 'How to attend' of 'Introduction of remote lecture for students'. After checking the number of participants, lecturers will determine whether this class will use Web meeting tools or not. Three lecturers will each give lectures on the following topics. Theme 1) What Does Mechanization Give Us? (by Professor Hideki Nakamura：中村英樹) Theme 2) Analyzing the Nature and Causes of Globalization (by Professor Kengo Nakamura：中村健吾) Theme 3) The History of Intra-Asian Trade (by Professor Hao Peng：彭浩)		
事前・事後学習の内容	The students will be requested to read some English texts or materials after each lecture.		
評価方法	The course grade will be evaluated by the research paper. If this class is provided by se of Web tools, those papers will be collected by Webclass.Three lecturers will each ask students to write a research paper in English about a subject that students select from a list of approved topics. Students are requested to submit the reserch paper by the deadline indicated by each lecturer. The course grade will be evaluated by the research paper.		
受講生へのコメント	The lecturers will ask students to think carefully about the transformation of economy and encourage them to find a way to adjust themseves to a changing world. If this class uses Web tools, participants can ask questions by using 'Questions and Answers' of a list of class materials. The way of its use is explained in 'About questions and answers' of 'Introduction of remote lecture for students'.		
教材	There is no textbook on the lectures. Instead, each lecturer will give you some texts or materials on the lectures.		

授業コード	E061070010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	基礎演習は読解力，プレゼン力，文章力など，大学生にとって必要不可欠なスキルの修得を目標とする。授業の最後に授業で指定された問題について、または自身が興味がある題材についてレポートを作成する。		
授業の到達目標	指定された問題についてグループでプレゼンを行うとともに、他のグループの評価を行う。プレゼンを行わないグループについては、レポートの提出を義務付ける。		
授業内容・授業計画	指定された問題について、2つのグループが発表（プレゼン）を行い、残りのグループが発表の評価を行う。 第１回_はじめに 第２回_OPAC講習会(期日未定) 第３回_レポートの作成の仕方について 第４回_プレゼンの仕方について 第５回_プレゼンの準備 第６回_プレゼンの準備 第７回_プレゼン 第８回_プレゼンの準備 第９回_プレゼンの準備 第10回_プレゼン 第11回_プレゼンの準備 第12回_プレゼンの準備 第13回_プレゼン 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	・グループの全員が協力しあってプレゼンの準備を行うこと。		
評価方法	・出席、プレゼンの内容とそれに対する評価、レポートを基に総合的に判断する。		
受講生へのコメント	・剽窃を行ったものには単位を与えない。 ・私語厳禁。注意をしてもやめない場合は、教室から退室してもらうことがある。また単位が与えられないことがある。		
教材	特になし。		

授業コード	E061070080	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	説得力とは何かを考え，説得力あるプレゼンテーションを行う力を養う．また，説得力を高めるツールとして基本的な統計分析を利用する力を養う．あわせて，研究とは何かについて学び，研究上必要な情報を検索する力を養う．		
授業の到達目標	（1）説得力あるプレゼンテーションを行う力を身に付ける． （2）説得力を高めるツールとして基本的な統計分析を利用する力を身に付ける． （3）研究とは何かについて学び，研究上必要な情報を検索する力を身に付ける．		
授業内容・授業計画	この授業は対面で行うことを基本とする． （1）学生によるプレゼンテーションと討論 （2）教員による講義 （3）PCを用いた演習 を適宜組み合わせ，授業目標の到達を図る． 第１回_イントロダクション 第２回_R演習 第３回_OPAC研修（予定） 第４回_プレゼンテーションと討論（1） 第５回_プレゼンテーションと討論（1） 第６回_仮説検定の考え方 第７回_ｔ検定 第８回_χ2乗検定 第９回_単回帰分析・相関分析 第10回_分析事例 第11回_分析のまとめ方 第12回_研究とは何か 第13回_プレゼンテーションと討論（2） 第14回_プレゼンテーションと討論（2）		
事前・事後学習の内容	事前の学習：プレゼンテーションの準備や課題 事後の学習：討論で得られた意見のまとめや講義および演習の復習		
評価方法	プレゼンテーションの内容，討論や演習への取組状況などを総合的に評価する．		
受講生へのコメント	演習科目なので，積極的に参加・発言することが求めらる．		
教材	テキスト：特に指定しない． 参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	E061070090	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	学部として新入生に初めて提供する、少人数制の科目です。このクラスでは、予備知識のあまり要らない、しかも読んで面白い古典を紹介することで、大学における学びのイントロダクションとしたいと思います。		
授業の到達目標	①何人かの著名な経済学者の、人となりと学説に触れる。 ②翻訳を通じてケインズの書き物に触れ、人類史上有数の知性という存在のレベルを体感する。		
授業内容・授業計画	前半に輪読を行い、後半はそれに触発されて深めた内容についてグループ単位で発表してもらいます。就職活動を見越した、コミュニケーション能力や協調性の啓発も必要ですから、各回の発表は小グループ単位を基本とします。 　テキストは現在絶版ですので、コピーを配布します。また半期すべてを輪読に投じても全体は読み切れませんから、範囲は第二部（経済学者の伝記）および第三部（追加篇）に限定します。 　なお初回で取り上げるニュートンは、いうまでもなく経済学者ではありません。しかしながらこのパート全体の白眉は短いこの章であると思われることから、あえて取り上げるものです。 第１回_自己紹介と全体のイントロダクション、グループ分け、輪読の割り当て 第２回_テキストの輪読(1) アイザック・ニュートン 第３回_テキストの輪読(2) ロバート・マルサス① 第４回_テキストの輪読(3) ロバート・マルサス② 第５回_テキストの輪読(4) アルフレッド・マーシャル① 第６回_テキストの輪読(5) アルフレッド・マーシャル② 第７回_テキストの輪読(6) フランシス・エッジワース 第８回_※ 途中1回、学情センターのガイダンスが入る 第９回_グループ報告の準備作業 第10回_グループ報告(1) 第11回_グループ報告(2) 第12回_グループ報告(3) 第13回_グループ報告(4) 第14回_グループ報告(5)		
事前・事後学習の内容	前半は毎回、テキストの予習が必要です。全体を通じて、少人数のグループでの取り組みとなるので、授業時間外も含めて、メンバーとの緊密な連携、共同作業を要します。		
評価方法	①各回のグループ報告の内容と、クラス全体でのディスカッションへの個々人の貢献度をみます。 ②後半のグループ報告では、グループでの発表に加えてペーパーも提出してもらい、文章表現についても寸評します。 　①を70%、②を30%として評価します。		
受講生へのコメント	大学で学ぶとは、という心構えが備わる授業になればと念じています。		
教材	テキスト：J.M.ケインズ（熊谷・大野訳）『人物評伝』（岩波書店，1959年初版）		

授業コード	E061070060	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	基礎演習は、1年生の皆さんが大学での勉強を始めるにあたって必要な情報収集やレポート作成、プレゼンテーション方法など習得してもらうための科目である。		
授業の到達目標	この授業は、テキストの輪読やディスカッション、レポート報告などを通し、レポート作成およびプレゼンテーションができるようになることを到達目標とする。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 演習形式です。 1. 最初にレポートの書き方および文献・資料の探し方について説明します。 2. 各回の担当者を決定し、新聞記事やニュース等から関心のあるテーマを選び、作成したミニレポートを発表してもらいます。 3. 最終レポートを提出してもらいます。 第１回_ガイダンス 第２回_レポートの書き方 第３回_文献・資料の探し方 第４回_ミニレポート発表（１） 第５回_ミニレポート発表（２） 第６回_ミニレポート発表（３） 第７回_ミニレポート発表（４） 第８回_ミニレポート発表（５） 第９回_ミニレポート発表（６） 第10回_ミニレポート発表（７） 第11回_ミニレポート発表（８） 第12回_ミニレポート発表（９） 第13回_ミニレポート発表（１０） 第14回_最終レポート作成指導		
事前・事後学習の内容	事前の学習：自らの担当部分をきちんと仕上げる。 事後の学習：コメントに従って修正する。		
評価方法	ミニレポート発表（40%）および最終レポート（40%）、ディスカッションへの参加状況（20%）で評価する。		
受講生へのコメント	あらかじめ新聞やニュースなどを通し、わが国の社会・経済の仕組みへの関心を高めておくことを希望します。		
教材	テキスト：山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』、新曜社、2013年。		

授業コード	E061070100	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	大学での学習に必要とされる基本的なスキルを身につけることを目的とする。東南アジア経済に関連する文献の輪読とディスカッション、レポート作成を通して、読解力、分析力、プレゼンテーション能力の向上を目指す。		
授業の到達目標	グループでの報告やディスカッションを通してアジアにも関心をもってもらう。その上で、読解力、分析力、プレゼンテーション能力を身につける。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス 第２回_文献調査、報告資料の作成方法 第３回_報告、ディスカッション 第４回_報告、ディスカッション 第５回_報告、ディスカッション 第６回_報告、ディスカッション 第７回_報告、ディスカッション 第８回_報告、ディスカッション 第９回_報告、ディスカッション 第10回_報告、ディスカッション 第11回_報告、ディスカッション 第12回_報告、ディスカッション 第13回_レポート作成の指導 第14回_レポート作成の指導		
事前・事後学習の内容	次回の授業で用いる文献を読んでおくこと。授業後は、授業中に紹介した文献を読み、理解を深めてもらいたい。		
評価方法	授業への参加状況、報告、ディスカッション、期末レポートを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	授業への主体的かつ積極的な参加を期待します。		
教材	テキスト：ガイダンス時に受講者と相談の上、決定する。		

授業コード	E061070130	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	内藤　克幸		
科目の主題	ゲーム理論の基礎を学ぶことを通じて、大学での学修に必要な能力を身に付ける。		
授業の到達目標	読解能力、文章作成能力、プレゼンテーション能力を修得することを目標とする。		
授業内容・授業計画	本演習は対面で実施する。 第１回_ガイダンス 第２回_戦略形ゲーム1：戦略の支配 第３回_戦略形ゲーム2：ナッシュ均衡 第４回_戦略形ゲーム3：混合戦略 第５回_問題演習1 第６回_報告準備1 第７回_報告1 第８回_展開形ゲーム1：ナッシュ均衡 第９回_展開形ゲーム2：部分ゲーム完全均衡 第10回_問題演習2 第11回_報告準備2 第12回_報告2 第13回_レポート作成準備 第14回_レポート作成相談		
事前・事後学習の内容	報告の際には念入りに準備を行うこと。		
評価方法	演習の参加状況（50%）、レポートの内容（50%）		
受講生へのコメント	積極的な演習参加を希望する。		
教材	テキスト：指定しない。 参考書：演習中に適宜指示する。		

授業コード	E061070200	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	五十川　大也		
科目の主題	本講義は演習形式を取り、新入生が高校教育から大学教育にスムーズに適応できるようにする。第一に、大学での学習・研究に必要となるアカデミックスキルと学習倫理を習得することを目標とする。第二に、現実の経済問題・経済ニュースを題材としてディスカッションやグループワークを行う。		
授業の到達目標	・アカデミックスキルと学習倫理の基礎を習得する。 ・現実の経済問題に対して「経済学的に考える」ための姿勢を身につける。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 第1回　ガイダンス、オリエンテーション 第2回　アカデミックスキルと学習倫理（1） 第3回　アカデミックスキルと学習倫理（2） 第4回　経済問題を題材にしたディスカッション（1） 第5回　経済問題を題材にしたディスカッション（2） 第6回　経済学とデータ 第7回　経済問題を題材にしたディスカッション（3） 第8回　経済問題を題材にしたディスカッション（4） 第9回　課題発表、グループ分け 第10回　グループワーク（1） 第11回　グループワーク（2） 第12回　グループワーク（3） 第13回　グループ報告 第14回　授業のまとめ		
事前・事後学習の内容	授業資料に基づいて予習・復習を行うこと。グループワークでは、メンバー間でコミュニケーションを取りながら主体的に参加すること。また、発表資料作成の時間を確保すること。		
評価方法	発表の内容、グループワークへの参加状況、授業態度等を踏まえて総合的に行う。		
受講生へのコメント	主体的・積極的な姿勢での参加を期待します。		
教材	テキスト：佐藤望（編）『アカデミック・スキルズ第2版-大学生のための知的技法入門』（慶應義塾大学出版会） 参考書：講義内で適宜指示する。		

授業コード	E061070210	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	黒田　雄太		
科目の主題	大学における学習・研究方法を実践し、基本的な知識・技術を習得する。		
授業の到達目標	基本的な学習方法（輪読・文献調査・報告・議論・レポート作成）を身につける。 その一環として、各自が選んだテーマについて関連文献を調査し、レポートにまとめる。		
授業内容・授業計画	この授業は原則として対面で行うが、状況に応じてZoomを用いた遠隔授業に変更される場合がある。 前半は研究方法についてのテキストを輪読し、輪読の作法と研究手法を同時に学ぶ。 後半は自らが選んだテーマについて調査・報告を行い、全体で議論し、最終的にレポートを作成する。 第１回_ガイダンス 第２回_輪読・報告の作法について 第３回_テキスト輪読（先行研究の調査方法） 第４回_テキスト輪読（研究課題の検討） 第５回_テキスト輪読（根拠の提示） 第６回_テキスト輪読（定量的分析） 第７回_テキスト隣国（定性的分析） 第８回_文献調査 第９回_報告と議論１ 第10回_報告と議論２ 第11回_報告と議論３ 第12回_報告と議論４ 第13回_期末レポート報告と指導１ 第14回_期末レポート報告と指導２		
事前・事後学習の内容	講義時間以外にも、必要に応じて調査・学習および議論を行うことが望まれる。 報告を行う際は特に事前の準備を入念に行うこと。		
評価方法	報告内容、議論への参加状況、および最終レポートを踏まえて、総合的な評価を行う。 レポートの提出はWebclassで行う。		
受講生へのコメント	主体的に参加し、大学における勉強の方法を身につけましょう。		
教材	テキスト：特に指定しない。 参考書：明石芳彦（2018）『社会科学系論文の書き方』ミネルヴァ書房		

授業コード	E061070190	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	JUSTIN AUKEMA		
科目の主題	本授業は、歴史的研究に重きをおいた基礎的研究能力を身につかせることを目的とする。研究を行う上で、その方法を学ぶこと及び批判的に考える力は欠かせない要素となっている。その上、現在のあらゆる問題を深く理解するには、物事や現象を歴史的文脈の中に位置づけ、その歴史的起源について知識を得ることが不可欠なことである。本授業では、学生は学術的な問いの形成方法や資料収集の仕方を学び、研究レポートの執筆の仕方や発表方法について学習する。それ以外の授業の特徴は、研究過程を同時に英語で学ぶことである。日本語と英語両言語の歴史的資料の使用、及び英語で研究レポートや発表で研究結果をまとめることを通して高い英語能力を身につけて行く。		
授業の到達目標	1）資料収集や分析などといった基礎的研究能力を身につけること。2）歴史的研究を行うための根本的手法を学ぶこと。3）研究レポートと発表作成を通してレベル高い英語能力を取得すること		
授業内容・授業計画	毎週、学術的研究を行うための一つの新しいスキルを取得することに従事する。スキルは累積的であり、授業の流れそのものが研究の過程を表している。授業の最終的目標は約1,500語の英字筆記レポート及び発表を完成させることである。その目標を十分に達成するため、毎回の授業への積極的な参加が必須条件である。 第１回_　授業紹介：学術問いの形成とトピック選定 第２回_　歴史的データベースの使い方、資料収集の仕方 第３回_　参考文献リストのまとめ方 第４回_　研究計画を立てること 第５回_　歴史的資料分析（I） 第６回_　歴史的資料分析（II） 第７回_　データ整理と分析（図面と画像） 第８回_　主張を考えること 第９回_　筆記レポートの基本I（形式と概要） 第10回_　筆記レポートの基本II（出典を明記すること） 第11回_　発表のまとめ方、やり方 第12回_　学生発表（I） 第13回_　学生発表（II） 第14回_　フィードバックとまとめ		
事前・事後学習の内容	授業中に取得するスキルをさらに身につけるため、学生各自課題として一つのタスクを完成することが基本である。例えば、授業で参考文献リストのまとめ方を練習した後、課題として自分の参考文献リストを同じように次の週までに作成して行くのがその一つである。		
評価方法	【定期試験は実施しない。その代わり次のような評価方法と割合になる】 授業中のグループワークへの参加度や発言、及び学期末の最終的な筆記レポートと発表で評価する。		
受講生へのコメント	基礎的研究方法だけでなく、経済学の長い風潮を理解するための歴史的方法、及び現代社会に欠かせない英語力を同時に学んで行こう。		
教材	テキスト：教員による配布プリントのみ		

授業コード	E061070170	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	西川　弘展		
科目の主題	これから大学での学修を開始される経済学部の新入生を対象にした入門的な演習を行います。 基礎演習は、これから本格的に学修を行うために必要な技術（文献を読むこと、その上で適切な問いを持つこと、必要な資料を見つけ出すこと、考えをまとめて発表用資料を作成すること、発表を行うこと、討論をすることなど）を実践的に学び、これからの学修を効果的に進めるための基礎的な力を養うことを主題としています。 こうした主題のもとで、英語と経済学の古典を重視した基礎的な文献を共通のテキストにして、演習を行いたいと思います。		
授業の到達目標	次の事項を経験し、その能力の習得をある程度自覚できることを到達目標とします。 ・経済学の著名な古典に触れることにより、経済学に独特な概念と考え方に習熟すること。 ・英語で書かれた文献を重点的に用いることで、これまで培ってきた英語の力を点検し、さらに磨きをかけること。 ・レジュメを作成し、発表をすること。また発表にもとづき、質疑応答や討論を行うこと。 ・説得的なレポートを作成できること。		
授業内容・授業計画	初歩的な文献である共通のテキストを丁寧に学習しながら、担当者を決めて報告し、質疑応答するというスタイルを軸にします。また視聴覚教材を使うこともあります。 あわせて、図書館の使い方や資料検索の方法、レポートの作成方法など基本的な学習スキルの習得を目指します。 第１回_（対面）イントロダクション 第２回_（対面）古典派経済学とスミス 第３回_（遠隔）スミスの『国富論』に触れる 第４回_（対面）古典派経済学とリカード 第５回_（遠隔）リカードの『経済学および課税の原理』に触れる 第６回_（対面）古典派経済学とJ.S.ミル 第７回_（遠隔）J.S.ミルの『経済学原理』に触れる 第８回_（対面）限界革命の経済学、レポートの作成要領 第９回_（遠隔）限界革命期の文献に触れる 第10回_（遠隔）マーシャルの『経済学原理』に触れる 第11回_（対面）ケインズの経済学 第12回_（遠隔）ケインズ『一般理論』前史に触れる 第13回_（遠隔）ケインズ『一般理論』に触れる 第14回_（遠隔）まとめとレポートの提出		
事前・事後学習の内容	共通のテキストの担当者を決めて発表を行ってもらいますが、これには事前の準備が必要です。 また発表者以外もテキストを事前に精読し、疑問点や自分の考えを整理してくることを求めます。 事後的には、不明な点について概説書などで調べるとともに、古典文献の現物を実際に手にとって確かめてください。		
評価方法	発表、質疑応答への参加状況、修了レポートで評価します。		
受講生へのコメント	発表者だけでなく、全員が事前に予習を行うようにしてください。各自の予習に基づいて、全員が必ず毎回発言をしてください。また、各自は、自らの発表や発言だけでなく、他者の発表と発言をしっかり受け止めるようにしてください。担当者は、受講者全員が自由に発言し、活発に議論を行える環境が維持されるよう工夫しながら、毎回の基礎演習に臨むようにします。		
教材	テキスト：根井雅弘『英語原典で読む経済学史』白水社、２０１８年 参考書：参考文献については授業中に紹介します。		

授業コード	E061070150	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森　瑞季		
科目の主題	基礎演習は，大学での学びを体感的に理解していくための演習科目です．これまで，受動的に授業を受けるまでだった高校までの学びとは違い，自らが主体的に疑問をいだき，その疑問を具体的に解決し，他人にわかりやすく伝える方法を考えていきます．		
授業の到達目標	第一の到達目標は，暮らしの中で起こっているさまざまな課題に対して，興味を持つ学生さんになってもらうことです． 第二の到達目標は，その興味を持ったことを適切な道具や方法で，解決していくことです． そして，第三の到達目標は，解決したということを，評価に値する，形式的に整った報告として成立させることです．		
授業内容・授業計画	第１回_イントロダクションならびに自己紹介 第２回_ディスカッション-それぞれが気になっている暮らしの中の課題について話し合ってみよう- 第３回_ディスカッション-書店に行って学術的な本とは何かを考えてみよう- 第４回_ディスカッション-学情に行って必要な資料を探す練習をしてみよう- 第５回_ディスカッション-インターネットで得られる情報の正誤について考えてみよう- 第６回_中間報告（前半組） 第７回_中間報告（後半組） 第８回_ディスカッション-伝わる報告の仕方を考えてみよう（レジュメ・パワーポイント編）- 第９回_ディスカッション-伝わる報告の仕方を考えてみよう（表現の仕方編）- 第10回_ディスカッション-伝わる報告の仕方を考えてみよう（テーマに対する愛の深さ編）- 第11回_最終報告（前半組） 第12回_最終報告（中間組） 第13回_最終報告（後半組） 第14回_まとめ-レポート作成に向けて-		
事前・事後学習の内容	まず，事前に，ニュースなどをよく見て，社会で何が起きているか，幅広く知ることから始めてください． そして，それに対して自分がどう思ったのか，書き留めておいてください． 自宅などでは，演習中に話し合ったことなどを，もう一度自分で検討し直し，理解を深めてください． 時間に余裕があれば，学情や地元の図書館，あるいは書店へ足を運び，参考文献や論文を手に入れて読んでみてください．		
評価方法	出席を含めた授業への参加姿勢（50%）+レジュメならびにレポートの出来具合（50%）で評価します．		
受講生へのコメント	みなさんとの対話を大事にし，そこに見いだせたものを，みなさんと私自身の糧としたいです．共に学んでゆきましょう．		
教材	テキスト：授業中にレジュメを配布します． 参考書：特にありません．		

授業コード	E061070160	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	田中　俊二		
科目の主題	基礎演習は、デジタル産業に関する文献を通して読解力、プレゼン力、文章力の習得を目標とする。 授業の最後に自分が興味がある題材について期末レポートを作成する。		
授業の到達目標	グループワークを通してデジタル産業に興味を持つことで、読解力、文章力、プレゼン力、質問力を養う。		
授業内容・授業計画	グループに分かれて、こちらから提示したテーマから議論を進める。テーマについては各グループに事前に提示する。受業開始前に課題に関する調査をしておくこと。　尚、第２回の演習は、学情にて文献検索の方法ついて実習をするので、全学認証システムにログインできる事を確認しておく。 第１回_ガイダンス 第２回_文献検索方法について　　（OPAC講習会　　情報処理演習室９B） 第３回_レポート作成方法について 第４回_グループ報告・ディスカション(1) 第５回_グループ報告・ディスカション(2) 第６回_グループ報告・ディスカション(3) 第７回_グループ報告・ディスカション(4) 第８回_グループ報告・ディスカション(5) 第９回_グループ報告・ディスカション(6) 第10回_グループ報告・ディスカション(7) 第11回_グループ報告・ディスカション(8) 第12回_グループ報告・ディスカション(9) 第13回_発表会　(1) 第14回_発表会　(2)		
事前・事後学習の内容	事前：グループディスカションの準備や課題をまとめておく。 事後：討論で得られた意見でまとまらなかった議題についてその理由を考えておく。		
評価方法	出席、プレゼンの内容と自己評価、レポートを基に総合的に評価する。		
受講生へのコメント	積極的な演習参加を期待いたします。		
教材	テキスト：特に指定しない。 参考書：必要に応じて案内する。		

授業コード	E061070140	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森　瑞季		
科目の主題	基礎演習は，大学での学びを体感的に理解していくための演習科目です．これまで，受動的に授業を受けるまでだった高校までの学びとは違い，自らが主体的に疑問をいだき，その疑問を具体的に解決し，他人にわかりやすく伝える方法を考えていきます．		
授業の到達目標	第一の到達目標は，暮らしの中で起こっているさまざまな課題に対して，興味を持つ学生さんになってもらうことです． 第二の到達目標は，その興味を持ったことを適切な道具や方法で，解決していくことです． そして，第三の到達目標は，解決したということを，評価に値する，形式的に整った報告として成立させることです．		
授業内容・授業計画	第１回_イントロダクションならびに自己紹介 第２回_ディスカッション-それぞれが気になっている暮らしの中の課題について話し合ってみよう- 第３回_ディスカッション-書店に行って学術的な本とは何かを考えてみよう- 第４回_ディスカッション-学情に行って必要な資料を探す練習をしてみよう- 第５回_ディスカッション-インターネットで得られる情報の正誤について考えてみよう- 第６回_中間報告（前半組） 第７回_中間報告（後半組） 第８回_ディスカッション-伝わる報告の仕方を考えてみよう（レジュメ・パワーポイント編）- 第９回_ディスカッション-伝わる報告の仕方を考えてみよう（表現の仕方編）- 第10回_ディスカッション-伝わる報告の仕方を考えてみよう（テーマに対する愛の深さ編）- 第11回_最終報告（前半組） 第12回_最終報告（中間組） 第13回_最終報告（後半組） 第14回_まとめ-レポート作成に向けて-		
事前・事後学習の内容	まず，事前に，ニュースなどをよく見て，社会で何が起きているか，幅広く知ることから始めてください． そして，それに対して自分がどう思ったのか，書き留めておいてください． 自宅などでは，演習中に話し合ったことなどを，もう一度自分で検討し直し，理解を深めてください． 時間に余裕があれば，学情や地元の図書館，あるいは書店へ足を運び，参考文献や論文を手に入れて読んでみてください．		
評価方法	出席を含めた授業への参加姿勢（50%）+レジュメならびにレポートの出来具合（50%）で評価します．		
受講生へのコメント	みなさんとの対話を大事にし，そこに見いだせたものを，みなさんと私自身の糧としたいです．共に学んでゆきましょう．		
教材	テキスト：授業中にレジュメを配布します． 参考書：特にありません．		

授業コード	E061080030	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	身近な社会問題を整理し，問題解決策を探る力を養う．また，問題解決策を探るツールとして基本的な統計分析を利用する力を身に付ける．		
授業の到達目標	（1）身近な社会問題を整理し，問題解決策を探る力を身に付ける． （2）問題解決策を探るツールとして基本的な統計分析を利用する力を身に付ける．		
授業内容・授業計画	この授業は対面で行うことを基本とする． （1）学生によるプレゼンテーションと討論 （2）教員による講義 （3）PCを用いた演習 を適宜組み合わせ，授業目標の到達を図る． 第１回_イントロダクション 第２回_R演習 第３回_仮説検定の考え方 第４回_プレゼンテーションと討論（1） 第５回_プレゼンテーションと討論（1） 第６回_回帰分析 第７回_分析計画の作成 第８回_ロジスティック回帰分析 第９回_主成分分析・因子分析 第10回_プレゼンテーションと討論（2） 第11回_調査票の作成と分析事例 第12回_ウェブを活用したアンケート 第13回_アンケートデータの分析とそのまとめ 第14回_プレゼンテーションと討論（3）		
事前・事後学習の内容	事前の学習：プレゼンテーションの準備や課題 事後の学習：討論で得られた意見のまとめや講義および演習の復習		
評価方法	プレゼンテーションの内容，討論や演習への取組状況などを総合的に評価する．		
受講生へのコメント	演習科目なので，積極的に参加・発言することが求めらる．		
教材	テキスト：特に指定しない． 参考書：必要に応じて案内する．		

授業コード	E061080010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	経済学に関するテキストの輪読を通じて経済学の専門的な知識を身に着けるだけでなく、オープンキャンパスの準備作業、実践を通じて高度なプレゼン能力を身に着ける。		
授業の到達目標	① 経済学と国際経済の主要なトピックについて知る。 ② レジュメの作成と論点の提起、論文の構成や注の網羅といった、専門課程の学部生として必要とされる能力を身につける。 ③社会人に要求される高度なプレゼン能力を身に着ける。		
授業内容・授業計画	テキストの輪読といくつかのテーマにしたがった資料作成とパワーポイントを使ったプレゼンの能力を高める。就職活動を見越した、コミュニケーション能力や協調性の啓発も必要であろうから、発表は小グループ単位を基本とする。後半には、コロナの状況をみて、フィールドワークも実施したい。 第１回_自己紹介と全体のイントロダクション、グループ分け、輪読の割り当て 第２回_各自研究テーマの決定 第３回_テキストの輪読(1) 第４回_テキストの輪読(2) 第５回_テーマ別討論(1) 第６回_テキストの輪読(3) 第７回_テーマ別討論(2) 第８回_テキストの輪読(4) 第９回_テーマ別討論(3) 第10回_テキストの輪読(5) 第11回_テーマ別討論（４） 第12回_フィールドワーク(1) 第13回_フィールドワーク(2) 第14回_レポート提出		
事前・事後学習の内容	毎回、テキストの予習が必要である。またテーマ別のグループ討論では、授業時間外も含めて、メンバーとの緊密な連携、共同作業を要する。		
評価方法	① 各回のプレゼンの内容と、クラス全体のディスカッションへの個々人の貢献度をみる。 ② 授業への参加意欲、貢献度を評価する。		
受講生へのコメント	本ワークショップの受講を通じて、高いコミュニケーション能力、プレゼン能力を身につけてもらいたい。		
教材	テキスト未定、１回目の講義で発表する。		

授業コード	E061080190	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	欧州連合（ＥＵ）は近年、「ユーロ危機」（2009年以降）、「難民危機」（2015年以降）、イギリスのEU離脱（2016年以降）、「コロナ危機」（2020年以降）など、多くの危機と難問に直面してきた。たしかにユーロ圏は解体しなかったし、イギリスのほかにEUからの離脱の動きを見せる加盟国は存在しない。けれども、EUによる緊縮財政政策が続くなかで、移民排斥と反ＥＵを訴える極右政党が台頭するとともに、これまで欧州統合を推進してきた保守主義政党や社会民主主義政党が有権者からの支持を失いつつある。。この演習では、欧州統合の歴史とＥＵの現状を理解したうえで、欧州の経験から教訓をくみ取り、それを東アジアの平和と互恵に生かせるかどうかを考えてみたい。		
授業の到達目標	社会科学における「一国中心主義」（方法論的ナショナリズム）を克服し、トランスナショナルな視点を獲得することを、この授業の目標に据える。		
授業内容・授業計画	【授業内容】 　まずは、教科書の輪読を通じて欧州統合の歴史と現状を把握してもらう。次に、受講生諸君には３～４つの班に分かれてもらい、ＥＵが取り組んでいる政策領域の１つについてやや詳しく研究し、その成果と課題をまとめてもらう。そのあと、東アジアの現状に眼を転じて、この地域がかかえる問題点を洗い出す。最後に、欧州統合の経験にもとづいて、東アジアの将来のあり方を皆で論じてみたい。		
事前・事後学習の内容	個々人による報告の準備は事前学習として不可欠であるが、この演習では同じ班に所属する他の学生との意思疎通と共同作業が重要になる。		
評価方法	授業中における各自の報告の水準によって、成績を評価する。		
受講生へのコメント	欧州をはじめとする海外の事情に関心をいだく学生諸君の履修を歓迎する。		
教材	【教科書】 井上淳著『はじめて学ぶEU』（法律文化社、2020年、定価：2400円）。		

授業コード	E061080200	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	田中　俊二		
科目の主題	本演習ではデジタル産業に関するの題材でグループワークを行う。デジタル産業の問題点の抽出・整理を行いグループ議論を通して自分なりの答えを見つける。		
授業の到達目標	主題のテーマについて調査、分析、問題点、プレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス 第２回_デジタル産業の概要 第３回_課題とグループ分け 第４回_グループワーク　テーマの設定と理由 第５回_クループワーク　調査（1） 第６回_グループワーク　討論（1） 第７回_グループワーク中間発表（1） 第８回_グループワーク　調査（2） 第９回_グループワーク　討論（2） 第10回_グループワーク中間発表（2） 第11回_グループワーク　調査（3） 第12回_グループワーク　討論（3） 第13回_プレゼン　個人発表(1) 第14回_プレゼン　個人発表(2)		
事前・事後学習の内容	各人が関連するテーマを学習し、レポートとして簡潔にまとめ発表する。		
評価方法	出席、レポート、プレゼンテーションの内容から判断する。		
受講生へのコメント	積極的な演習参加を期待いたします。		
教材	テキスト：特に指定しない 参考書：適宜、関連分野の重要論文を指定する。		

授業コード	E061080150	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	この授業は混合で実施する。また西川先生のクラスと合同で行う可能性もある。対面、遠隔によらず金曜4限の授業時間にはグループ討論を行う。また、全員が一定期間グループリーダーを務める。グループリーダーの期間は、中島担当のグループは木曜3限もしくは4限の時間に、西川担当のグループは、木曜４限もしくは金曜３限の時間に、教員と遠隔で個人面談を行う。（木曜3限、4限、あるいは、木曜４限、金曜３限とも面談が困難な場合は、個別に面談時間を調整する。） この授業の主題は、アクティブラーニングとグループワークにより、特定の課題について自ら調査し解決策を提案することにある。この授業では、住民生活や地域コミュニティーの形成をテーマに調査研究を行う。更にグループ毎に「所得と雇用」、「人口」、「教育」、「移民」、「健康」のいずれか１つを選択し、持続可能性の観点から課題発見と、その解決の提案を行う。この授業は文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の助成を受け、デラサール大学で開講している開発経済論と連携したCOIL型授業を行う。		
授業の到達目標	1) アクティブラーニングとグループワークにより適切な研究計画を立案し、実行できる。 2) 与えられた課題について実態及びそれについての先行研究を調査できる。 3) 討論を通して適切な解決策を提案できる。 4) 論理的に構成されたプレゼンテーションを実施できる。		
授業内容・授業計画	4人からなるグループに分かれて、上記の課題の一つについて調査し、その解決策を提案します。授業では、各人で割り当てた調査内容について報告しあい、それに基づいて次の週までに調査する内容を決めるという形で進める。フィリピンのデラサール大学と二回接続して報告会を行う。 第１回_(対面) ガイダンス 第２回_(対面) デラサール大学との１回目の接続授業 第３回_(対面) グループワークの実際 第４回_調査報告と次週までの研究計画 第５回_調査報告と次週までの研究計画 第６回_(対面) 日本語発表会 第７回_(対面)中間報告　デラサール大学との２回目の接続授業 第８回_デラサール大学学生への感想・質問レポート作成 第９回_調査報告と次週までの研究計画 第10回_調査報告と次週までの研究計画 第11回_調査報告と次週までの研究計画 第12回_調査報告と次週までの研究計画 第13回_(対面) 最終報告（日本語版）他のクラスとの合同発表会、質問の作成 第14回_(対面) まとめとふりかえり		
事前・事後学習の内容	毎回の授業中に計画し、分担した内容について、調査し、考察する。		
評価方法	授業中の相談や討論への参加、中間報告と最終報告の内容による。		
受講生へのコメント	英語が苦手な学生の受講を歓迎する。（もちろん、得意な学生も）。発表や討論などはグループで行うので怖がる必要はない。受講生にはOCUメールで連絡を取りますので必ず読むこと。		
教材	テキスト：特になし 参考書：特になし		

授業コード	E061080060	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	田中　俊二		
科目の主題	本演習ではデジタル産業に関するの題材でグループワークを行う。デジタル産業の問題点の抽出・整理を行いグループ議論を通して自分なりの答えを見つける。		
授業の到達目標	主題のテーマについて調査、分析、問題点、プレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス 第２回_デジタル産業の概要 第３回_課題とグループ分け 第４回_グループワーク　テーマの設定と理由 第５回_クループワーク　調査（1） 第６回_グループワーク　討論（1） 第７回_グループワーク中間発表（1） 第８回_グループワーク　調査（2） 第９回_グループワーク　討論（2） 第10回_グループワーク中間発表（2） 第11回_グループワーク　調査（3） 第12回_グループワーク　討論（3） 第13回_プレゼン　個人発表(1) 第14回_プレゼン　個人発表(2)		
事前・事後学習の内容	各人が関連するテーマを学習し、レポートとして簡潔にまとめ発表する。		
評価方法	出席、レポート、プレゼンテーションの内容から判断する。		
受講生へのコメント	積極的な演習参加を期待いたします。		
教材	テキスト：特に指定しない。 参考書：適宜、関連分野の重要論文を指定する。		

授業コード	E061080070	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	西川　弘展		
科目の主題	この授業の主題は、アクティブラーニングとグループワークにより、特定の課題について自ら調査し解決策を提案することにあります。この授業では、住民生活や地域コミュニティーの形成をテーマに調査研究を行います。更にグループ毎に「所得と雇用」、「人口」、「教育」、「移民」、「健康」のいずれか１つを選択し、持続可能性の観点から課題発見と、その解決の提案を行います。この授業は文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の助成を受け、デラサール大学で開講している開発経済論と連携したCOIL型授業を行います。 この授業は、対面授業とオンライン授業の混合で実施します。また中島教授のクラスと合同で実施する予定です。場合によっては、中島教授のクラスと混成のグループを編成することになります。対面、遠隔によらず金曜4限の授業時間にはグループ討論を行います。また、全員が一定期間グループリーダーを務める。グループリーダーの期間は、中島担当のグループは木曜3限もしくは4限の時間に、西川担当のグループは、木曜４限もしくは金曜３限の時間に、教員と遠隔で個人 面談を行います。（木曜3限、4限、あるいは、木曜４限、金曜３限とも面談が困難な場合は、個別に面談時間を調整します。）		
授業の到達目標	次の２点を主な目標としています。（１）共通の目標を持つ複数人でのグループ・ワーク（学修・調査・研究、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）について相当の経験を積むこと。（２）時には外国語を用いたグループ間でのやりとりの経験を積むこと。特に、グループ・ワークでは、文献調査も含む資料検索、資料の整理、問いの設定、発表内容の確定、プレゼンテーションが課せられますので、ここでの経験は、個人の作業・学修・研究においても役立つことになります。		
授業内容・授業計画	４名程度を１グループとして、それぞれのグループで「所得」、「雇用」、「人口」、「教育」、「健康」のうちから主題を選択し、グループ・ワーク（学修・調査、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）を行います。デラサール大学の開発経済学の講座とのインターネット環境を通じた交流により、グループワークの成果をさらにバージョンアップさせて、最終的な成果に纏めます。 第１回_（対面）イントロダクション、ガイダンス 第２回_（対面）グループワークの実際 第３回_（遠隔）調査報告と次週までの計画 第４回_（遠隔）調査報告と次週までの計画 第５回_（遠隔）調査報告と次週までの計画 第６回_（対面）日本語発表会 第７回_（対面）第１回接続授業 第８回_（遠隔）調査報告と次週までの計画 第９回_（遠隔）調査報告と次週までの計画 第10回_（遠隔）調査報告と次週までの計画 第11回_（対面）日本語発表会 第12回_（対面）第２回接続授業 第13回_（遠隔）調査報告の仕上げ 第14回_（対面）まとめと振り返り		
事前・事後学習の内容	授業外でのグループでの学習、調査、研究およびグループ内で役割分担された個人単位での学習、調査、研究。 すなわち、授業時間内だけでなく、授業外に時間を確保して、十分に学習、調査、研究を行うことが必須です。		
評価方法	授業外でのワークを含む授業への参加状況と中間報告の内容、最終報告の内容、最終報告書の内容によって総合的に評価します。 毎回の課題の取り組み状況、進展状況を評価するので、コンスタントに学習成果を積み上げることが必要です。		
受講生へのコメント	英語が苦手な学生の受講を歓迎します。もちろん、得意な学生も歓迎します。学習、調査、研究、発表はグループ単位で行いますので、恐れずに参加することができます。OCUメールやWebClassを通じて受講者への連絡を行いますので、必ず読むようにしてください。		
教材	テキスト：指定しません。 参考書　：適宜、紹介します。		

授業コード	E061090120	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	論文演習		
英語科目授業名	Writing Course		
科目ナンバー	EAEXJ3101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	受講生自らテーマを設定し、小さな論文作成の体験をする。		
授業の到達目標	論文作成の基本を学び、自分が関心あるテーマを絞り込み、7000字程度の論文作成をする。		
授業内容・授業計画	最初に、論文作成の案内書を輪読し、作成の基本的作法を学ぶ。次に、各自の関心あるテーマで、関係資料・論文を報告・紹介し議論する。さらに、それら関係文献をふまえながら、自らの論文の構想や途中経緯を報告し、最後に、完成版の報告を行う。		
事前・事後学習の内容	事前に指定された文献や自らの論文草稿の報告準備を行う。授業での議論を踏まえた修正作業を行う。		
評価方法	中間報告と発言内容、及び最終の提出論文にもとづき評価する。		
受講生へのコメント	「自分なりの論文」作りを楽しんでもらえればよい。		
教材	1回目の授業で、輪読文献については指定する。		

授業コード	E063000060	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	小川　亮		
科目の主題	地方自治体の財政や政策についての調査研究をおこなう。 データに基づいた実証分析を実践するので、統計学、計量経済学についても学ぶ。 専門演習3では、グループを組んだ上で、共同で調査研究をおこなう。メンバーとの協力が欠かせない。		
授業の到達目標	調査研究のノウハウ（仮説の構築、検証戦略の設定、統計分析の習得、データ収集およびデータマイニング、推計結果の解釈、プレゼン）を身につけることを目標とする。		
授業内容・授業計画	最初に計量経済学のテキストを学習した後、グループに分かれ、指導教員のアドバイスのもと、調査研究を進めていく。成果は、学内の合同ゼミ、学外とのインターゼミ（三商大討論会など）において逐次、発表する。三商大討論会が終了した後は、専門演習４や卒業論文にむけて、個人単位での研究構想・計画を作成し、発表してもらう。 大まかなスケジュールは以下のとおり。 第１回　ガイダンス 第２回　計量経済学の学習 第３回　計量経済学の学習 第４回　計量経済学の学習 第５回　計量経済学の学習 第６回　計量経済学の学習 第７回　問題意識に関する発表 第８回　問題意識に関する発表 第９回　仮説構築と検証戦略に関する発表 第10回　仮説構築と検証戦略に関する発表 第11回　データ収集と推計と結果解釈 第12回　データ収集と推計と結果解釈 第13回　中間発表 第14回　前期演習のまとめ 第15回　合同ゼミでの発表 第16回　問題意識および仮説の深堀り 第17回　問題意識および仮説の深堀り 第18回　問題意識および仮説の深堀り 第19回　データの収集およびマイニング 第20回　データの収集およびマイニング 第21回　データの収集およびマイニング 第22回　推計と結果解釈 第23回　推計と結果解釈 第24回　推計と結果解釈 第25回　三商大討論会での発表 第26回　卒論に向けた研究テーマの発表 第27回　卒論に向けた研究テーマの発表 第28回　後期演習のまとめ		
事前・事後学習の内容	日ごろから社会経済のニュースに関心をもち、調査研究の対象とするテーマ、問題意識を決めること。統計分析については、テキスト等を参考にしながら、十分理解すること。		
評価方法	発表の内容や質疑への参加状況、調査研究の内容		
受講生へのコメント	無断遅刻・欠席、私語や居眠り、調査分析に関係ないスマホ操作に対しては厳正に対処する。		
教材	『計量経済学の第一歩　――実証分析のススメ』田中隆一（有斐閣ストゥディア） 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』伊藤公一朗（光文社）		

授業コード	E063000170	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	経済学では一つの経済現象について異なった見方が並存するがしばしばあり、論争がつきないところがおもしろいところである。議論を通じて現代の経済問題を一つ選び、分担と協力のもとで、そのテーマについて深く掘り下げていく。		
授業の到達目標	選択した現代経済の問題について、異なった角度からの報告をつき合わせて議論し、報告を作成する。それを通じて、各自が自分なりの経済の見方を形成する。		
授業内容・授業計画	″最初の何回かで、研究テーマを絞り込むための調査・報告・議論をおこなう。次に、役割分担を決めて、選んだ経済問題の諸側面について研究し、報告を作成する。インターゼミ、三商大ゼミで報告する。″ 第１回_演習計画の説明 第２回_テーマ設定について：第1班の報告 第３回_テーマ設定について：第2班の報告 第４回_テーマ設定について：第3班の報告と討論 第５回_テーマの決定 第６回_報告1：第1班 第７回_報告2：第2班 第８回_報告3：第3班 第９回_中間総括 第10回_プレゼンファイルの作成：アウトライン 第11回_プレゼンファイルの作成：分担作業 第12回_プレゼンファイルの作成：相互チェック 第13回_プレゼンの予行演習 第14回_プレゼンテーション 第15回_後期計画の議論 第16回_テーマの再検討：第1班の報告 第17回_テーマの再検討：第2班の報告 第18回_テーマの再検討：第3班の報告 第19回_全体像の決定 第20回_報告1：第1班 第21回_報告2：第2班 第22回_報告3：第3班 第23回_中間総括 第24回_プレゼンファイルの作成：アウトライン 第25回_プレゼンファイルの作成：分担作業 第26回_プレゼンファイルの作成：相互チェック 第27回_プレゼンの予行演習 第28回_プレゼンテーション		
事前・事後学習の内容	割り当てられた課題の調査・研究と、議論を踏まえた事後的修正を行う。		
評価方法	演習への参加状況（報告内容、討論への参加状況）をもとに評価する。		
受講生へのコメント	私の専門はマクロ経済理論であるが、ゼミのテーマはマクロ理論から多少離れてもかまわない。 議論を楽しむ雰囲気になる事が大事である。		
教材	テキスト：なし 参考書：なし		

授業コード	E063000200	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	経済理論と統計分析を身につけます。		
授業の到達目標	テーマごとに調べたことをレポートにまとめ、発表できるようになる。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施します。 大まかなスケジュールは以下のとおりです。 第１回_ガイダンス 第２回_学習テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解① 第８回_データ収集と読解② 第９回_データ収集と読解③ 第10回_データ収集と読解④ 第11回_中間発表① 第12回_中間発表② 第13回_前期授業内容のまとめ① 第14回_前期授業内容のまとめ② 第15回_後期の進め方の相談 第16回_ゼミレポートの作成開始 第17回_ゼミレポート初校発表と質疑グループ① 第18回_ゼミレポート初校発表と質疑グループ② 第19回_ゼミレポート初校発表と質疑グループ③ 第20回_ゼミレポート作成① 第21回_ゼミレポート作成② 第22回_ゼミレポート作成③ 第23回_ゼミレポート最終稿の確認 第24回_ゼミレポート発表グループ① 第25回_ゼミレポート発表グループ② 第26回_ゼミレポート発表グループ③ 第27回_まとめ 第28回_専門演習４の準備		
事前・事後学習の内容	各自が担当するパートの学習が必要です。		
評価方法	受講態度、発表、積極性等によって総合的に評価します。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキストは無し。参考書は、適宜紹介します。		

授業コード	E063000230	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	本演習は卒業論文準備のための演習である。各自の研究課題に関わる史的整理および現状確認の部分に重点を置く。		
授業の到達目標	文献資料の解読やデータの整理などを通じて、経済学の基礎知識を固める一方、経済問題の分析力を高めることを目指したい。		
授業内容・授業計画	この授業は対面より実施する。 まず、参加者各々の課題意識を確認したうえ、演習のテーマを選定する。つづいて、研究構想と計画について発表してもらい、全員の問題関心の共通項に関わる文献資料を選ぶ。次の段階は文献資料の輪読である。また学期の途中に、大阪または近辺地方での巡検（全体の議論に関わる場所）を実施したい。後半では主として研究発表の形で進めていく。 （前期） 第１回_イントロダクション 第２回_研究構想と計画の発表 第３回_研究構想と計画の発表 第４回_文献資料の選定 第５回_文献資料の輪読 第６回_文献資料の輪読 第７回_文献資料の輪読 第８回_文献資料の輪読 第９回_巡検 第10回_研究発表 第11回_研究発表 第12回_研究発表 第13回_研究発表 第14回_総合議論 （後期） 第15回_文献資料の輪読 第16回_文献資料の輪読 第17回_文献資料の輪読 第18回_文献資料の輪読 第19回_巡検 第20回_中間発表 第21回_中間発表 第22回_文献資料の輪読 第23回_文献資料の輪読 第24回_文献資料の輪読 第25回_文献資料の輪読 第26回_研究発表 第27回_研究発表 第28回_総合議論 ＊演習の進行状況や参加者の反応・要望などに応じて変更する可能性がある。		
事前・事後学習の内容	輪読予定の文献資料を事前に読み、用語や重要事項などを調べる。研究発表の前はレジュメを作成する。発表の後は、小レポートを作成・提出する。		
評価方法	演習中の発表状況（50%）、議論の参加状況（50%）		
受講生へのコメント	第1回～第3回の共同議論を経て文献資料を決める。必要に応じて参考書を指定する。		
教材	私語は慎むこと。活発な議論が望ましい。		

授業コード	E063000280	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	経済発展論の文献を読み、卒業論文を作成する基礎力を身に付けること		
授業の到達目標	経済理論を使って、発展途上国が抱える諸問題を分析し、統計データを使用した実証研究を行うことが出来ること		
授業内容・授業計画	前期は英文テキストを使って以下のような開発経済学の諸問題を学びます。 第1回　イントロダクション 第2回　貧困問題 第3回　零細企業と小農 第4回　発展途上国の金融問題 第5回　未熟練労働と低賃金 第6回　貧困の罠 第7回　技術革新 第8回　貧困層への援助 第9回　マイクロクレジット 第10回　コミュニティと開発 第11回　発展途上国とガバナンス問題 第12回　中国経済 第13回　インド経済 第14回　まとめ 後期は計量経済学のテキストを使ってデータを使用した実証分析の方法について学びます。 第1回　イントロダクション 第2回　統計学の基礎知識1 第3回　統計学の基礎知識2 第4回　単純回帰モデル 第5回　重回帰モデル 第6回　回帰モデルの仮説検定と予測 第7回　ダミー変数 第8回　系列相関 第9回　連立方程式モデル 第10回　産業連関分析 第11回　STATAによる計量分析 第12回　EVIEWSによる計量分析 第13回　Rによる計量分析 第14回　まとめ		
事前・事後学習の内容	予習復習を行うことが重要です		
評価方法	最終レポートで評価します。		
受講生へのコメント	テキストの予習復習をきちんと行うこと		
教材	前期：World Development Report 2019 後期：白砂堤津耶著『例題で学ぶ初歩からの計量経済学　第二版　』日本評論社		

授業コード	E063000110	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	2030年に向けて資本主義のルールが大きく変わろうとしています。コロナ禍はこの動きを加速しています。この演習では、新しい経済社会やSDGsをめぐる国際的な動向、および現在の日本が抱えている課題と展望に関する専門テキストを輪読し、個人報告とグループワーク（共同での資料作成を含む）を組み合わせて行います。希望があれば、学外でのセミナーなどにも参加します。		
授業の到達目標	① 現代の経済社会の直面している課題と展望に関する基礎知識を理解し、説明できるようになる。 ② ①を利用して社会問題や環境問題の現実問題が分析できるようになる。 ③ 内容を論理的にまとめ、分かり易いプレゼンテーションができるようになる。 ④各自が関心を持ったテーマが専門演習4に向けた研究テーマと発展できるようになる。		
授業内容・授業計画	各自が担当する部分の内容を事前に理解した上でまとめて発表する。ゼミ生全員はその発表内容を議論して理解を深める。 ４年次に卒業論文作成することを念頭に、問題意識をもってデータや資料を収集し、卒業論文を作成するための用意をする。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_前期ガイダンス 第２回_テーマの選択① 第３回_テーマの選択② 第４回_テキスト講読と質疑 第５回_テキスト講読と質疑 第６回_テキスト講読と質疑 第７回_テキスト講読と質疑 第８回_テキスト講読と質疑 第９回_テキスト講読と質疑 第10回_テキスト講読と質疑 第11回_テキストの講読と質疑 第12回_中間発表① 第13回_中間発表② 第14回_前期授業のまとめ 第15回_後期ガイダンス 第16回_テーマの選択① 第17回_テーマの選択② 第18回_テキスト講読と質疑 第19回_テキスト講読と質疑 第20回_テキスト講読と質疑 第21回_テキスト講読と質疑 第22回_テキスト講読と質疑 第23回_テキスト講読と質疑 第24回_テキスト講読と質疑 第25回_専門演習４に向けた研究テーマの発表① 第26回_専門演習４に向けた研究テーマの発表② 第27回_専門演習４に向けた研究テーマの発表③ 第28回_後期授業内容のまとめ		
事前・事後学習の内容	①各自が担当するテキストの部分をきちんと理解して、その発表を準備すること。 ②プレゼン資料をWebclassにアップするので、受講者全員は、それを復習し、次回発表されるテキストの内容を予習すること。		
評価方法	授業の到達目標について基本的な能力が身につけることが求められるので、その達成度で成績評価を行う。 また、受講態度、発表、積極性等によって総合的に評価する。 ①各自が担当するテキストの内容をきちんと理解して、わかりやすく説明すること。 ②テキストの発表内容を事前に予習して、積極的に内容を議論して自分の見解を出すこと。 ③発表に積極的に関与して、自分のコメントやアドバイスを出してあげること。		
受講生へのコメント	①演習はできるだけ対面で行いたいと思っていますが、オンライン対応で演習ができるようにします。 ②受講生の皆さんには、オンラインへの対応をお願いします。オンラインによる就職活動も急速に一般化しました。私たちの働き方も急速に変化しています。 ③要望や相談などがあれば、いつでも言ってください。 ④積極的な参加を期待しています。		
教材	テキスト： 2030年に向けて資本主義のルールがどう変わろうとしているのか？―新しい経済社会やSDGsをめぐる国際的な動向、および現在の日本が抱えている課題と展望に関する専門テキスト候補はいくつもあります。皆さんと一緒に最初の数回で決めたいと思います。		

授業コード	E063000270	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	東南アジア経済に関連する文献の輪読とディスカッション、レポート作成等を通して、読解力、分析力、プレゼンテーション能力の更なる向上を目指す。		
授業の到達目標	自ら課題を発見して、その課題を理解し、解決していく一連のプロセスを経験することで、問題発見能力やその解決能力を養いたい。プレゼンテーション能力の向上に加えて、グループ・ディスカッションを通して他人の意見を聞き、自身の意見を述べることができるようになることが期待される。		
授業内容・授業計画	前半は毎回テキストの輪読と議論を重ねることで東南アジア経済に関する理解を深め、後半は学生自らが設定するテーマに関して主体的に調査を行い、最終レポートにまとめる。 第１回_ガイダンス 第２回_報告、ディスカッション 第３回_報告、ディスカッション 第４回_報告、ディスカッション 第５回_報告、ディスカッション 第６回_報告、ディスカッション 第７回_報告、ディスカッション 第８回_報告、ディスカッション 第９回_報告、ディスカッション 第10回_報告、ディスカッション 第11回_報告、ディスカッション 第12回_報告、ディスカッション 第13回_報告、ディスカッション 第14回_中間総括 第15回_テーマ設定 第16回_調査計画報告① 第17回_調査計画報告② 第18回_グループワーク 第19回_グループワーク 第20回_中間報告① 第21回_中間報告② 第22回_グループワーク 第23回_グループワーク 第24回_グループワーク 第25回_グループワーク 第26回_グループワーク 第27回_最終報告① 第28回_最終報告②		
事前・事後学習の内容	輪読のテキストを事前に読んでくること。授業後は興味を持ったテーマに関する文献を読んでください。		
評価方法	授業への参加状況、報告、ディスカッション、レポートを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	授業への主体的かつ積極的な参加を期待します。また、報告等の準備をする時間を演習時間外に確保してください。		
教材	テキスト：ガイダンス時に受講者と相談の上、決定する。		

授業コード	E063000030	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	３年次の学生が，担当教員から統計分析や，空間経済学，都市・地域経済学の分野に関する知見を学ぶとともに，同じ演習に所属する他の学生とのグループの課題探究や，他の演習に所属する学生または他大学の学生を前にした研究発表に取り組む．これらの学修と取り組みを通して，基礎的な探究能力，プレゼンテーション能力，複眼的な構想力を身に付け，卒業論文を作成しうる力を養う．		
授業の到達目標	１．個人研究テーマの探索：個人が関心を持つ研究テーマを探し出し，それに関してオリジナルな仮説を立て，それを検証する方法を導くことができるようにする． ２．専門的知識の学習：実践的なスキルとしての統計分析の学習や，各自の研究に関する専門的な書籍や論文の輪講を通して，研究活動に必要な専門的知識を身に付ける． ３．グループ研究活動：複数のメンバーで議論を行うことも研究では重要なことである．似通った問題意識を持つメンバーでグループをつくり，互いに意見を交わしながら研究活動ができるようにする．		
授業内容・授業計画	この授業は対面で行うことを基本とする． 第１回_ガイダンス 第２回_個人研究テーマの探索① 第３回_個人研究テーマの探索② 第４回_統計分析の学習① 第５回_統計分析の学習② 第６回_統計分析の学習③ 第７回_統計分析の学習④ 第８回_統計分析の学習⑤ 第９回_グループの研究課題に関する研究計画・分担の立案 第10回_グループ研究活動① 第11回_グループ研究活動② 第12回_研究に関する書籍・論文の輪講① 第13回_研究に関する書籍・論文の輪講② 第14回_前期授業内容のまとめ 第15回_研究に関する書籍・論文の輪講③ 第16回_研究に関する書籍・論文の輪講④ 第17回_グループ研究活動③ 第18回_グループ研究活動④ 第19回_グループ研究活動⑤ 第20回_グループの研究成果に関する中間報告① 第21回_グループの研究成果に関する中間報告② 第22回_グループの研究成果に関する中間報告③ 第23回_グループの研究成果の整理と発表の準備 第24回_グループの研究成果の発表の予行演習と修正 第25回_グループの研究成果の発表		
事前・事後学習の内容	事前の学習：プレゼンテーションの準備や課題 事後の学習：討論で得られた意見のまとめや講義および演習の復習		
評価方法	上記到達目標１～３の達成度で評価を行う．達成度評価は，１年間の授業を通して各自が行う個人の報告と，グループ研究活動の内容とそれに対する参画・貢献度合いにもとづいて実施する．		
受講生へのコメント	演習科目なので，積極的に参加・発言することが求められる．		
教材	テキスト，参考文献は必要に応じて案内する．		

授業コード	E063000310	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	黒田　雄太		
科目の主題	各自が興味のあるテーマについて、ミクロ経済学やマクロ経済学の理論をベースに、計量経済学の手法および統計ソフトウェアを用いて、実証的な分析を行う。 前半は計量経済学の基礎的なテキストの輪読と、統計ソフトウェアによるデータ分析の演習を行う。 後半はそれまで学んだことを活かし、自らが関心のあるテーマについて、実際にデータを入手して分析を行う。		
授業の到達目標	計量経済学の手法を理解し、実際にデータを用いながら分析する能力を身につける。 関心のあるテーマについて関連研究を調査し、卒業論文執筆に向けた準備を進める。		
授業内容・授業計画	この授業は原則として対面で行うが、状況に応じてZoomを用いた遠隔授業に変更される場合がある。 担当者は事前に資料を作成して報告を行い、参加者はその発表内容について議論を行い理解を深める。 最終的に論文を作成することを目標として、資料・データ収集、分析手法の習得、研究報告および議論を行う。 スケジュールは研究の進捗状況に応じて変更される場合がある。 第１回 ガイダンス 第２回 テキスト輪読 第３回 テキスト輪読 第４回 テキスト輪読 第５回 データ分析演習 第６回 データ分析演習 第７回 データ分析演習 第８回 研究テーマ選定 第９回 研究テーマ選定 第10回 関連研究調査・報告 第11回 関連研究調査・報告 第12回 関連研究・データ収集 第13回 関連研究・データ収集 第14回 進捗報告 第15回 進捗報告 第16回 データ整理・加工・分析 第17回 データ整理・加工・分析 第18回 データ整理・加工・分析 第19回 結果報告および議論 第20回 結果報告および議論 第21回 データ整理・加工・分析 第22回 データ整理・加工・分析 第23回 データ整理・加工・分析 第24回 結果報告および議論 第25回 結果報告および議論 第26回 専門演習4の研究計画報告 第27回 専門演習4の研究計画報告 第28回 総括		
事前・事後学習の内容	講義時間以外にも、必要に応じて調査・学習および議論を行うことが望まれる。 報告を行う際は特に事前の準備を入念に行うこと。		
評価方法	報告や議論への参加状況、研究結果などに基づいて総合的に評価する。		
受講生へのコメント	事前の質問がある場合は、教員紹介ページに記載されているメールアドレスに連絡すること。		
教材	参考書 伊藤公一朗（2017）『データ分析の力 因果関係に迫る思考法（光文社新書）』光文社 星野匡郎・田中久稔（2016）［Rによる実証分析 -回帰分析から因果分析へ-］オーム社 田中隆一（2015）計量経済学の第一歩：実証分析のススメ』有斐閣 山本勲（2015）『実証分析のための計量経済学』中央経済社		

授業コード	E063000120	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	この科目では、少子高齢化に関わる日本経済の問題についての専門テキスト輪読やグループ研究、学内および他大学との研究発表会に参加するとともに、専門演習4に向けた研究テーマを検討する。		
授業の到達目標	① 基礎知識を理解し、説明できるようになる。 ② ①を利用して社会問題や現実問題が分析できるようになる。 ③ 内容を論理的にまとめ、分かり易いプレゼンテーションができるようになる。		
授業内容・授業計画	各自が担当する部分の内容を事前に理解した上でまとめて発表する。ゼミ生全員はその発表内容を議論して理解を深める。 ４年次に卒業論文作成することを念頭に、問題意識をもってデータや資料を収集し、卒業論文を作成するための用意をする。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_テキスト講読と質疑 第３回_テキスト講読と質疑 第４回_テキスト講読と質疑 第５回_グループ研究 第６回_グループ研究 第７回_グループ研究 第８回_グループ研究 第９回_グループ研究 第10回_グループ研究 第11回_プレゼンテーション練習 第12回_プレゼンテーション練習 第13回_研究発表・ディスカッション 第14回_グループ研究・まとめ 第15回_前期授業内容のまとめ 第16回_調査① 第17回_調査② 第18回_調査内容まとめ 第19回_グループ研究 第20回_グループ研究 第21回_グループ研究 第22回_グループ研究 第23回_グループ研究 第24回_プレゼンテーション練習 第25回_研究発表・ディスカッション 第26回_グループ研究・まとめ 第27回_専門演習４に向けた研究テーマの発表 第28回_後期授業内容のまとめ		
事前・事後学習の内容	各自が担当するテキストの部分をきちんと理解して、その発表を準備すること。 受講者全員は、次回発表されるテキストの内容を予習すること。		
評価方法	授業の到達目標について基本的な能力が身につけることが求められるので、その達成度で成績評価を行う。 また、受講態度、発表、積極性等によって総合的に評価する。 ①各自が担当するテキストの内容をきちんと理解して、わかりやすく説明すること。 ②テキストの発表内容を事前に予習して、積極的に内容を議論して自分の見解を出すこと。 ③発表に積極的に関与して、自分のコメントやアドバイスを出してあげること。 ④無断欠席しないこと。		
受講生へのコメント	積極的な発言を期待しています。		
教材	テキスト、 参考文献、授業中指示する。		

授業コード	E063000130	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	各学期前半は、日本経済の現況について、日本語あるいは英語の文献に基づいて議論を行う。用いるテキストは、日本経済新聞「経済教室」やFinancial Times “Opinion” を予定している。毎回、全員が内容の要約と自分の意見をA４用紙1枚程度にまとめて発表する。その後、教員の司会のもと、全員で議論を行う。各学期後半は、各自が選んだテーマについて自由研究を行う。演習では、全員が発表し、議論を行う。		
授業の到達目標	以下の能力を身につけることを目標とする １　ミクロ経済学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。 ２　１を利用して、日本経済の現実問題が分析できるようになる。 ３　内容を論理的にまとめて、分かりやすいプレゼンテーションができるようになる		
授業内容・授業計画	学期前半は、日本語または英語の文献に基づいて、各自報告の上、議論を行う。 学期後半は、各自の問題意識に基づいて、論文を作成すること。 スケジュールは以下の通り。 第１回_前期テーマ打ち合わせ 第２回_テキスト講読とディスカッション 第３回_テキスト講読とディスカッション 第４回_テキスト講読とディスカッション 第５回_テキスト講読とディスカッション 第６回_テキスト講読とディスカッション 第７回_テキスト講読とディスカッション 第８回_テキスト講読とディスカッション 第９回_個人研究とディスカッション 第10回_個人研究とディスカッション 第11回_個人研究とディスカッション 第12回_個人研究とディスカッション 第13回_個人研究とディスカッション 第14回_個人研究とディスカッション 第15回_個人研究発表会 第16回_後期テーマ打ち合わせ 第17回_テキスト講読とディスカッション 第18回_テキスト講読とディスカッション 第19回_テキスト講読とディスカッション 第20回_テキスト講読とディスカッション 第21回_テキスト講読とディスカッション 第22回_テキスト講読とディスカッション 第23回_テキスト講読とディスカッション 第24回_個人研究とディスカッション 第25回_個人研究とディスカッション 第26回_個人研究とディスカッション 第27回_個人研究とディスカッション 第28回_個人研究とディスカッション		
事前・事後学習の内容	事前にはアサインされた課題を行うこと。事後にはディスカッションの内容を踏まえて、発展させること。		
評価方法	到達目標１～３の達成度で評価を行う。 単位を取得するためには、毎回レポートを提出し、ディスカッションに参加することが求められる。 成績の評価は、各回のレポート、発表、ディスカッションの評価を総計して行う。		
受講生へのコメント	止むを得ず欠席する場合は、事前に連絡し、事後的にレポートを提出すること。		
教材	事前に毎回のテキストを配布する。		

授業コード	E063000320	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	五十川　大也		
科目の主題	ミクロ経済学に基づいた実証分析をテーマとする。第一に、実証的な観点を含むミクロ経済学のテキストを輪読する。第二に、現代の様々な経済問題・社会問題の中からトピックを選定し、ゼミ内でディスカッションを行う。また、ディスカッションで扱ったテーマの中からいくつかに絞り、グループ研究を行う。		
授業の到達目標	・ミクロ経済学を用いた実証分析を行うための手法を身につける。 ・エビデンスに基づいてディスカッションを行うための基礎を涵養する。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 前期（第1～14回） ・テキストや論文の輪読 ・テーマを決めたディスカッション 後期（第15～28回） ・グループ研究 ・グループ報告とそれに基づくディスカッション		
事前・事後学習の内容	講義内で文献を指定することがあるので、それを事前に読んでおくこと。グループワークでは、メンバー間でコミュニケーションを取りながら主体的に参加すること。また、発表資料作成の時間を確保すること。		
評価方法	発表の内容、グループワークへの参加状況、授業態度等を踏まえて総合的に行う。		
受講生へのコメント	主体的・積極的な姿勢での参加を期待します。		
教材	開講時に指示する。		

授業コード	E063000080	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	この科目では、ミクロ経済学についての専門テキスト輪読やグループ研究、学内および他大学との研究発表会に参加するとともに、専門演習4に向けた研究テーマを検討する。		
授業の到達目標	① ミクロ経済学・計量経済学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。 ② ①を利用して現実問題が分析できるようになる。 ③ 内容を論理的にまとめ、分かり易いプレゼンテーションができるようになる。		
授業内容・授業計画	通常のゼミにおいては、各自が担当する部分の内容を事前に理解した上でまとめて発表する。ゼミ生全員はその発表内容を議論して理解を深める。また、４年次に卒業論文作成することを念頭に、問題意識をもってデータや資料を収集し、卒業論文を作成するための用意をする。 インターゼミ、三商大、他ゼミとの合同報告会等にも参加する。 詳細については、ゼミ生の意見も聞きつつ、初回時に指示する。		
事前・事後学習の内容	通常のゼミにおいては、各自が担当するテキストの部分をきちんと理解して、その発表を準備すること。 また、受講者全員は、次回発表されるテキストの内容を予習すること。		
評価方法	授業の到達目標について基本的な能力が身につけることが求められるので、その達成度で成績評価を行う。 また、受講態度、発表、積極性等によって総合的に評価する。 ① 各自が担当するテキストの内容をきちんと理解して、わかりやすく説明すること。 ② テキストの発表内容を事前に予習して、積極的に内容を議論して自分の見解を出すこと。 ③ 発表に積極的に関与して、自分のコメントやアドバイスを出してあげること。 ④ 無断欠席しないこと。		
受講生へのコメント	ミクロ経済学的・計量経済学的視点も持てる様になってもらえればと思います。		
教材	授業中指示する。		

授業コード	E063000100	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	この科目では、マルクス経済学についての専門テキスト輪読やグループ研究、学内および他大学との研究発表会（UCPE）、フィリピンでの海外研修に参加するとともに、専門演習4に向けた研究テーマを検討する。		
授業の到達目標	① マルクス経済学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。 ② ①を利用して社会問題、労働問題や環境問題の現実問題が分析できるようになる。 ③ 内容を論理的にまとめ、分かり易いプレゼンテーションができるようになる。		
授業内容・授業計画	各自が担当する部分の内容を事前に理解した上でまとめて発表する。ゼミ生全員はその発表内容を議論して理解を深める。 ４年次に卒業論文作成することを念頭に、問題意識をもってデータや資料を収集し、卒業論文を作成するための用意をする。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_テーマの選択 第３回_テキスト講読と質疑 第４回_テキスト講読と質疑 第５回_テキスト講読と質疑 第６回_テキスト講読と質疑 第７回_テキスト講読と質疑 第８回_テキスト講読と質疑 第９回_テキスト講読と質疑 第10回_中間発表① 第11回_中間発表② 第12回_中間発表③ 第13回_前期授業内容のまとめ 第14回_フィリピン研修 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_テキスト講読と質疑 第19回_テキスト講読と質疑 第20回_テキスト講読と質疑 第21回_テキスト講読と質疑 第22回_テキスト講読と質疑 第23回_テキスト講読と質疑 第24回_テキスト講読と質疑 第25回_専門演習４に向けた研究テーマの発表① 第26回_専門演習４に向けた研究テーマの発表② 第27回_専門演習４に向けた研究テーマの発表③ 第28回_後期授業内容のまとめ		
事前・事後学習の内容	各自が担当するテキストの部分をきちんと理解して、その発表を準備すること。受講者全員は、次回発表されるテキストの内容を予習すること。		
評価方法	授業の到達目標について基本的な能力が身につけることが求められるので、その達成度で成績評価を行う。 また、受講態度、発表、積極性等によって総合的に評価する。 ①各自が担当するテキストの内容をきちんと理解して、わかりやすく説明すること。 ②テキストの発表内容を事前に予習して、積極的に内容を議論して自分の見解を出すこと。 ③発表に積極的に関与して、自分のコメントやアドバイスを出してあげること。 ④無断欠席しないこと。		
受講生へのコメント	要望などがあれば、いつでも言ってください。積極的な参加を期待しています。		
教材	テキスト、参考文献などは授業中に適宜指示する。		

授業コード	E063000190	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	2020年度は、「権利、シティズンシップ、グローバル化」をテーマにしますが、その重点を、グローバル化のもとでの現代の（「市民の権利」や「人の権利」に限定されない）権利に置いてみようと思います。トピックとしては、欧米において移民排斥を唱える政党や勢力が台頭する背景となった移民と難民の問題を取り上げます。		
授業の到達目標	人権とシティズンシップの原理的な理解をめざして、やや専門的な文献の読解に努めます。同時に、現代世界が直面しているアクチュアルな課題と向き合う姿勢を涵養します。		
授業内容・授業計画	前期の演習では、人権とシティズンシップに関する現代の基礎的な理論的文献を輪読します。後期の演習は、移民、難民、格差、貧困といった現代世界が直面する課題の現状を見ていきながら、それへの対処の仕方を考える応用編となります。		
事前・事後学習の内容	前期の演習における理論的なテキストの輪読では、その内容を正しく把握した報告の準備が求められます。後期の演習では現代の諸問題に触れていきますから、授業後の応用的考察が鍵を握ります。		
評価方法	演習における報告の的確さ、考察の深み、応用の力量を基準にして成績を評価します。		
受講生へのコメント	先入見を排して物事を考える態度を養ってください。		
教材	テキスト：横藤田誠ほか『人権入門〔第3版〕』（法律文化社）、T.H.マーシャルほか『シティズンシップと社会的階級』（法律文化社）など。		

授業コード	E063000150	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	金融・経済の諸問題を取り上げながらディスカッションを中心とした授業を行います。 金融・経済に関する基礎知識を学ぶと同時に、現実の経済問題に対して解決策を検討する。		
授業の到達目標	金融論と経済学に関する知識を身に付ける。 スピーチ及びディスカッションの技術を身に付ける。 現実の経済問題について批判的に検討する能力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 経済問題に関する３分間スピーチ、新聞記事を使った経済の時事問題に関するディスカッション(経済学的検討を含む)、テキストの輪読等を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_金融・経済問題 第３回_金融・経済問題 第４回_金融・経済問題 第５回_金融・経済問題 第６回_金融・経済問題 第７回_金融・経済問題 第８回_金融・経済問題 第９回_金融・経済問題 第10回_金融・経済問題 第11回_金融・経済問題 第12回_金融・経済問題 第13回_金融・経済問題 第14回_前期授業のまとめ 第16回_金融・経済問題 第17回_金融・経済問題 第18回_金融・経済問題 第19回_金融・経済問題 第20回_金融・経済問題 第21回_金融・経済問題 第22回_金融・経済問題 第23回_金融・経済問題 第24回_金融・経済問題 第25回_金融・経済問題 第26回_金融・経済問題 第27回_金融・経済問題 第28回_後期授業のまとめ		
事前・事後学習の内容	前回の授業内容を復習し、次回授業のテキストの該当箇所を読んでおくこと。		
評価方法	授業態度、発言状況などから総合的に判断します。 授業への積極的な参加を重視します。		
受講生へのコメント	新聞を読む習慣を身に付けてください。 現実の経済問題に関心を持つようにして下さい。		
教材	テキスト：翁邦雄著『金利と経済』ダイヤモンド社、2017年		

授業コード	E063000090	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	客観的かつ論理的にディスカッションする力を養い、仮卒業論文を作成する。		
授業の到達目標	経済学的な視点から各自の問題意識を具体化した後、既存の議論を整理し、論拠を示しながら自らの意見を展開していくことができるようになる。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 前半は、国際経済の基礎知識を文献を用いながらゼミ生による報告形式で確認していく。同時にグループワークを実施する。後半は、まずは論文執筆の基本となる文章構成パターンを再確認していく。その後は，各自，仮卒業論文の具体的なテーマ選定に関して報告，今後の論文構成を議論していく。なお，中間報告，修正報告の機会を設ける。 第１回_ガイダンス 第２回_分担報告 第３回_分担報告 第４回_分担報告 第５回_分担報告、グループワーク1-1 第６回_分担報告、グループワーク1-2 第７回_分担報告、グループワーク1-3 第８回_分担報告、グループワーク2-1 第９回_分担報告、グループワーク2-2 第10回_分担報告、グループワーク2-3 第11回_分担報告、グループワーク3-1 第12回_分担報告、グループワーク3-2 第13回_分担報告、グループワーク3-3 第14回_前期授業内容のまとめ 第15回_シンポジウム用グループワークキックオフ 第16回_調査① 第17回_調査② 第18回_調査内容まとめ 第19回_論文指導ガイダンス 第20回_仮卒業論文のテーマ決め 第21回_仮卒業論文の執筆 第22回_仮卒業論文の執筆 第23回_仮卒業論文の執筆 第24回_仮卒業論文の執筆 第25回_仮卒業論文の中間報告 第26回_インターゼミ 第27回_スタディトリップ 第28回_後期授業内容のまとめ		
事前・事後学習の内容	各自分担報告の準備をすること。論文執筆のフィードバックを行うこと。時間外グループワークによる調査を実施すること。		
評価方法	分担報告のレポートを提出すること。仮卒業論文を執筆すること。		
受講生へのコメント	活動のすべては自主性に委ねられる。		
教材	適宜指示する。		

授業コード	E063000040	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	この科目では、規制の経済学についての専門テキスト輪読やグループ研究、学内および他大学との研究発表会に参加するとともに、専門演習4に向けた研究テーマを検討する。		
授業の到達目標	① 規制の経済学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。 ② ①を利用して社会問題や規制政策の現実問題が分析できるようになる。 ③ 内容を論理的にまとめ、分かり易いプレゼンテーションができるようになる。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 各自が担当する部分の内容を事前に理解した上でまとめて発表する。ゼミ生全員はその発表内容を議論して理解を深める。 ４年次に卒業論文作成することを念頭に、問題意識をもってデータや資料を収集し、卒業論文を作成するための用意をする。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_テーマの選択 第３回_テキスト講読と質疑 第４回_テキスト講読と質疑 第５回_テキスト講読と質疑 第６回_テキスト講読と質疑 第７回_テキスト講読と質疑 第８回_テキスト講読と質疑 第９回_テキスト講読と質疑 第10回_テキスト講読と質疑 第11回_中間発表① 第12回_中間発表② 第13回_中間発表③ 第14回_前期授業内容のまとめ 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_テキスト講読と質疑 第19回_テキスト講読と質疑 第20回_テキスト講読と質疑 第21回_テキスト講読と質疑 第22回_テキスト講読と質疑 第23回_テキスト講読と質疑 第24回_テキスト講読と質疑 第25回_テキスト講読と質疑 第26回_専門演習４に向けた研究テーマの発表① 第27回_専門演習４に向けた研究テーマの発表② 第28回_専門演習４に向けた研究テーマの発表③		
事前・事後学習の内容	各自が担当するテキストの部分をきちんと理解して、その発表を準備すること。 受講者全員は、次回発表されるテキストの内容を予習すること。		
評価方法	授業の到達目標について基本的な能力が身につけることが求められるので、その達成度で成績評価を行う。 また、受講態度、発表、積極性等によって総合的に評価する。 ①各自が担当するテキストの内容をきちんと理解して、わかりやすく説明すること。 ②テキストの発表内容を事前に予習して、積極的に内容を議論して自分の見解を出すこと。 ③発表に積極的に関与して、自分のコメントやアドバイスを出してあげること。 ④無断欠席しないこと。		
受講生へのコメント	あらかじめ新聞やニュースなどを通し、わが国の社会・経済の仕組みへの関心を高めておくことを希望します。		
教材	テキスト：Viscusi, Harrington and Vernon (2005) Economics of Regulation and Antitrust(4th ed.), MIT Press. 参考書：卒業論文テーマにより、適宜指示する。		

授業コード	E063000160	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	この科目では、〇〇経済学についての専門テキスト輪読やグループ研究、学内および他大学との研究発表会に参加するとともに、専門演習4に向けた研究テーマを検討する。		
授業の到達目標	① 〇〇経済学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。 ② ①を利用して社会問題や〇〇経済の現実問題が分析できるようになる。 ③ 内容を論理的にまとめ、分かり易いプレゼンテーションができるようになる。		
授業内容・授業計画	各自が担当する部分の内容を事前に理解した上でまとめて発表する。ゼミ生全員はその発表内容を議論して理解を深める。 ４年次に卒業論文作成することを念頭に、問題意識をもってデータや資料を収集し、卒業論文を作成するための用意をする。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_テーマの選択 第３回_テキスト講読と質疑 第４回_テキスト講読と質疑 第５回_テキスト講読と質疑 第６回_テキスト講読と質疑 第７回_テキスト講読と質疑 第８回_テキスト講読と質疑 第９回_テキスト講読と質疑 第10回_テキスト講読と質疑 第11回_中間発表① 第12回_中間発表② 第13回_中間発表③ 第14回_前期授業内容のまとめ 第15回_夏合宿 第16回_調査① 第17回_調査② 第18回_調査内容まとめ 第19回_テキスト講読と質疑 第20回_テキスト講読と質疑 第21回_テキスト講読と質疑 第22回_テキスト講読と質疑 第23回_テキスト講読と質疑 第24回_テキスト講読と質疑 第25回_テキスト講読と質疑 第26回_テキスト講読と質疑 第27回_専門演習４に向けた研究テーマの発表① 第28回_専門演習４に向けた研究テーマの発表② 第29回_専門演習４に向けた研究テーマの発表③ 第30回_後期授業内容のまとめ		
事前・事後学習の内容	各自が担当するテキストの部分をきちんと理解して、その発表を準備すること。 受講者全員は、次回発表されるテキストの内容を予習すること。		
評価方法	授業の到達目標について基本的な能力が身につけることが求められるので、その達成度で成績評価を行う。 また、受講態度、発表、積極性等によって総合的に評価する。 ①各自が担当するテキストの内容をきちんと理解して、わかりやすく説明すること。 ②テキストの発表内容を事前に予習して、積極的に内容を議論して自分の見解を出すこと。 ③発表に積極的に関与して、自分のコメントやアドバイスを出してあげること。 ④無断欠席しないこと。		
受講生へのコメント	ゼミ生はこのシラバスを見てください！絶対！		
教材	テキスト、 参考文献、授業中指示する。		

授業コード	E063000140	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	杉田　菜穂		
科目の主題	社会政策についての専門テキストの要約報告やグループ研究に取り組んでいただきます。（今年度は、三和建設株式会社と連携して取り組みます。） 専門演習4に向かって、個人研究テーマの検討もしていただきます。		
授業の到達目標	① 社会政策の基礎知識を理解し、説明できるようになる。 ② 社会政策の課題に関心をもち、ある課題について自分なりに考察を深められるようになる。 ③ 内容を論理的にまとめ、分かり易いプレゼンテーションができるようになる。		
授業内容・授業計画	各自が担当する部分の内容を事前に理解した上でまとめて発表する。ゼミ生全員はその発表内容を議論して理解を深める。 ４年次に卒業論文作成することを念頭に、問題意識をもってデータや資料を収集し、卒業論文を作成するための用意をする。 大まかなスケジュールは以下の通り（グループワークには、現地訪問調査を含みます）。 第１回_ガイダンス 第２回_グループワーク 第３回_グループワーク 第４回_中間発表 第５回_グループワーク 第６回_グループワーク 第７回_グループワーク 第８回_グループワーク 第９回_グループワーク 第10回_グループワーク 第11回_中間発表 第12回_グループワーク 第13回_グループワーク 第14回_前期授業内容のまとめ 第15回_グループワーク 第16回_グループワーク 第17回_グループワーク 第18回_中間発表 第19回_グループワーク 第20回_グループワーク 第21回_グループワーク 第22回_中間発表 第23回_グループワーク 第24回_グループワーク 第25回_グループワーク 第26回_成果発表 第27回_専門演習４に向けた研究テーマの発表 第28回_後期授業内容のまとめ		
事前・事後学習の内容	テキストの要約報告においては、各自が担当するテキストの部分をきちんと理解して、その発表を準備すること。 その他、講義内で指示された課題に取り組むこと。		
評価方法	受講態度、発表、積極性等によって総合的に評価する。 ①各自が担当するテキストの内容をきちんと理解して、わかりやすく説明すること。 ②テキストの発表内容を事前に予習して、積極的に内容を議論して自分の見解を出すこと。 ③発表に積極的に関与して、自分のコメントやアドバイスを出すこと。 ④無断欠席しないこと。		
受講生へのコメント	現地訪問調査など、時間割に定められた曜時に収まらない活動を含みます（予定調整の上、実施します）。		
教材	講義のなかで紹介します。		

授業コード	E063000050	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	計量経済学について分析手法についての学習、統計ソフトを用いた演習、グループ研究、学内および他大学との研究発表会に参加するとともに、専門演習4に向けた研究テーマを検討する。		
授業の到達目標	計量経済学の基礎知識を理解し、データ分析の技術を身につける。		
授業内容・授業計画	この授業は対面方式により実施する。 各自が担当する部分の内容を事前に理解した上でまとめて発表する。ゼミ生全員はその発表内容を議論して理解を深める。 ４年次に卒業論文作成することを念頭に、問題意識をもってデータや資料を収集し、卒業論文を作成するための用意をする。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回 ガイダンス 第２回 計量経済学の基礎についての学習 第３回 計量経済学の基礎についての学習 第４回 統計ソフトを用いた演習 第５回 統計ソフトを用いた演習 第６回 統計ソフトを用いた演習 第７回 グループワークのテーマ選定 第８回 グループワークのテーマ選定 第９回 グループワークのテーマ選定 第10回 研究仮説の検討 第11回 研究仮説の検討 第12回 関連資料・データの収集 第13回 関連資料・データの収集 第14回 中間報告 第15回 中間報告 第16回 データの整理・加工 第17回 データの整理・加工 第18回 データの整理・加工 第19回 統計的分析 第20回 統計的分析 第21回 分析結果の解釈 第22回 分析結果の解釈 第23回 研究成果の報告 第24回 研究成果の報告 第25回 今後の課題についての検討 第26回 今後の課題についての検討 第27回 専門演習４に向けた研究テーマの発表 第28回 専門演習４に向けた研究テーマの発表、後期授業内容のまとめ		
事前・事後学習の内容	各自が問題意識をもってグループワークにおける研究に取り組むこと。 発表や中間報告等におけるコメント・アドバイスを受けて適宜研究・プレゼンテーションの修正に努めること。		
評価方法	出席状況や発表の質などによって総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	参考文献 1. 山本勲（2015）『実証分析のための計量経済学』中央経済社2. 田中隆一（2015）『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ（有斐閣ストゥディア）』 有斐閣3. 中室牧子・津川友介（2017）『原因と結果」の経済学 データから真実を見抜く思考法 』ダイヤモンド社 4. 伊藤公一朗（2017）『データ分析の力 因果関係に迫る思考法（光文社新書）』光文社		

授業コード	E063000180	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	この授業は対面（混合）で実施する。 3年生のゼミでは、アクティブ・ラーニングとグループワークにより経済学部の人材育成目標に即した授業を行う。テキストの読解、インターゼミ、デラサール大学研修旅行（シンポジウム発表を含む）アンドリュース大学との共同研究、三商大討論会の発表を行う。特に、アンドリュース大学との共同研究は、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の助成を受け、COIL型授業を行う。		
授業の到達目標	①　日本語のテキストを正確に読める。（論理構成の把握、理論の理解） ②　適切な問題を発見し、その問題にアプローチする方法を立案できる。 ③　他国の学生を含む他者と協議し、適切な解決方法を提案する。 ④　他国の学生を含む他者に、論旨を明確に伝えるプレゼンテーションと質疑応答ができる。		
授業内容・授業計画	最初の6週間は、Learning Through Discussion (LTD)によるテキスト読解を行う。全員がレジュメを作成した上で授業に参加し、ワークシートを完成させる。その後、インターゼミに向けた研究を行う。夏休みにはデラサール大学の研修旅行を行い、その中で学生討論会を実施する。後期にはアメリカのアンドリュース大学とグループを作り、SkypeやSNSを利用して中間報告会と最終報告会を行う。最後に旧三商大　学生討論会で報告する。その後は、各自卒業研究の準備を開始する。 第１回_第1章　イソップのねずみと環境破壊 第２回_第2章　社会的ジレンマの発生メカニズム 第３回_第3章　不信のジレンマと安心の保証 第４回_第4章　ジレンマを生きる 第５回_第5章　「かしこさ」の呪縛を超えて 第６回_第6章　社会的ジレンマの「解決」を求めて 第７回_(対面) 研究方針と計画立案 第８回_(対面) 研究内容の整理と発展 第９回_(対面) パワーポイント　1次案の作成 第10回_(対面) パワーポイント　完成 第11回_フィリピン発表に向けた改善方針立案 第12回_(対面) 研究内容の整理と発展 第13回_(対面) パワーポイント　1次案の作成 第14回_(対面) パワーポイント　完成 第15回_(対面) 発表準備 第16回_(対面) デラサール大学　学生討論会　発表 第17回_(対面) 研究内容の整理と発展 第18回_研究内容の整理と発展 第19回_研究内容の整理と発展 第20回_(対面) 共同調査 第21回_(対面) 中間発表会 第22回_パワーポイント　完成 第23回_アンドリュース大学　報告会 第24回_クリティークペーパーの作成 第25回_旧三商大　学生討論会 第26回_専門演習３のデブリーフィング 第27回_(対面)　卒業論文のテーマ発見 第28回_(対面)　卒業研究の方針発表（卒論発表会と合同）		
事前・事後学習の内容	事前・事後学習：　テキスト読解、各種調査を行う。授業時間は、読解内容及び調査内容の報告の場と次の授業までに各自が行うことの計画のみを行う。		
評価方法	授業、調査、報告への参加及び寄与によって評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	山崎俊夫『社会的ジレンマ-「環境破壊」から「いじめ」まで』　PHP研究所　（2000）		

授業コード	E063000250	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	松本　淳		
科目の主題	この科目は財政学の基礎知識・基礎理論を学ぶとともに、その知識・理論が現実社会においてどのように役に立ち、また発展させていけばよいかを追究し続けることを主題とする。		
授業の到達目標	演習3における目標は二つある。一つは、7月初旬に行う学外の関係者を招いての研究報告会において、よい報告を行うと同時に、学外の方々とのつながりを創ることである。 もう一つの目標は、12月初旬に行われる神戸大学との合同報告会において、よい報告および議論を行うことである。さらに、現地調査を行った地域での研究報告会を行い、地域の方々とのつながりを創ることも大切な目標とする。また個人単位ではなく、チームとして活動し、個人の役割を果たすことも目標とする。		
授業内容・授業計画	到達目標で掲げた報告会に向けての準備・議論・作業が主な内容となる。また、現場にも必ず行き、大学外の人たちとも交流を図っていく。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_文献報告会 第３回_文献報告会 第４回_文献報告会 第５回_文献報告会 第６回_調査項目の洗い出し作業 第７回_調査項目の確認作業 第８回_現地調査 第９回_ストーリー作りのワークショップ 第10回_プレゼンテーション作成作業 第11回_プレゼンテーション作成作業 第12回_プレゼンテーションリハーサル 第13回_前期研究報告会 第14回_前期授業内容のまとめ 第15回_夏合宿 第16回_問題意識の再確認報告会 第17回_文献報告会 第18回_文献報告会 第19回_文献報告会 第20回_文献報告会 第21回_調査項目の洗い出し作業 第22回_調査項目の確認作業 第23回_現地調査 第24回_ストーリー作りのワークショップ 第25回_プレゼンテーション作成作業 第26回_プレゼンテーション作成作業 第27回_神戸大学との合同報告会 第28回_専門演習４に向けた研究テーマの発表		
事前・事後学習の内容	文献や資料は事前に指定するので必ず理解してから演習に参加すること。演習中は指示通りに動くだけではなく、自分で判断して行動することを心がけること。必要に応じて自主的に集まり、演習の準備を怠らないこと。		
評価方法	文献報告会、現地調査、プレゼン報告など様々な場面における個人の行動、成果を見極め、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、 参考文献、授業中指示する。		

授業コード	E063000290	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	塩谷　昌史		
科目の主題	この演習では、毎回を前半と後半に分け、前半では英国の経済紙Financial Timesの記事と『日本経済新聞』を比較し、後半では教員の関心とゼミ生の関心が重なる文献や論文を輪読する。日英の経済新聞を比較するのは、経済ニュースに日頃から触れる機会を設けると同時に、同じニュースでも国が異なれば報道の内容が異なることを理解してもらうためである。 　教員は近年、日露の統計制度史の比較研究に取り組んでいるので、演習で学生諸君と情報や統計データの意味について考えてみたい。輪読する文献は、情報や統計データについて考察するものを取り上げる予定である。		
授業の到達目標	到達目標は、以下の4点である。 　①同一のニュース対象であっても、国によりニュースの取り上げ方や、評価の仕方が異なることを理解すること 　②グループで議論し、共通の課題を見つけ、仲間と共に解決方法を考えられるようにすること 　③社会の常識を疑う姿勢、文献の検索方法、取材の仕方を習得すること 　④年度末には、原稿用紙（400字）で20枚程度のレポートが書けるようにすること		
授業内容・授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　『ザ・ゴール』（第1章） 第3回　『ザ・ゴール』（第2章） 第4回　『ザ・ゴール』（第3章） 第5回　『ザ・ゴール』（第4章） 第6回　『ザ・ゴール』（第5章） 第7回　『ザ・ゴール』（第6章） 第8回　『世界はシステムで動く』（第1章） 第9回　『世界はシステムで動く』（第2章） 第10回　『世界はシステムで動く』（第3章） 第11回　『世界はシステムで動く』（第4章） 第12回　『世界はシステムで動く』（第5章） 第13回　『世界はシステムで動く』（第6章） 第14回　『世界はシステムで動く』（第7章）		
事前・事後学習の内容	毎回、次回の教材コピーを配布しますので、それを事前に読んできてください。		
評価方法	出席が60%、演習での取り組みが20%、年度末レポートが20%。		
受講生へのコメント	演習を開講して2年目なので、演習の定型パターンはありません。学生諸君のリクエストに合わせて、できる限り演習の内容を改善していきたいと思っています。この授業は、対面で行います。リクエストがあれば、いつでも教員に相談してください。		
教材	テキストとして、以下の文献を挙げておきます。 　１．ダイアン・コイル『GDP＜小さくて大きな数字の歴史』みすず書房、2015年。 　２．エリヤフ・ゴールドラット『ザ・ゴール - 企業の究極の目的とは何か』ダイヤモンド社、2001年。 　３．ドネラ・H・メドウズ『世界はシステムで動く―いま起きていることの本質をつかむ考え方』英治出版、2015年。		

授業コード	E063000300	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	内藤　克幸		
科目の主題	標準的な教科書の輪読や問題演習を通じて経済理論への理解を深めるとともに、専門演習4に向けての研究テーマを検討する。		
授業の到達目標	中級レベルの経済理論を修得するとともに、学生自らの力で現実の様々な経済問題を論理的・数理的に分析していくことを目標とする。		
授業内容・授業計画	本演習は対面により実施する。 第１回_ガイダンス 第２回_基礎概念の解説 第３回_教科書の輪読と質疑1 第４回_教科書の輪読と質疑2 第５回_問題演習1 第６回_教科書の輪読と質疑3 第７回_教科書の輪読と質疑4 第８回_問題演習2 第９回_教科書の輪読と質疑5 第10回_教科書の輪読と質疑6 第11回_問題演習3 第12回_教科書の輪読と質疑7 第13回_教科書の輪読と質疑8 第14回_問題演習4 第15回_教科書の輪読と質疑9 第16回_教科書の輪読と質疑10 第17回_問題演習5 第18回_教科書の輪読と質疑11 第19回_教科書の輪読と質疑12 第20回_問題演習6 第21回_教科書の輪読と質疑13 第22回_教科書の輪読と質疑14 第23回_問題演習7 第24回_教科書の輪読と質疑15 第25回_教科書の輪読と質疑16 第26回_問題演習8 第27回_専門演習4に向けてのテーマ報告1 第28回_専門演習4に向けてのテーマ報告2		
事前・事後学習の内容	報告の際には念入りに準備すること。		
評価方法	出席状況や報告内容等で総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト：授業中に指示する。 参考書：授業中に指示する。		

授業コード	E063000260	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習３		
英語科目授業名	Seminar 3		
科目ナンバー	EAEXJ5301		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	今日の国際経済の諸問題に関する論点について幅広く学び、自分なりの問題意識から特定領域の問題の解明に取り組みます。		
授業の到達目標	現代世界経済を総体的に捉える視点を獲得する。		
授業内容・授業計画	3年次前期ではテキストの輪読を行い、必要な知識を獲得し、さまざまな学説について学びます。毎回報告者を割り当てて作成したレジュメを土台に議論を重ね、専門書を味読してゆきましょう。 これを踏まえて各自の取り組む研究テーマを設定したうえで、後期には個別の研究報告に入り、就職活動を挟みながら、これを4年次まで継続します。 第１回_ガイダンス 第２回_テキスト輪読① 第３回_テキスト輪読② 第４回_テキスト輪読③ 第５回_テキスト輪読④ 第６回_テキスト輪読⑤ 第７回_テキスト輪読⑥ 第８回_テキスト輪読⑦ 第９回_テキスト輪読⑧ 第10回_テキスト輪読⑨ 第11回_テキスト輪読⑩ 第12回_テキスト輪読⑪ 第13回_テキスト輪読⑫ 第14回_研究テーマの設定（以上、前期） 第15回_研究報告①（以下、後期） 第16回_研究報告② 第17回_研究報告③ 第18回_研究報告④ 第19回_研究報告⑤ 第20回_研究報告⑥ 第21回_研究報告⑦ 第22回_研究報告⑧ 第23回_研究報告⑨ 第24回_研究報告⑩ 第25回_研究報告⑪ 第26回_研究報告⑫ 第27回_研究報告⑬ 第28回_専門演習４に向けた研究テーマの調整		
事前・事後学習の内容	前期・後期ともに自身の報告に先立ち、テキストをはじめとする関連文献を読み込んでおきます。そのさいに、安易にウェブ上の資料のみに頼らず、学情センターに足を運んでリアルの書籍に当たることが、こういう時代だけに特に肝要です。自身の能力を拡張するために、愚直に取り組みましょう。ゼミの後には仲間や教員に指摘された点について、さらに調べたり考えたりして理解を深めましょう。		
評価方法	成績評価は総合評価とします。その場合の観点としてはいうまでもなく、平素の出席はもとよりレジュメの出来映え、ディスカッションへの積極的な参加、期末のレポート（卒論の前半となるべきペーパー）がベースとなります。前期の輪読では、テキストの担当範囲の読み込みに伴う理解が前提となります。		
受講生へのコメント	学部での学びの集大成として、卒論を書き上げるための準備をしましょう。		
教材	昨年度は以下を使用したが、今年度はケインズの翻訳の輪読を考えているので、開講日までは購入しないこと。 追って、指示する。 テキスト：田所昌幸著『国際政治経済学』（名古屋大学出版会，2008年）		

授業コード	E064000180	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	適切な問題を発見できる 適切な仮説を立案できる。 適切な検証方法を考案できる 調査や分析を通して、仮説を検証できる。または、仮説とその検証方法について適切に変更できる。 適切な論理を構成し、卒業論文を完成させる。		
授業内容・授業計画	各自卒業研究を行う。授業では、調査した内容を報告し、その後の研究方針を決める。 第１回_予備調査とテーマ案 第２回_予備調査とテーマ案 第３回_予備調査とテーマ案 第４回_予備調査とテーマ案 第５回_仮説の立案と先行研究の調査　積読 第６回_仮説の立案と先行研究の調査　乱読 第７回_仮説の立案と先行研究の調査　主要論文精読 第８回_仮説の立案と先行研究の調査　主要論文精読 第９回_仮説案報告 第１０回_調査方針決定 第１１回_仮説検証　第一段階 第１２回_仮説検証　第一段階 第１３回_仮説検証　第一段階 第１４回_仮説検証　第一段階 第１５回_仮説検証　第一段階 第１６回_卒業研究　中間報告 第１７回_仮説検証　第二段階 第１８回_仮説検証　第二段階 第１９回_仮説検証　第二段階 第２０回_仮説検証　第二段階 第２１回_仮説検証　第二段階 第２２回_仮説検証　第二段階 第２３回_卒業論文作成 第２４回_卒業論文作成 第２５回_卒業論文作成 第２６回_卒業論文提出 第２７回_卒業論文　リバイス 第２８回_卒業論文　発表会		
事前・事後学習の内容	事前・事後学習：　調査、分析、考察、執筆を行う。授業時間は調査内容の報告と次回までの計画立案のみ行う。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E064000060	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	小川　亮		
科目の主題	専門演習4では、各自の問題意識に基づきながら、調査分析および論文執筆をおこなう。		
授業の到達目標	専門演習３における共同研究で培った調査研究のノウハウ（仮説の構築、検証戦略の設定、統計分析の習得、データ収集およびデータマイニング、推計結果の解釈、プレゼン）を個人単位でもおこなえることを目標とする。また、論文の執筆に必要となる基礎的スキルを学び、実践できる力が備わることも狙いとする。		
授業内容・授業計画	基本的にゼミの時間は、研究進捗の発表と相談にあてる。 大まかなスケジュールは以下のとおり。 第１回　ガイダンス 第２回　計量経済学の復習 第３回　計量経済学の復習 第４回　計量経済学の復習 第５回　計量経済学の復習 第６回　計量経済学の復習 第７回　問題意識に関する発表 第８回　問題意識に関する発表 第９回　仮説構築と検証戦略に関する発表 第10回　仮説構築と検証戦略に関する発表 第11回　データ収集と推計と結果解釈 第12回　データ収集と推計と結果解釈 第13回　中間発表 第14回　前期演習のまとめ 第15回　問題意識および仮説の深堀り 第16回　問題意識および仮説の深堀り 第17回　問題意識および仮説の深堀り 第18回　問題意識および仮説の深堀り 第19回　データの収集およびマイニング 第20回　データの収集およびマイニング 第21回　データの収集およびマイニング 第22回　推計と結果解釈 第23回　推計と結果解釈 第24回　推計と結果解釈 第25回　論文執筆の作法 第26回　論文執筆の作法 第27回　論文執筆の作法 第28回　後期演習のまとめ		
事前・事後学習の内容	日ごろから社会経済のニュースに関心をもち、調査研究の対象とするテーマ、問題意識を決めること。 統計分析については、テキスト等を参考にしながら、十分理解すること。		
評価方法	発表の内容や質疑への参加状況、調査研究の内容		
受講生へのコメント	積極的に質問をしてください。		
教材	『計量経済学の第一歩　――実証分析のススメ』田中隆一（有斐閣ストゥディア） 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』伊藤公一朗（光文社） 『理科系の作文技術』木下是雄（中公新書）		

授業コード	E064000200	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	経済学における理論的考え方と統計分析を身につけます。		
授業の到達目標	演習３で行った分析をもとに、さらなる理解と学習を深めていきます。		
授業内容・授業計画	演習３をベースにし、復習から発展させていきます。 この授業は、対面により実施します。 大まかなスケジュールは以下のとおりです。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解① 第８回_データ収集と読解② 第９回_データ収集と読解③ 第10回_データ収集と読解④ 第11回_データ収集と読解⑤ 第12回_上記内容のまとめ 第13回_中間発表会① 第14回_中間発表会② 第15回_再調査① 第16回_再調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成準備 第19回_卒業論文初校発表と質疑グループ① 第20回_卒業論文初校発表と質疑グループ② 第21回_卒業論文初校発表と質疑グループ③ 第22回_卒業論文作成 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文最終稿の確認 第25回_卒業論文提出 第26回_卒業論文発表グループ① 第27回_卒業論文発表グループ② 第28回_卒業論文発表グループ③		
事前・事後学習の内容	各自が担当するパートの学習が必要です。		
評価方法	受講態度、発表、積極性等によって総合的に評価します。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキストは無し。参考書は、適宜紹介します。		

授業コード	E064000230	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	ゼミ生それぞれが卒業論文のテーマを選択し、そのテーマについて文献・資料等を収集・読解、調査し、最後に卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ 第14回_夏合宿 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初稿発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初稿発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初稿発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文最終稿の確認 第25回_卒業論文提出 第26回_卒業論文発表グループ① 第27回_卒業論文発表グループ② 第28回_卒業論文発表グループ③、まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E064000320	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岩波　由香里		
科目の主題	計量分析について引き続き学ぶとともに、それぞれの受講者が関心のある分野において独創性のある研究を行い、卒業論文を作成する。		
授業の到達目標	3年次に学んだ計量分析の知識をもとに、因果推論などさらなる計量分析の知識を伸ばすとともに、R/Rstudioを用いて実際にコードを走らせることができるようにする。最終目標として、リサーチ・クエスチョンを設定し、それに対して独自の理論を構築して、そこから導出した仮説を計量分析を用いて検証し、それを卒業論文としてまとめて提出する。		
授業内容・授業計画	第1回　はじめに 第2回　相関関係と因果関係　外生変数と内生変数 第3回　ランダム化実験 第4回　パネル・データ分析 第5回　差分の差 第6回　マッチング法 第7回　不連続回帰デザイン 第8回　操作変数法 第9回　卒論の書き方① 第10回　卒論の書き方② 第11回　卒論の書き方③ 第12回　卒論の書き方④ 第13回　卒論の書き方⑤ 第14回　卒論の書き方⑥ 第15回　まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文を作成する。		
評価方法	授業中の発表と卒業論文（完成前のレポートなども含む）。卒業論文は、盗作や剽窃が発覚した場合には、失格にする。また、発表内容などに努力が認められず、他の受講生の迷惑になると指導教員が判断した場合には、失格にする。		
受講生へのコメント	・受講生は、自らの力で卒業論文を書き切ることが求められる。文字数が少ない、剽窃・盗用があるなどの理由で、卒業論文の単位が認められなかったとしても、指導教員は責任を負わない。 ・就職活動により授業に出られない場合は、予め指導教員に連絡をしておくこと（課題が出される可能性がある）。		
教材	・森田果.2014年.『実証分析入門』　日本評論社. ・安井翔太著　株式会社ホクソエム監修　『効果検証入門　正しい比較のための因果推論／計量経済学の基礎』　技術評論社. ・ Joshua D. Angrist,　Jorn-steffen Pischke.　2014. Mastering 'Metrics: The Path from Cause to Effect. Princeton: Princeton University Press. ・浅野正彦・矢内勇生.　2018年.『Rによる計量政治学』　Ohmsha. ・今井耕介. 2018年.　『社会科学のためのデータ分析入門　上・下』　岩波書店.		

授業コード	E064000310	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	先行研究サーベイを行い、研究報告を行うこと。		
授業の到達目標	発展途上国を対象とした研究課題を設定し、統計データを使用した実証分析を行うこと。		
授業内容・授業計画	第1回：研究課題の設定① 第2回：研究課題の設定② 第3回：研究課題の設定③ 第4回：研究課題の設定④ 第5回：研究課題の設定⑤ 第6回：先行研究報告① 第7回：先行研究報告② 第8回：先行研究報告③ 第9回：先行研究報告④ 第10回：先行研究報告⑤ 第11回：データ① 第12回：データ② 第13回：データ③ 第14回：データ④ 第15回：データ⑤ 第16回：モデルの検討① 第17回：モデルの検討② 第18回：モデルの検討③ 第19回：モデルの検討④ 第20回：モデルの検討⑤ 第21回：実証研究結果検討① 第22回：実証研究結果検討② 第23回：実証研究結果検討③ 第24回：実証研究結果検討④ 第25回：実証研究結果検討⑤ 第26回：最終報告① 第27回：最終報告② 第28回：最終報告③		
事前・事後学習の内容	研究課題に応じた先行研究を読み、使用するモデルの検討を行うこと。		
評価方法	予定されている6回の報告によって採点する。最終報告を最も評価する。		
受講生へのコメント	先行研究を読み、データを収集し、モデルを組んで、研究課題を検証すること。		
教材	研究課題に応じた論文及び本。		

授業コード	E064000110	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、 卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ① 第14回_前期授業内容のまとめ② 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初稿発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初稿発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初稿発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文最終稿の確認 第26回_卒業論文提出 第27回_卒業論文発表グループ① 第28回_まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E064000190	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	演習３において考察してきた諸権利の主体は概して、「私」または「私たち」でした。この演習４の前期の授業では、視点を転換して「君（たち）、彼／彼女（たち）」の権利を考えます。それをふまえて、後期においては卒業論文を執筆してもらいます。		
授業の到達目標	演習３において学んだ観点をも活かしながら、権利またはシティズンシップに関連する卒業論文を提出してもらいます。		
授業内容・授業計画	権利またはシティズンシップに関連してゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて調査と考察を行ない、そのことを通じて卒業論文を執筆してもらいます。		
事前・事後学習の内容	各回の演習の前には、指定されたテキストの丁寧な読解と報告準備が求められます。各回の演習の後には、テキストに関する理解を各自の卒業論文の構想立案に生かすことが求められます。		
評価方法	前期の演習におけるテキストの輪読では、その内容を正しく把握した報告の準備が求められます。後期の演習では、読書ノートの量と水準が評価を左右します。		
受講生へのコメント	日本における人権保障と統合政策とについて、国際比較により考察することが求められます。		
教材	テキストは、近藤敦『多文化共生と人権』（明石書店、2019年）を予定していますが、このテキストはまだ確定しているわけではないので、担当教員からの指示があった後に各自で購入してもらうことになります。		

授業コード	E064000030	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	この授業は対面で行うことを基本とする. ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、 卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑① 第５回_テーマの発表・質疑② 第６回_テーマの発表・質疑③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_前期授業内容のまとめ 第12回_調査① 第13回_調査② 第14回_調査③ 第15回_調査内容まとめ 第16回_卒業論文作成 第17回_卒業論文作成 第18回_卒業論文初稿発表と質疑① 第19回_卒業論文初稿発表と質疑② 第20回_卒業論文初稿発表と質疑③ 第21回_卒業論文作成 第22回_卒業論文作成 第23回_卒業論文最終稿の確認 第24回_卒業論文提出 第25回_卒業論文発表① 第26回_卒業論文発表② 第27回_卒業論文発表③ 第28回_まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E064000210	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	演習４では、学生が選択した研究テーマに基づいて、書籍・論文・資料・新聞記事・関連データなどを収集するとともに、調査（フィールドワークなど）を行い、卒業論文を作成し、報告を行う。		
授業の到達目標	①学生の問題意識に基づいてテーマを設定し、②テーマと関連する情報を収集する能力を身に付け、③論理的に整合性のある構成（目次）を組み立て、④オリジナリティのある論文を作成できるようになる。		
授業内容・授業計画	講義では、就活指導とともに、ゼミ生が選択した卒業論文のテーマにそって、構成を組み立て、目次にそって卒業論文の作成を行う。 第１回　卒論の書き方ガイダンス 第２回　卒論のテーマの設定 第３回　テーマに関する資料の収集 第４回　Ａグループのテーマと構成発表 第５回　Ｂグループのテーマと構成発表 第６回　Ｃグループのテーマと構成発表 第７回　Ｄグループのテーマと構成発表 第８回　関連文献の読解と発表 第９回　関連文献の読解と発表 第10回　関連文献の読解と発表 第11回　関連文献の読解と発表 第12回　フィールドワーク調査 第13回　フィールドワーク調査 第14回　中間発表 第15回　中間発表 第16回　フィールドワークの結果発表 第17回　フィールドワークの結果発表 第18回　フィールドワークの結果発表 第19回　フィールドワークの結果発表 第20回　卒業論文の作成 第21回　卒業論文の作成 第22回　卒業論文の作成 第23回　卒業論文の作成 第24回　最終稿の確認と修正 第25回　Aグループの卒論発表 第26回　Bグループの卒論発表 第27回　Cグループの卒論発表 第28回　Dグループの卒論発表		
事前・事後学習の内容	卒業論文のテーマに関する資料を十分に収集し、資料を読み込んでおくこと。卒業論文の中間発表におけるコメントやアドバイスを論文修正の参考にし、完成度の高い論文を仕上げること。		
評価方法	論文の内容と卒論発表会におけるプレゼンのレベルなどを基準に判断する。		
受講生へのコメント	卒論作成には全力で取り組むこと。		
教材	石原千秋『大学生の論文執筆法』ちくま新書、2006年		

授業コード	E064000280	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文草稿を作成し、それをたたき台にして卒業論文を完成させる。提出後にその報告を行う。		
授業の到達目標	各自が卒業論文のテーマを選択できるようになり、 ① 自らの問題意識を軸にして、 ② 情報の収集と整理の方法を身につけ、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生には、各自が選択した関心のあるテーマを、卒業草稿の作成を経て卒業論文の作成、そして完成へという段階を踏んでもらい、しっかりした内容の論文を執筆していただきます。大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_イントロダクション 第２回_卒業論文テーマについての仮報告① 第３回_卒業論文テーマについての仮報告②テーマの文献・資料を解読し、論文形式に当てはめる① 第４回_研究テーマの文献・資料の調べ方①　オンラインで実施 第５回_研究テーマの文献・資料の調べ方②　オンラインで実施　テーマの文献・資料を解読し、論文形式に当てはめる② 第６回_先行研究のリスト作成① 第７回_先行研究のリスト作成② 第８回_重要な資料の要点を紹介する① 第９回_重要な資料の要点を紹介する② 第10回_先行研究に何をどう加えるのか① 第11回_先行研究に何をどう加えるのか② 第12回_仮目次を作ってみよう① 第13回_仮目次を作ってみよう② 第14回_まとめと夏の課題について 第15回_最初の卒論草稿執筆（夏休み課題） 第16回_最初の卒論草稿の提出 第17回_最初の卒論草稿の報告とコメント① 第18回_最初の卒論草稿の報告とコメント② 第19回_最初の卒論草稿の改訂作業① 第20回_最初の卒業論文の改訂作業② 第21回_第2卒論草稿の仮目次と先行研究リストの再作成 第22回_第2卒論草稿の仮目次と先行研究リストの再作成 第23回_卒業論文の完成に向けて① 第24回_卒業論文の完成に向けて② 第25回_卒業論文の完成に向けて③ 第26回_卒業論文最終稿の確認 第27回_卒論提出 第28回_卒業論文発表		
事前・事後学習の内容	①卒業論文はレポートと異なります。書きたいテーマが卒業論文のテーマになりうるかどうかは、執筆に必要な先行研究（書籍や論文）があるかどうかにかかっています。 先行研究の調査-文献の収集と解読-は、とりわけ前期において、事前・事後の学習として継続的に行ってください。 ②後期においては、仮目次（章別構成）を作成する、文献を読んで引用するための独自の資料集をword文書		
評価方法	①前期の卒論草稿作成段階、最初の卒論草稿の提出（9月中に設定します）、それをたたき台にしての後期の改訂作業など、卒業論文の完成に至る過程、および②完成した卒業論文の内容から、総合的に評価します。		
受講生へのコメント	①卒業論文の作成には、かならず数か月、かかります。時間とエネルギーの投入量がある程度必要だからです。その時間は確保してください。 ②後期が始まってからあっという間に時間が経ちます。後期の前に、論文に向けてのたたき台となる草稿を提出していただきます。 ③今年度は、双方向とオンラインの組み合わせで実施します。		
教材	卒業論文テーマによって読むべき文献が異なってきます。授業中に、適宜指示します。		

授業コード	E064000040	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	この科目では、規制の経済学についての専門テキスト輪読やグループ研究、学内および他大学との研究発表会に参加するとともに、専門演習4に向けた研究テーマを検討する。		
授業の到達目標	① 規制の経済学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。 ② ①を利用して社会問題や規制政策の現実問題が分析できるようになる。 ③ 内容を論理的にまとめ、分かり易いプレゼンテーションができるようになる。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 各自が担当する部分の内容を事前に理解した上でまとめて発表する。ゼミ生全員はその発表内容を議論して理解を深める。 ４年次に卒業論文作成することを念頭に、問題意識をもってデータや資料を収集し、卒業論文を作成するための用意をする。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_テーマの選択 第３回_テキスト講読と質疑 第４回_テキスト講読と質疑 第５回_テキスト講読と質疑 第６回_テキスト講読と質疑 第７回_テキスト講読と質疑 第８回_テキスト講読と質疑 第９回_テキスト講読と質疑 第10回_テキスト講読と質疑 第11回_中間発表① 第12回_中間発表② 第13回_中間発表③ 第14回_前期授業内容のまとめ 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_テキスト講読と質疑 第19回_テキスト講読と質疑 第20回_テキスト講読と質疑 第21回_テキスト講読と質疑 第22回_テキスト講読と質疑 第23回_テキスト講読と質疑 第24回_テキスト講読と質疑 第25回_テキスト講読と質疑 第26回_専門演習４に向けた研究テーマの発表① 第27回_専門演習４に向けた研究テーマの発表② 第28回_専門演習４に向けた研究テーマの発表③		
事前・事後学習の内容	各自が担当するテキストの部分をきちんと理解して、その発表を準備すること。 受講者全員は、次回発表されるテキストの内容を予習すること。		
評価方法	授業の到達目標について基本的な能力が身につけることが求められるので、その達成度で成績評価を行う。 また、受講態度、発表、積極性等によって総合的に評価する。 ①各自が担当するテキストの内容をきちんと理解して、わかりやすく説明すること。 ②テキストの発表内容を事前に予習して、積極的に内容を議論して自分の見解を出すこと。 ③発表に積極的に関与して、自分のコメントやアドバイスを出してあげること。 ④無断欠席しないこと。		
受講生へのコメント	あらかじめ新聞やニュースなどを通し、わが国の社会・経済の仕組みへの関心を高めておくことを希望します。		
教材	テキスト：Viscusi, Harrington and Vernon (2005) Economics of Regulation and Antitrust(4th ed.), MIT Press. 参考書：卒業論文テーマにより、適宜指示する。		

授業コード	E064000140	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	杉田　菜穂		
科目の主題	各自選択した研究テーマについて、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業研究を完成させる。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が① 自らの問題意識を持ち、② 情報の収集と整理の方法を身に着け、③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考えオリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑応答 第５回_テーマの発表・質疑応答 第６回_テーマの発表・質疑応答 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ 第14回_調査① 第15回_調査② 第16回_調査③ 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初稿発表と質疑応答 第21回_卒業論文初稿発表と質疑応答 第22回_卒業論文初稿発表と質疑応答 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文最終稿の確認 第26回_卒業論文提出 第27回_卒業論文発表 第28回_まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と文献資料の読解に努めること。 経過報告に対するコメント、アドバイス等に基づいて加筆修正をすること。		
評価方法	卒業研究への取り組みの状況について、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	まずは、追究したいと思えるテーマを見つけましょう。		
教材	個別に助言します。		

授業コード	E064000150	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	金融・経済の諸問題を取り上げながらディスカッションを中心とした授業を行います。金融・経済に 関する基礎知識を学ぶと同時に、現実の経済問題に対して解決策を検討する。さらに、経済に関するテーマで卒業論文を作成する。		
授業の到達目標	金融論と経済学に関する知識を身に付ける。 スピーチ及びディスカッションの技術を身に付ける。 現実の経済問題について批判的に検討する能力を身に付ける。 卒業論文の作成を通じて、論文執筆能力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 経済問題に関する３分間スピーチ、新聞記事を使った経済の時事問題に関するディスカッション(経済学的検討を含む)、テキストの輪読等を行う。また、卒業論文を作成する。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文の書き方 第３回_卒業論文の書き方 第４回_卒業論文の書き方 第５回_金融・経済問題 第６回_金融・経済問題 第７回_金融・経済問題 第８回_金融・経済問題 第９回_金融・経済問題 第10回_金融・経済問題 第11回_金融・経済問題 第12回_金融・経済問題 第13回_金融・経済問題 第14回_前期授業のまとめ 第15回_金融・経済問題 第16回_金融・経済問題 第17回_金融・経済問題 第18回_金融・経済問題 第19回_金融・経済問題 第20回_卒業論文中間報告 第21回_金融・経済問題 第22回_金融・経済問題 第23回_金融・経済問題 第24回_卒業論文報告 第25回_卒業論文報告 第26回_卒業論文校正 第27回_卒業論文校正 第28回_卒業論文発表会		
事前・事後学習の内容	前回の授業内容を復習し、次回授業のテキストの該当箇所を読んでおくこと。 卒業論文の報告・提出のために準備を行うこと。		
評価方法	授業態度、発言状況などから総合的に判断します。 授業への積極的な参加を重視します。		
受講生へのコメント	新聞を読む習慣を身に付けてください。 現実の経済問題に関心を持つようにして下さい。		
教材	テキスト：翁邦雄著『金利と経済』ダイヤモンド社、2017年		

授業コード	E064000160	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ 第14回_夏合宿 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初校発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初校発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初校発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文最終稿の確認 第26回_卒業論文提出 第27回_卒業論文発表グループ① 第28回_卒業論文発表グループ② 第29回_卒業論文発表グループ③ 第30回_まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	ゼミ生はこのシラバスを見てください！絶対！		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E064000080	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、卒業論文の作成を行う。なお、希望があれば、追加的に何かテキスト等を扱うことにしてもよい。 詳細については、ゼミ生の意見も聞きつつ、初回時に指示する。		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文作成を順当に進められたか、発表会のプレゼンテーション、また、他の報告へのコメントにより評価する。		
受講生へのコメント	ミクロ経済学的・計量経済学的視点からの分析もあればと思います。		
教材	テキスト：特になし。 参考文献：卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E064000120	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_データ収集と読解前期授業内容のまとめ 第14回_前期授業内容のまとめ 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初稿発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初稿発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初稿発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文最終稿の確認 第26回_卒業論文発表グループ① 第27回_卒業論文発表グループ② 第28回_卒業論文発表グループ③		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	積極的な発言を期待しています。		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E064000090	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	客観的かつ論理的にディスカッションする力をさらに養う。		
授業の到達目標	経済学的な視点から各自の問題意識を具体化した後、既存の議論を整理し、論拠を示しながら自らの意見を展開していくことがさらにできるようになる。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 前半は、国際経済の応用知識を文献を用いながらゼミ生による報告形式で確認していく。後半は、インターゼミやスタディトリップの準備と実施に注力する。 第１回_ガイダンス 第２回_分担報告 第３回_分担報告 第４回_分担報告 第５回_分担報告 第６回_分担報告 第７回_分担報告 第８回_分担報告 第９回_分担報告 第10回_分担報告 第11回_分担報告 第12回_分担報告 第13回_分担報告 第14回_前期授業内容のまとめ 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_インターゼミのテーマ準備 第19回_インターゼミのグループワーク 第20回_インターゼミのグループワーク 第21回_インターゼミのグループワーク 第22回_インターゼミのグループワーク 第23回_インターゼミの中間準備報告 第24回_インターゼミの最終準備報告 第25回_インターゼミの最終準備報告 第26回_インターゼミ 第27回_スタディトリップ 第28回_3年ゼミへの研究引き継ぎ		
事前・事後学習の内容	各自分担報告の準備をすること。時間外グループワークによる調査を実施すること。		
評価方法	分担報告のレポートを提出すること。インターゼミ関連行事へ参加すること。		
受講生へのコメント	活動のすべては自主性に委ねられる。		
教材	適宜指示する。		

授業コード	E064000130	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	４年次の学生が、３年次の専門演習１の担当教員と同一の教員の助言と指導のもとで、流通経済の分野において自らの立てた研究課題を探求し、その成果を卒業論文にまとめることを目標にする。学生は卒業論文の作成を通じて、当学部の教育目標である「問題の解決を志向するグローバル・エコノミスト（SOGE）」としての能力を身に付ける。		
授業の到達目標	１．流通経済の分野について専門演習３で修得した知見と方法に依拠しながら、卒業論文に結実する問題意識と探究課題を自分で立てることができる。 ２．研究課題にかかわる先行研究を咀嚼し、それを研究課題の設定と研究の内容に生かすことができる。 ３．研究の提示においてその根拠を論理的に、かつわかりやすく提示することができる。 ４．研究結果をふまえて、問題の解決策を考案することができる。		
授業内容・授業計画	業論文の作成をメインとします。時間に余裕があれば、参考文献の講読も行ないます。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_卒業論文作成のステップについて 第２回_テーマの見つけ方 第３回_テーマの見つけ方：実習 第４回_参考文献の探し方 第５回_参考文献の探し方：実習 第６回_データの探し方 第７回_データの探し方：実習 第８回_構成の立て方 第９回_構成の立て方：実習 第10回_パラグラフの書き方 第11回_パラグラフの書き方：実習 第12回_図表の作り方 第13回_図表の作り方：実習 第14回_文献参照の仕方 第15回_文献参照の仕方：実習 第16回_調査発表（１） 第17回_調査発表（２） 第18回_調査発表（３） 第19回_卒業論文初稿発表（１） 第20回_卒業論文初稿発表（２） 第21回_卒業論文初稿発表（３） 第22回_卒業論文改訂稿発表（１） 第23回_卒業論文改訂稿発表（２） 第24回_卒業論文改訂稿発表（３） 第25回_卒業論文最終稿発表（１） 第26回_卒業論文最終稿発表（２） 第27回_卒業論文最終稿発表（３） 第28回_卒業論文講評会		
事前・事後学習の内容	事前には、与えられた課題を作成すること。 事後には、演習での指導をもとに課題の手直しを行うこと。		
評価方法	上記の到達目標１～４の達成度で評価を行う。達成度評価は、１年間の授業を通して各自が行う個々の調査・研究報告（70%）と、第29回目の授業でのプレゼンテーション（30%）の内容にもとづいて実施する。		
受講生へのコメント	毎回の授業をふまえた研究結果とその提示方法の着実な見直し作業が、この演習では重要になる。		
教材	教科書は担当教員によって指定される。 参考文献は、各自の研究課題に応じて、その度指定される。		

授業コード	E064000290	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、卒業論文の作成を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ（1） 第14回_前期授業内容のまとめ（2） 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初校発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初校発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初校発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文最終稿の確認 第24回_卒業論文提出 第25回_卒業論文発表グループ① 第26回_卒業論文発表グループ② 第27回_卒業論文発表グループ③ 第28回_まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	大阪市立大学経済学部を卒業したことの証明になるような力作を期待しています。		
教材	テキスト、特になし。 参考文献は、卒業論文テーマにより、適宜指示する。		

授業コード	E064000260	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ 第14回_調査① 第15回_調査② 第16回_調査③ 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初稿発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初稿発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初稿発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文最終稿の確認 第26回_卒業論文提出 第27回_卒業論文発表グループ① 第28回_卒業論文発表グループ②		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E064000050	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	論文の作成を通じて、 ① 自らの問題意識を持ち、 ② データの収集と分析手法を身に着け、 ③ データから得られた結果を正しく解釈する能力を見につける。		
授業内容・授業計画	この授業は対面方式により実施する。 卒業論文のテーマを選択した上で、データの収集や分析・問題点の検討を行い、結果を卒業論文という形でまとめる。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回 ガイダンス 第２回 卒業論文テーマの選択 第３回 テーマの文献・資料収集 第４回 テーマの発表・質疑 第５回 テーマの発表・質疑 第６回 テーマの発表・質疑 第７回 データ収集 第８回 データ収集 第９回 データ収集 第10回 研究仮説の検討 第11回 研究仮説の検討 第12回 研究仮説の検討 第13回 データの加工 第14回 データの加工 第15回 データの加工 第16回 記述統計・グラフの作成 第17回 記述統計・グラフの作成 第18回 記述統計・グラフの作成 第19回 解析 第20回 解析 第21回 解析 第22回 卒業論文作成 第23回 卒業論文作成 第24回 卒業論文作成 第25回 卒業論文最終稿の確認 第26回 卒業論文提出 第27回 卒業論文発表 第28回 卒業論文発表		
事前・事後学習の内容	事前に卒業論文の方向性について検討・考察しておく。 各回の発表時のコメント、アドバイス等に基づいて分析を修正・再考を行う。		
評価方法	卒業論文の質と発表会でのプレゼンテーション、経過報告や出席の状況を踏まえて総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	特になし。		

授業コード	E064000170	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	卒業論文の作成を視野に入れた個人報告と、討論による研究テーマの深化。		
授業の到達目標	卒論につながる経済問題について、グループおよび個人による報告をもとに、異なった角度からの意見をつき合わせ、各自が自分なりの経済の見方を深化させる。		
授業内容・授業計画	最初の何回かは、グループ分けしたうえで、研究テーマを絞り込むための調査・報告・議論をおこなう。次に、選んだテーマについて各自が研究報告を行い、討論を通じて認識の深化を図る。 第１回_演習計画の説明 第２回_テーマ設定について：第１グループの報告 第３回_テーマ設定について：第２グループの報告 第４回_テーマ設定について：第３グループの報告 第５回_個人報告：メンバー1 第６回_個人報告：メンバー2 第７回_個人報告：メンバー3 第８回_個人報告：メンバー4 第９回_個人報告：メンバー5 第10回_個人報告：メンバー6 第11回_個人報告：メンバー7 第12回_個人報告：メンバー8 第13回_個人報告：メンバー9 第14回_個人報告：メンバー10 第15回_後期計画の議論 第16回_個人報告2：メンバー1 第17回_個人報告2：メンバー2 第18回_個人報告2：メンバー3 第19回_個人報告2：メンバー4 第20回_個人報告2：メンバー5 第21回_個人報告2；メンバー6 第22回_個人報告2：メンバー7 第23回_個人報告2：メンバー8 第24回_個人報告2：メンバー9 第25回_個人報告2：メンバー10 第26回_第1グループのプレゼンテーション 第27回_第2グループのプレゼンテーション 第28回_第3グループのプレゼンテーション		
事前・事後学習の内容	自らの課題に関する報告準備と、議論を踏まえた事後的修正作業を行う。		
評価方法	演習への参加状況（報告内容、討論への参加状況）をもとに評価する。		
受講生へのコメント	私の専門はマクロ経済理論であるが、テーマはマクロ理論から多少離れてもかまわない。 議論を楽しむ雰囲気になる事が大事である。		
教材	テキスト：なし 参考書：なし		

授業コード	E064000250	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	松本　淳		
科目の主題	前年度の１年間で習得した財政学の知識をさらに深めていく。とくに演習４の学生に求められることは自主・自律である。与えられた課題のみをこなすのではなく、自分にとって必要なことは何かを常に考え、自身で設定した課題を自らの頭で考えることを追究していくことが求められる。		
授業の到達目標	卒業論文を執筆するにあたっての知識や技能を習得することが目標である。		
授業内容・授業計画	受講生全体で共有すべき技能を習得するためのレクチャーや報告会が授業内容の中心となる。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒論作成ノート配布と使い方 第３回_問題意識醸成についてのレクチャー 第４回_新聞記事検索のレクチャーと実践 第５回_専門書籍の選び方レクチャー 第６回_専門雑誌論文の選び方レクチャー 第７回_論文構成についてのレクチャー 第８回_卒業論文ストーリー発表会 第９回_卒業論文ストーリー発表会 第10回_卒業論文ストーリー発表会 第11回_卒業論文ストーリー発表会 第12回_卒業論文ストーリー発表会 第13回_卒業論文ストーリー発表会 第14回_卒業論文ストーリー発表会 第15回_夏合宿 第16回_卒業論文中間報告 第17回_卒業論文中間報告 第18回_卒業論文中間報告 第19回_卒業論文中間報告 第20回_卒業論文中間報告 第21回_卒業論文中間報告 第22回_卒業論文中間報告 第23回_卒業論文完成稿チェック 第24回_卒業論文完成稿チェック 第25回_卒業論文完成稿チェック 第26回_卒業論文完成稿チェック 第27回_卒業論文完成稿チェック 第28回_卒業論文完成稿チェック		
事前・事後学習の内容	あらゆる授業時間の内容について、各自の判断でできることは自主的に準備をすること。また、教員への報告・連絡なども積極的に自分の判断で行い、常にコミュニケーションをとることを心がけること。		
評価方法	レクチャーや実際の文献等の検索作業への取り組み方、理解度、報告準備の出来等を総合的に勘案して評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E064000300	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	専門演習４		
英語科目授業名	Seminar 4		
科目ナンバー	EAEXJ7401		
単位数	4単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	塩谷　昌史		
科目の主題	この演習では、毎回を前半と後半に分け、前半では英国の経済紙The Economistの記事と『日本経済新聞』の記事を比較し、後半では教員の関心とゼミ生の関心が重なる文献や論文を輪読する。日英の経済記事を比較するのは、経済ニュースに日頃から触れる機会を設けると同時に、同じニュースでも国が異なれば、報道の内容が異なることを理解してもらうためである。 　専門演習4では、通常経済と直接結びつかない「科学技術の進展」と「宗教」に関する文献を取り上げる。この二つのテーマの概要を知っておくと、卒業後に仕事をする社会で必ず有効性を発揮すると確信する。		
授業の到達目標	到達目標は、以下の4点である。 　①同一のニュース対象であっても、国によりニュースの取り上げ方や、評価の仕方が異なることを理解すること 　②グループで議論し、共通の課題を見つけ、仲間と共に解決方法を考えられるようにすること 　③卒業論文のアイデアを育むこと 　④卒業後に仕事をする社会で活躍するための、教養を身につけること		
授業内容・授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　『ポスト・ヒューマン誕生』（第1章） 第3回　『ポスト・ヒューマン誕生』（第2章） 第4回　『ポスト・ヒューマン誕生』（第3章） 第5回　『ポスト・ヒューマン誕生』（第4章） 第6回　『ポスト・ヒューマン誕生』（第5章） 第7回　『ポスト・ヒューマン誕生』（第6章） 第8回　『日本経済再生論』（第1章） 第9回　『日本経済再生論』（第2章） 第10回　『日本経済再生論』（第3章） 第11回　『日本経済再生論』（第4章） 第12回　『日本経済再生論』（第5章） 第13回　『日本経済再生論』（第6章） 第14回　卒業論文のテーマを考える		
事前・事後学習の内容	毎回、次回の教材コピーを配布しますので、それを事前に読んできてください。		
評価方法	出席が60%、演習での取り組みが20%、年度末レポートが20%。		
受講生へのコメント	演習を開講して2年目なので、演習の定型パターンはありません。学生諸君のリクエストに合わせて、できる限り演習の内容を改善していきたいと思っています。この授業は対面で行います。リクエストがあれば、いつでも教員に相談してください。		
教材	テキストとして、以下の文献を挙げておきます。 　１．レイ・カーツワイル『ポストヒューマン誕生：コンピュータが人類の知性を超える時』NHK出版、2007年。 　２．三輪晴治『日本経済再生論-ディスラプティブ・イノベーションの道』文真堂、2013年。 　３．小室直樹『日本人のための宗教原論ーあなたを宗教はどう助けてくれるのか』徳間書店、2000年。 　４．碧海純一　『法と社会-新しい法学入門』中央公論社、1967年。		

授業コード	E066030260	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	有賀　敏之		
科目の主題	各自が選択した日本経済に関する研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、 卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_データ収集と読解 第14回_前期授業内容のまとめ 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初稿発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初稿発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初稿発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文最終稿の確認 第26回_卒業論文提出 第27回_卒業論文発表グループ① 第28回_卒業論文発表グループ②		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E066030040	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	この科目では、規制の経済学についての専門テキスト輪読やグループ研究、学内および他大学との研究発表会に参加するとともに、専門演習4に向けた研究テーマを検討する。		
授業の到達目標	① 規制の経済学の基礎知識を理解し、説明できるようになる。 ② ①を利用して社会問題や規制政策の現実問題が分析できるようになる。 ③ 内容を論理的にまとめ、分かり易いプレゼンテーションができるようになる。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 各自が担当する部分の内容を事前に理解した上でまとめて発表する。ゼミ生全員はその発表内容を議論して理解を深める。 ４年次に卒業論文作成することを念頭に、問題意識をもってデータや資料を収集し、卒業論文を作成するための用意をする。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_テーマの選択 第３回_テキスト講読と質疑 第４回_テキスト講読と質疑 第５回_テキスト講読と質疑 第６回_テキスト講読と質疑 第７回_テキスト講読と質疑 第８回_テキスト講読と質疑 第９回_テキスト講読と質疑 第10回_テキスト講読と質疑 第11回_中間発表① 第12回_中間発表② 第13回_中間発表③ 第14回_前期授業内容のまとめ 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_テキスト講読と質疑 第19回_テキスト講読と質疑 第20回_テキスト講読と質疑 第21回_テキスト講読と質疑 第22回_テキスト講読と質疑 第23回_テキスト講読と質疑 第24回_テキスト講読と質疑 第25回_テキスト講読と質疑 第26回_専門演習４に向けた研究テーマの発表① 第27回_専門演習４に向けた研究テーマの発表② 第28回_専門演習４に向けた研究テーマの発表③		
事前・事後学習の内容	各自が担当するテキストの部分をきちんと理解して、その発表を準備すること。 受講者全員は、次回発表されるテキストの内容を予習すること。		
評価方法	授業の到達目標について基本的な能力が身につけることが求められるので、その達成度で成績評価を行う。 また、受講態度、発表、積極性等によって総合的に評価する。 ①各自が担当するテキストの内容をきちんと理解して、わかりやすく説明すること。 ②テキストの発表内容を事前に予習して、積極的に内容を議論して自分の見解を出すこと。 ③発表に積極的に関与して、自分のコメントやアドバイスを出してあげること。		
受講生へのコメント	あらかじめ新聞やニュースなどを通し、わが国の社会・経済の仕組みへの関心を高めておくことを希望します。		
教材	テキスト：Viscusi, Harrington and Vernon (2005) Economics of Regulation and Antitrust(4th ed.), MIT Press. 参考書：卒業論文テーマにより、適宜指示する。		

授業コード	E066030050	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	論文の作成を通じて、 ① 自らの問題意識を持ち、 ② データの収集と分析手法を身に着け、 ③ データから得られた結果を正しく解釈する能力を見につける。		
授業内容・授業計画	大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回 ガイダンス 第２回 卒業論文テーマの選択 第３回 テーマの文献・資料収集 第４回 テーマの発表・質疑 第５回 テーマの発表・質疑 第６回 テーマの発表・質疑 第７回 データ収集 第８回 データ収集 第９回 データ収集 第10回 研究仮説の検討 第11回 研究仮説の検討 第12回 研究仮説の検討 第13回 データの加工 第14回 データの加工 第15回 データの加工 第16回 記述統計・グラフの作成 第17回 記述統計・グラフの作成 第18回 記述統計・グラフの作成 第19回 解析 第20回 解析 第21回 解析 第22回 卒業論文作成 第23回 卒業論文作成 第24回 卒業論文作成 第25回 卒業論文最終稿の確認 第26回 卒業論文提出 第27回 卒業論文発表 第28回 卒業論文発表		
事前・事後学習の内容	事前に卒業論文の方向性について検討・考察しておく。 各回の発表時のコメント、アドバイス等に基づいて分析を修正・再考を行う。		
評価方法	卒業論文の質によって評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	特になし。		

授業コード	E066030060	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	小川　亮		
科目の主題	ゼミ生それぞれが卒業論文のテーマを選択し、関連する文献・資料等を収集・読解し、 問題意識のもと、仮説を構築し、検証のためデータを用いた検証をおこない、論文にまとめる。		
授業の到達目標	調査分析（特に統計分析）、論文執筆の力を養いながら、オリジナリティがある卒業論文を執筆することを目標とする。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下のとおり。 第１回　ガイダンス 第２回　計量経済学の復習 第３回　計量経済学の復習 第４回　計量経済学の復習 第５回　計量経済学の復習 第６回　計量経済学の復習 第７回　問題意識に関する発表 第８回　問題意識に関する発表 第９回　仮説構築と検証戦略に関する発表 第10回　仮説構築と検証戦略に関する発表 第11回　データ収集と推計と結果解釈 第12回　データ収集と推計と結果解釈 第13回　中間発表 第14回　前期演習のまとめ 第15回　問題意識および仮説の深堀り 第16回　問題意識および仮説の深堀り 第17回　問題意識および仮説の深堀り 第18回　問題意識および仮説の深堀り 第19回　データの収集およびマイニング 第20回　データの収集およびマイニング 第21回　データの収集およびマイニング 第22回　推計と結果解釈 第23回　推計と結果解釈 第24回　推計と結果解釈 第25回　論文執筆の作法 第26回　論文執筆の作法 第27回　卒論発表会 第28回　後期演習のまとめ		
事前・事後学習の内容	日ごろから社会経済のニュースに関心をもち、調査研究の対象とするテーマ、問題意識を決めること。 統計分析については、テキスト等を参考にしながら、十分理解することを心がけること。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	遠慮することなく質問や相談をしてください。		
教材	『計量経済学の第一歩　――実証分析のススメ』田中隆一（有斐閣ストゥディア） 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』伊藤公一朗（光文社） 『理科系の作文技術』木下是雄（中公新書）		

授業コード	E066030110	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	金子　勝規		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、 卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ① 第14回_前期授業内容のまとめ② 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初稿発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初稿発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初稿発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文最終稿の確認 第26回_卒業論文提出 第27回_卒業論文発表グループ① 第28回_まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E066030080	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、卒業論文の作成を行う。 詳細については、ゼミ生の意見も聞きつつ、初回時に指示する。		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質により評価する。		
受講生へのコメント	ミクロ経済学的・計量経済学的視点からの分析もあればと思います。		
教材	テキスト：特になし。 参考文献：卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E066030090	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	客観的かつ論理的にディスカッションする力を用いて、卒業論文を作成する。		
授業の到達目標	経済学的な視点から各自の問題意識を具体化した後、既存の議論を整理し、論拠を示しながら自らの意見を展開していくことがさらにできるようになり、最終的に仮卒業論文を拡張することで論文を仕上げる。		
授業内容・授業計画	対面で行う。 前半は、仮卒業論文を確認する。後半は、仮卒業論文の拡張を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_仮卒業論文の確認 第３回_仮卒業論文の確認 第４回_仮卒業論文の確認 第５回_仮卒業論文からの拡張 第６回_仮卒業論文からの拡張 第７回_仮卒業論文からの拡張 第８回_拡張調査 第９回_拡張調査 第10回_拡張調査 第11回_拡張調査 第12回_拡張調査 第13回_拡張調査 第14回_拡張調査 第15回_章立て報告会 第16回_指定文献調査 第17回_指定文献調査 第18回_指定文献調査 第19回_卒業論文イントロ執筆 第20回_卒業論文キーワード執筆 第21回_卒業論文文献整理執筆 第22回_卒業論文の中間報告 第23回_卒業論文見解執筆 第24回_卒業論文の仮提出 第25回_卒業論文の最終修正 第26回_卒業論文の最終修正 第27回_卒業論文発表グループ 第28回_3年ゼミへの卒業論文執筆アドバイス		
事前・事後学習の内容	事前報告準備やフィードバックを行うこと。		
評価方法	卒業論文の内容		
受講生へのコメント	活動のすべては自主性に委ねられる。		
教材	適宜指示する。		

授業コード	E066030290	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	卒業論文を執筆する。		
授業の到達目標	先行研究をしっかりと読み、論理的でオリジナリティのある卒業論文を執筆する。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、卒業論文の作成を行う。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ（1） 第14回_前期授業内容のまとめ（2） 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初校発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初校発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初校発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文最終稿の確認 第24回_卒業論文提出 第25回_卒業論文発表グループ① 第26回_卒業論文発表グループ② 第27回_卒業論文発表グループ③ 第28回_まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文指導において指摘された事柄を修正し、次回のために必要な文献をしっかりと読んでくること。		
評価方法	卒業論文による。		
受講生へのコメント	大学生活四年間の集大成として、卒業論文にしっかりと取り組んでもらいたいと思います。		
教材	卒業論文のテーマにより、個別に適宜指示する。		

授業コード	E066030120	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	滋野　由紀子		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、 卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ 第14回_卒業論文作成 第15回_卒業論文作成 第16回_卒業論文作成 第17回_卒業論文作成 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初稿発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初稿発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初稿発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文最終稿の確認 第26回_卒業論文発表グループ① 第27回_卒業論文発表グループ② 第28回_卒業論文発表グループ③		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	積極的な発言を期待しています。		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E066030300	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	塩谷　昌史		
科目の主題	ゼミ生各自が立てた研究課題に沿って、必要な調査と文献・資料等の収集・読解を行い、専門演習4での研究報告の際に受けた、担当教員等からの助言を活かして、草稿に加筆・改善を加えながら、卒業論文の作成を計画的に進める。		
授業の到達目標	専門演習３と専門演習４を通じて獲得した知見と、抱いた問題意識に基づき、ゼミ生自らが立てた探究課題に沿って、必要な調査と情報の収集・整理を行い、論理的な整合性と説得力のある論文を執筆することにより、「問題の解決を志向するグローバル・エコノミスト(SOGE)」として総合的な能力を獲得する。		
授業内容・授業計画	第1回　卒業論文に取り組むにあたってのガイダンス 第2回　卒業論文の探究課題の選択 第3回　文献・資料収集の計画の決定 第4回　文献・資料収集の整理① 第5回　文献・資料収集の整理② 第6回　文献・資料をまとめるレジュメの検討 第7回　探究結果の第1回発表 第8回　探究結果の第1回発表を受けた追加的な文献・資料収集の整理 第9回　卒業論文全体の構想の立案 第10回　卒業論文全体の構想の発表 第11回　卒業論文全体の構想の再発表 第12回　卒業論文全体の構想に沿った追加的な文献・資料収集の実行、または調査の実施 第13回　追加的に収集した文献・資料または調査結果に関する考察 第14回　卒業論文において中心となる章の草稿の発表		
事前・事後学習の内容	毎回、教員のアドヴァイスに沿って準備を進めていってください。		
評価方法	評価にあたっては、以下の10点が評価の基準となる。 １．問題意識と課題設定の明確性 ２．探究課題の社会的な意義 ３．探究課題の新規性 ４．先行研究への適確な参照		
受講生へのコメント	卒業論文は、担当教員の指導と助言を受けながら、4年次の1年間を通して計画的に作成することになる。		
教材	その都度、参考文献を紹介します。		

授業コード	E066030130	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	流通経済の分野において各自が立てた研究課題に沿って、必要な調査と文献・資料等の収集・読解を行い、専門演習４での研究報告の際に受けた担当教員等からの助言を活かして草稿に加筆・改善を加えながら、卒業論文の作成を計画的に進める。		
授業の到達目標	専門演習３と専門演習４を通じて獲得した知見と抱いた問題意識とにもとづき、流通経済の分野において自らが立てた探究課題に沿って、必要な調査と情報の収集・整理を行い、論理的な整合性と説得力のある論文を執筆することにより、「問題の解決を志向するグローバル・エコノミスト（SOGE）」として総合的な能力を獲得する。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、 卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_卒業論文作成のステップについて 第２回_テーマの見つけ方 第３回_テーマの見つけ方：実習 第４回_参考文献の探し方 第５回_参考文献の探し方：実習 第６回_データの探し方 第７回_データの探し方：実習 第８回_構成の立て方 第９回_構成の立て方：実習 第10回_パラグラフの書き方 第11回_パラグラフの書き方：実習 第12回_図表の作り方 第13回_図表の作り方：実習 第14回_文献参照の仕方 第15回_文献参照の仕方：実習 第16回_調査発表（１） 第17回_調査発表（２） 第18回_調査発表（３） 第19回_卒業論文初稿発表（１） 第20回_卒業論文初稿発表（２） 第21回_卒業論文初稿発表（３） 第22回_卒業論文改訂稿発表（１） 第23回_卒業論文改訂稿発表（２） 第24回_卒業論文改訂稿発表（３） 第25回_卒業論文最終稿発表（１） 第26回_卒業論文最終稿発表（２） 第27回_卒業論文最終稿発表（３） 第28回_卒業論文講評会		
事前・事後学習の内容	事前には、与えられた課題を作成すること。 事後には、演習での指導をもとに課題の手直しを行うこと。		
評価方法	上記の到達目標に沿って卒業論文を評価する。評価にあたっては、以下の10点が評価の基準となる。 １）問題意識と課題設定の明確性　　６）今後の課題の明確 ２）探究課題の社会的な意義　　７）根拠の展開の妥当性 ３）探究課題の新規性　　８）根拠の新規性・独創性 ４）先行研究への適確な参照　　９）論文のわかりやすさ		
受講生へのコメント	卒業論文は、担当教員の指導と助言を受けながら、４年次の１年間を通して計画的に作成することになる。		
教材	テキスト：特になし。 参考文献：卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E066030140	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	杉田　菜穂		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文を完成させる。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が① 自らの問題意識を持ち、② 情報の収集と整理の方法を身に着け、③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑応答 第５回_テーマの発表・質疑応答 第６回_テーマの発表・質疑応答 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ 第14回_調査① 第15回_調査② 第16回_調査③ 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初稿発表と質疑応答 第21回_卒業論文初稿発表と質疑応答 第22回_卒業論文初稿発表と質疑応答 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文最終稿の確認 第26回_卒業論文提出 第27回_卒業論文発表 第28回_まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努めること。 経過報告に対するコメント、アドバイス等に基づいて加筆修正をすること。		
評価方法	完成した卒業論文の質だけでなく、経過報告を含む卒業研究への取り組みについて総合的に評価する。		
受講生へのコメント	追究したいテーマを見つけることからはじめましょう。		
教材	個別に助言する。		

授業コード	E066030030	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	高塚　創		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	この授業は対面で行うことを基本とする. ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、 卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ 第14回_夏合宿 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初稿発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初稿発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初稿発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文最終稿の確認 第26回_卒業論文提出 第27回_卒業論文発表グループ 第28回_まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E066030150	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	経済に関するテーマで卒業論文を作成する。		
授業の到達目標	卒業論文の作成を通じて、論文執筆能力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	卒業論文を作成する。 [1]卒業論文の書き方指導 [2]卒業論文中間報告 [3]卒業論文修正 [4]卒業論文最終稿報告 [5]卒業論文提出 [6]卒業論文発表会 卒論指導は専門演習４の授業の中で行います。		
事前・事後学習の内容	卒業論文の報告・提出のために準備を行うこと。		
評価方法	卒業論文の作成プロセス、卒業論文報告、提出された卒業論文などにより、総合的に判断します。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	特になし。		

授業コード	E066030160	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ 第14回_夏合宿 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初校発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初校発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初校発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文最終稿の確認 第26回_卒業論文提出 第27回_卒業論文発表グループ① 第28回_卒業論文発表グループ② 第29回_卒業論文発表グループ③ 第30回_まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	ゼミ生はこのシラバスを見てください！絶対！		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E066030170	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	卒業論文の作成を視野に入れた個人報告と、討論による研究テーマの深化。		
授業の到達目標	卒論につながる経済問題について、グループおよび個人による報告をもとに、異なった角度からの意見をつき合わせ、各自が自分なりの経済の見方を深化させる。		
授業内容・授業計画	最初の何回かは、グループ分けしたうえで、研究テーマを絞り込むための調査・報告・議論をおこなう。次に、選んだテーマについて各自が研究報告を行い、討論を通じて認識の深化を図る。 第１回_演習計画の説明 第２回_テーマ設定について：第１グループの報告 第３回_テーマ設定について：第２グループの報告 第４回_テーマ設定について：第３グループの報告 第５回_個人報告：メンバー1 第６回_個人報告：メンバー2 第７回_個人報告：メンバー3 第８回_個人報告：メンバー4 第９回_個人報告：メンバー5 第10回_個人報告：メンバー6 第11回_個人報告：メンバー7 第12回_個人報告：メンバー8 第13回_個人報告：メンバー9 第14回_個人報告：メンバー10 第15回_後期計画の議論 第16回_個人報告2：メンバー1 第17回_個人報告2：メンバー2 第18回_個人報告2：メンバー3 第19回_個人報告2：メンバー4 第20回_個人報告2：メンバー5 第21回_個人報告2；メンバー6 第22回_個人報告2：メンバー7 第23回_個人報告2：メンバー8 第24回_個人報告2：メンバー9 第25回_個人報告2：メンバー10 第26回_第1グループのプレゼンテーション 第27回_第2グループのプレゼンテーション 第28回_第3グループのプレゼンテーション		
事前・事後学習の内容	自らの課題に関する報告準備と、議論を踏まえた事後的修正作業を行う。		
評価方法	演習への参加状況（報告内容、討論への参加状況）をもとに評価する。		
受講生へのコメント	私の専門はマクロ経済理論であるが、テーマはマクロ理論から多少離れてもかまわない。 議論を楽しむ雰囲気になる事が大事である。		
教材	テキスト：なし 参考書：なし		

授業コード	E066030180	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成を行う。		
授業の到達目標	適切な問題を発見できる。 適切な仮説を立案できる。 適切な検証方法を考案できる。 調査や分析を通して、仮説を検証できる。または、仮説とその検証方法について適切に変更できる。 適切な論理を構成し、卒業論文を完成させる。		
授業内容・授業計画	この授業は対面で実施する。 各自卒業研究を行う。授業では、調査した内容を報告し、その後の研究方針を決める。 第１回_予備調査とテーマ案 第２回_予備調査とテーマ案 第３回_予備調査とテーマ案 第４回_予備調査とテーマ案 第５回_仮説の立案と先行研究の調査 積読 第６回_仮説の立案と先行研究の調査 乱読 第７回_仮説の立案と先行研究の調査 主要論文精読 第８回_仮説の立案と先行研究の調査 主要論文精読 第９回_仮説案報告 第１０回_調査方針決定 第１１回_仮説検証　第一段階 第１２回_仮説検証　第一段階 第１３回_仮説検証　第一段階 第１４回_仮説検証　第一段階 第１５回_仮説検証　第一段階 第16回_卒業研究　中間報告 第17回_仮説検証　第二段階 第18回_仮説検証　第二段階 第19回_仮説検証　第二段階 第20回_仮説検証　第二段階 第21回_仮説検証　第二段階 第22回_仮説検証　第二段階 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文作成 第26回_卒業論文提出 第27回_卒業論文　リバイス 第28回_卒業論文発表会		
事前・事後学習の内容	事前・事後学習：　調査、分析、考察、執筆を行う。		
評価方法	卒業論文　採点基準表に基づいて評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E066030190	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	人権またはシティズンシップにかかわって各自が立てた研究課題に沿って、必要な調査と文献・資料等の収集・読解を行ない、演習４での研究報告の際に受けた担当教員等からの助言を活かして草稿に加筆・改善を加えながら、卒業論文の作成を計画的に進めてもらいます。		
授業の到達目標	演習３と演習４を通じて獲得した知見と抱いた問題意識とにもとづき、人権またはシティズンシップにかかわって自らが立てた探究課題に沿って、必要な調査と情報の収集・整理を行ない、論理的な整合性と説得力のある論文を執筆することにより、「グローバル・プラクティカル・エコノミスト（GPE）」として総合的な能力を獲得することを、到達目標とします。		
授業内容・授業計画	権利またはシティズンシップに関連してゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて調査と考察を行ない、そのことを通じて卒業論文を執筆してもらいます。大まかなスケジュールは以下の通りです。 第１回　イントロダクション 第２回　テキストの検討① 第３回　テキストの検討② 第４回　テキストの検討③ 第５回　テキストの検討④ 第６回　テキストの検討⑤ 第７回　テキストの検討⑥ 第８回　テキストの検討⑦ 第９回　テキストの検討⑧ 第10回　テキストの検討⑨ 第11回　各ゼミ生の卒論の目次の発表 第12回　卒論に関連する読書報告① 第13回　卒論に関連する読書報告② 第14回　卒論に関連する読書報告③ 第15回　卒論の詳細なレジュメの提出 第16回　調査をふまえた卒論の修正構想の発表 第17回　卒論の最も重要な章の発表① 第18回　卒論の最も重要な章の発表② 第19回　卒論の最も重要な章の発表③ 第20回　卒論の初稿の発表と討議① 第21回　卒論の初稿の発表と討議② 第22回　卒論の初稿の発表と討議③ 第23回　卒論の修正稿の発表と討議① 第24回　卒論の修正稿の発表と討議② 第25回　卒論の修正稿の発表と討議③ 第26回　卒論の暫定完成稿の提出 第27回　添削済みの卒論暫定完成稿の返却 第28回　卒論の最終稿の提出		
事前・事後学習の内容	各回の演習の前には、指定されたテキストの丁寧な読解と報告準備が求められます。各回の演習の後には、テキストに関する理解を各自の卒業論文の構想立案に生かすことが求められます。		
評価方法	前期の演習におけるテキストの輪読では、その内容を正しく把握した報告の準備が求められます。後期の演習では、読書ノートの量と水準が評価を左右します。		
受講生へのコメント	日本における人権保障と統合政策とについて、国際比較により考察することが求められます。		
教材	テキストは、近藤敦『多文化共生と人権』（明石書店、2019年）を予定していますが、このテキストはまだ確定しているわけではないので、担当教員からの指示があった後に各自で購入してもらうことになります。		

授業コード	E066030200	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	ゼミ生それぞれが卒業論文のテーマを選択します。まず、そのテーマについて文献・資料等を収集します。 経済理論や統計分析を用いて分析し、卒論を作成します。		
授業の到達目標	経済理論や統計分析を用いたオリジナリティのある卒業論文を作成することを到達目標とします。		
授業内容・授業計画	この演習は対面で行います。 ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて、各自が適した分析を行い、卒業論文を作成します。 大まかなスケジュールは以下のとおりです。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解① 第８回_データ収集と読解② 第９回_データ収集と読解③ 第１０回_データ収集と読解④ 第１１回_データ収集と読解⑤ 第１２回_過去の卒論の勉強 第１３回_中間発表① 第１４回_中間発表② 第１５回_再調査① 第１６回_再調査② 第１７回_調査内容まとめ 第１８回_卒業論文作成 第１９回_卒業論文初校発表と質疑グループ① 第２０回_卒業論文初校発表と質疑グループ② 第２１回_卒業論文初校発表と質疑グループ③ 第２２回_卒業論文作成① 第２３回_卒業論文作成② 第２４回_卒業論文最終稿の確認 第２５回_卒業論文提出 第２６回_卒業論文発表グループ① 第２７回_卒業論文発表グループ② 第２８回_卒業論文発表グループ③		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持って分析すること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正や再考をすること。		
評価方法	卒業論文への取り組み(1/3)と質(2/3)により評価します。		
受講生へのコメント	特になし。		
教材	テキストは無し。 参考文献は、卒業論文テーマにより、適宜紹介します。		

授業コード	E066030210	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	学生が選択した研究テーマに基づいて、書籍・論文・資料・新聞記事・関連データなどを収集するとともに、調査（フィールドワークなど）を行い、卒業論文を作成し、報告を行う。		
授業の到達目標	①学生の問題意識に基づいてテーマを設定し、②テーマと関連する情報を収集する能力を身に付け、③論理的に整合性のある構成（目次）を組み立て、④オリジナリティのある論文を作成できるようになる。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマにそって、構成を組み立て、目次にそって卒業論文の作成を行う。 第１回　卒論の書き方ガイダンス 第２回　卒論のテーマの設定 第３回　テーマに関する資料の収集 第４回　Ａグループのテーマと構成発表 第５回　Ｂグループのテーマと構成発表 第６回　Ｃグループのテーマと構成発表 第７回　Ｄグループのテーマと構成発表 第８回　関連文献の読解と発表 第９回　関連文献の読解と発表 第10回　関連文献の読解と発表 第11回　関連文献の読解と発表 第12回　フィールドワーク調査 第13回　フィールドワーク調査 第14回　中間発表 第15回　中間発表 第16回　フィールドワークの結果発表 第17回　フィールドワークの結果発表 第18回　フィールドワークの結果発表 第19回　フィールドワークの結果発表 第20回　卒業論文の作成 第21回　卒業論文の作成 第22回　卒業論文の作成 第23回　卒業論文の作成 第24回　最終稿の確認と修正 第25回　最終稿の確認と修正 第26回　最終稿の確認と修正 第27回　卒論発表 第28回　卒論発表		
事前・事後学習の内容	卒業論文のテーマに関する資料を十分に収集し、資料を読み込んでおくこと。卒業論文の中間発表におけるコメントやアドバイスを論文修正の参考にし、完成度の高い論文を仕上げること。		
評価方法	論文の内容と卒論発表会におけるプレゼンのレベルなどを基準に判断する。		
受講生へのコメント	卒論作成には全力で取り組むこと。		
教材	石原千秋『大学生の論文執筆法』ちくま新書、2006年		

授業コード	E066030230	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	この授業は対面より実施する。 ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_前期授業内容のまとめ 第13回_夏合宿 第14回_調査① 第15回_調査② 第16回_調査内容まとめ 第17回_卒業論文作成 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文初稿発表と質疑グループ① 第20回_卒業論文初稿発表と質疑グループ② 第21回_卒業論文作成 第22回_卒業論文作成 第23回_卒業論文最終稿の確認 第24回_卒業論文提出 第25回_卒業論文発表グループ① 第26回_卒業論文発表グループ② 第27回_卒業論文発表グループ③ 第28回_まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	作成した卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E066030250	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	松本　淳		
科目の主題	自分自身で課題を設定して、自らの頭で考える論文を作成することを目標とする。		
授業の到達目標	学士過程を修了するにふさわしい卒業論文を執筆することが目標である。		
授業内容・授業計画	受講生全体で共有すべき技能を習得するためのレクチャーや報告会が授業内容の中心となる。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒論作成ノート配布と使い方 第３回_問題意識醸成についてのレクチャー 第４回_新聞記事検索のレクチャーと実践 第５回_専門書籍の選び方レクチャー 第６回_専門雑誌論文の選び方レクチャー 第７回_論文構成についてのレクチャー 第８回_卒業論文ストーリー発表会 第９回_卒業論文ストーリー発表会 第10回_卒業論文ストーリー発表会 第11回_卒業論文ストーリー発表会 第12回_卒業論文ストーリー発表会 第13回_卒業論文ストーリー発表会 第14回_卒業論文ストーリー発表会 第15回_夏合宿 第16回_卒業論文中間報告 第17回_卒業論文中間報告 第18回_卒業論文中間報告 第19回_卒業論文中間報告 第20回_卒業論文中間報告 第21回_卒業論文中間報告 第22回_卒業論文中間報告 第23回_卒業論文完成稿チェック 第24回_卒業論文完成稿チェック 第25回_卒業論文完成稿チェック 第26回_卒業論文完成稿チェック 第27回_卒業論文完成稿チェック 第28回_卒業論文最終報告会（全員報告）		
事前・事後学習の内容	あらゆる授業時間の内容について、各自の判断でできることは自主的に準備をすること。また、教員への報告・連絡なども積極的に自分の判断で行い、常にコミュニケーションをとることを心がけること。		
評価方法	レクチャーや実際の文献等の検索作業への取り組み方、理解度、報告準備の出来等を加味したうえで、基本的には提出された卒業論文の内容に対して評価点をつけて評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E066030310	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに従い、文献や資料等を収集・読解・調査し、卒業論文の作成および研究報告を行う。		
授業の到達目標	科目の主題を通じて、各自が ① 自らの問題意識を持ち、 ② 情報の収集と整理の方法を身に着け、 ③ 論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考え、 オリジナリティのある卒業論文が作成できるようになること。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、 卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ 第14回_夏合宿 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初稿発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初稿発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初稿発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文最終稿の確認 第26回_卒業論文提出 第27回_卒業論文発表グループ 第28回_まとめ		
事前・事後学習の内容	卒業論文の研究動機を事前に用意すること。 問題意識を持ってデータ収集と読解に努め、発表に備えること。 発表時のコメント、アドバイス等に基づいて修正、調査、再考をする。		
評価方法	卒業論文の質と発表会のプレゼンテーションにより、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト、特になし。 参考文献、卒業論文テーマにより、指示する。		

授業コード	E066030280	開講年度・学期	2021年度前期、2021年度後期
科目授業名	卒業論文		
英語科目授業名	Graduation Thesis		
科目ナンバー	EAEXJ7402		
単位数	12単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	各自が選択した研究テーマに沿って、卒業論文を執筆する。		
授業の到達目標	各自が 自分の問題意識を軸にして、卒業論文にふさわしいテーマを見つけられるようになることが、最初の到達目標である。レポートや小論文とは異なって、ある程度の文量を執筆する卒業論文は、ただの思いつきからは書けないものである。卒業論文の対象としてふさわしいテーマには、材料となる先行研究や資料が、一定程度存在しなければならない。先行研究や資料の有無を調べ、それらを収集して使いこなすことが、第二の重要な到達目標である。最終的には、論理的に整合性のとれた構成を自らの頭で考えて書かれているという点でオリジナリティを有する、卒業論文の完成を目指したい。		
授業内容・授業計画	ゼミ生が選択した卒業論文のテーマについて問題点の検討を行い、そのことを通じて、卒業論文の作成を行う。 大まかなスケジュールは以下の通り。 第１回_ガイダンス 第２回_卒業論文テーマの選択 第３回_テーマの文献・資料収集 第４回_テーマの発表・質疑グループ① 第５回_テーマの発表・質疑グループ② 第６回_テーマの発表・質疑グループ③ 第７回_データ収集と読解 第８回_データ収集と読解 第９回_データ収集と読解 第10回_データ収集と読解 第11回_データ収集と読解 第12回_データ収集と読解 第13回_前期授業内容のまとめ（1） 第14回_前期授業内容のまとめ（2） 第15回_調査① 第16回_調査② 第17回_調査内容まとめ 第18回_卒業論文作成 第19回_卒業論文作成 第20回_卒業論文初校発表と質疑グループ① 第21回_卒業論文初校発表と質疑グループ② 第22回_卒業論文初校発表と質疑グループ③ 第23回_卒業論文作成 第24回_卒業論文作成 第25回_卒業論文最終稿の確認 第26回_卒業論文提出 第27回_卒業論文発表グループ① 第28回_卒業論文発表グループ②		
事前・事後学習の内容	①各自のテーマに特化する部分だけでなく、これからの経済社会についてのテーマや、SDGsやデジタル資本主義、地政学あるいは地形学についての書籍や日経新聞などの記事を、適宜、更新すると良いでしょう。それが卒業論文の内容に奥行きと広がりを与えてくれます。 ②卒業論文はレポートと異なります。膨大な労力が必要になります。一夜や一週間では決してかけません。忙しいと思いますが、前期、夏休み、後期でそれぞれの時期にやりべき課題がありますので、その課題をやり遂げるための時間は確保するよう努めてください。		
評価方法	卒業論文の内容だけでなく、卒論草稿作成時のプロセスをもあわせて、総合的に評価する。		
受講生へのコメント	１）オンラインやメールを利用し、個別に時間を設定して指導することが増えると思います。 ２）卒業後、何年か経っても書いてよかった、と思えるようなテーマを見つけてそれを論文として仕上げて欲しいと思います。		
教材	テキスト：特になし。 参考文献：論文執筆に不可欠な文献を、各自、見つける必要があります。適宜、助言します。		

後 期 開 講 科 目

授業コード	E010011010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	近代経済学（マクロ１）		
英語科目授業名	Macroeconomics 1		
科目ナンバー	EAB1J2101		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	岡澤　亮介		
科目の主題	はじめて経済学を学ぶ学生向けに、マクロ経済学の基礎的内容について講義します。		
授業の到達目標	マクロ経済学の基礎的内容を理解する。		
授業内容・授業計画	講義形式による。授業は遠隔により実施する予定である。 第１回 ガイダンス 第２回 経済学の十大原理 第３回 経済学者らしく考える 第４回 相互依存と交易（貿易）からの利益 第５回 市場における需要と供給の作用 第６回 マクロ経済のデータ 第７回 生産と成長 第８回 貯蓄・投資と金融システム 第９回 失業 第10回 貨幣システム 第11回 貨幣量の成長とインフレーション 第12回 総需要と総供給① 第13回 総需要と総供給② 第14回 金融・財政政策が総需要に与える影響 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義の内容を復習するために練習問題を4回ほど出題します。		
評価方法	期末試験の成績に基づいて評価します。		
受講生へのコメント	講義資料や連絡事項をWebClass にアップするので、各自定期的に確認するようにしてください。		
教材	テキスト：N.グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅱマクロ編』東洋経済新報社		

授業コード	E010020010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	近代経済学（ミクロ１）		
英語科目授業名	Microeconomics 1		
科目ナンバー	EAB1J2102		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	ミクロ経済学の基礎を学習する。ミクロ経済学１では、特に消費の理論に焦点を当てる。		
授業の到達目標	消費の理論に関する基礎レベルの知識を習得する。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔（標準手順：発展）により実施する。授業日当日までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めること。WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。 テキストに従って講義を行う。 第１回_イントロダクション 第２回_ミクロ経済学の論理と方法（１）−経済学の定義− 第３回_ミクロ経済学の論理と方法（２）−市場経済の効率性− 第４回_市場機構と需要・供給（１）−均衡の安定性− 第５回_市場機構と需要・供給（２）−需要の価格弾力性− 第６回_市場機構と需要・供給（３）−供給の価格弾力性− 第７回_消費者と需要（１）−効用関数− 第８回_消費者と需要（２）−需要の決定− 第９回_消費者行動と需要曲線（１）−エンゲル曲線− 第10回_消費者行動と需要曲線（２）−需要曲線− 第11回_消費者行動と需要曲線（３）−ギッフェン財− 第12回_消費者需要理論の応用と拡張（１）−指数の比較と顕示選好理論− 第13回_消費者需要理論の応用と拡張（２）−消費者余剰− 第14回_消費者需要理論の応用と拡張（３）−余暇と労働− 定期試験		
事前・事後学習の内容	次回の講義に関するテキストの範囲を必ず事前に確認し、授業に臨むこと。また、授業のはじめに前回の講義内容について小テストを実施する。各自講義の要点をまとめるなど、準備を欠かさないようにすること。		
評価方法	小テスト（遠隔、50%）および期末試験（遠隔、50%）によって評価する。		
受講生へのコメント	質問がある場合は、教材一覧から「質疑応答」を選択して行ってください。質疑応答の進め方は「学生向け遠隔講義入門」の「質疑応答について」を参照してください。 授業で扱う消費理論が皆さんの毎日の購買行動をうまく説明しているでしょうか？考えてみてください。		
教材	テキスト：西村和雄　『ミクロ経済学』（現代経済学入門）第3版、岩波書店、2011年。 参考書：特になし。		

授業コード	E010031010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	政治経済学Ⅰ		
英語科目授業名	Political Economy Ⅰ		
科目ナンバー	EAB1J2103		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	若森　みどり		
科目の主題	「資本主義」はどのような特徴をもっているか？　この授業では、「労働」「資本」「貨幣」「環境」に関するpolitical economyの基礎概念や考え方を通じて、資本主義以前の歴史と資本主義的展開とその動態を長期的な展望から把握する。とりわけ、資本主義のイノベーションとその影響や、資本主義が抱えている問題、およびそれがもたらす危機について取り上げる。そして、現代資本主義の特性とその矛盾（経済格差、金融化、債務問題、民主主義と福祉国家の危機、恐慌、環境破壊など）について考察したうえで、現在進行中の転換と「これから」について考える。		
授業の到達目標	政治経済学の視点や歴史・理論・思想を踏まえて、資本主義という社会経済システムについて主体的に考察し解説できるようになることを到達目標とする。		
授業内容・授業計画	テキストと教材に基づいて講義する。大まかな内容は以下の通り 第１回_イントロダクション第２回_ヨーロッパは18世紀まで世界の辺境だった第３回_資本家の条件第４回_資本主義と産業革命と新たな貧困第５回_資本主義と国家の関係第６回_世界システムとしての資本主義第７回_資本主義とイノベーションとデフレーション第８回_資本主義の大収縮時代第９回_資本主義と民主主義の関係第10回_資本主義と大量消費社会第11回_資本主義の危機①　なぜ過労死はなくならないのか第12回_資本主義の危機②　世界金融危機第13回_資本主義の危機③　社会的共通資本の危機第14回_資本主義社会の成熟とこれから		
事前・事後学習の内容	Webclassに教材をアップします。 事前の学習：教材をダウンロードし、目を通すこと。 事後の学習：教材の説明した内容について復習し、指示された課題に取り組むこと。疑問点があればWebclassの中のメール機能などを使って質問すること。※受講生へのコメントを参照のこと。		
評価方法	期末レポートによって評価する。なお、期末レポートの評価に、授業態度（Webclassへのアクセス状況や小課題への対応など）への評価が反映されるように、課題や設問を設定する。		
受講生へのコメント	①教材や資料をWebclassにアップするので、それを小まめにダウンロードし内容理解に努めること。 ②理解が不十分と認識したり説明をしてほしいと思う点があれば、Webclassから質問してください。 ③教材で「考えてみよう」「調べてみよう」と書かれている点については、実践してください。 ④各回の教材について、自分の言葉で要点をまとめてみよう。 ⑤①～④の蓄積が活きるような、期末レポート課題をつくります。どんなレポート課題がふさわしいかについても、Webclassから提案してください。 ⑥資料配信を中心に行いますが、質疑の時間（学生同士、教員と学生）を双方向で行う機会を何度か設けたいと思っています。この点については詳細が決まり次第、Webclassで連絡します。 ⑦資本主義のうちで生活し適応することに私たちは慣れきっていますが、働いても貧困から抜け出せなかったり過労死するまで働いてしまうなどの資本主義の問題や矛盾ついて批判的に考察して、能動的に生きるための想像力や創造力を豊かにしていただきたい、と思います。		
教材	テキスト：ウルリケ・ヘルマン『資本の世界史-資本主義はなぜ危機に陥ってばかりいるのか』太田出版。 参考文献：テキストでは足らないテーマ（これからの経済社会の可能性、社会的共通資本、コモン、働き方、幸福　など）を補うために、適宜、参考文献を授業の中で指示します。 　何点か挙げておきます。 　　山田博文『99%のための経済学入門第2版』大月書店 　　斎藤幸平『人新世の「資本論」』集英社新書 　　ジェレミー・リフキン『限界費用ゼロ社会〈モノのインターネット〉と共有型経済の台頭』NHK出版 　　ジェレミー・リフキン『グローバル・グリーン・ニューディール』NHK出版 　　エノ・シュミット、山森亮、堅田香緒里、山口純『お金のために働く必要がなくなったら何をしますか』光文社新書		

授業コード	E010101010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	基礎・経済統計		
英語科目授業名	Elementary Economic Statistics		
科目ナンバー	EAB1J2105		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中川　満		
科目の主題	数理統計学の基礎を学習する．経済理論の検証については，現在のところ統計学的推論に多くを依存している．従って，統計学は経済学理解に不可欠である．また，統計学を修得する際に使用する数学的操作は，保険理論，ファイナンス理論，ゲーム理論等を修得する際にも役に立つであろう．また，一般の社会生活においても世論調査，視聴率調査，選挙の出口調査など統計学利用の場は極めて広範，かつ，身近であるから，経済学を離れても，その理解は意味があろう． なお、新型コロナ感染症の流行状況によってオンライン授業になる可能性がある。		
授業の到達目標	統計学の修得には，ふたつの側面があると考えられる．統計操作の方法の修得と操作の背景にある理論の修得である．本講義では後者に焦点をあてる．半期という時間的制約と，理論的背景を理解していないとただの暗記となり応用力が付かない点からである．		
授業内容・授業計画	教科書に沿って講義する．ただし，高校時代にすでに知っているとみられる事項は飛ばす．なお，授業には平方根を求めることができる電卓を持参してほしい． 第１回_ガイダンス 第２回_記述統計1（1　データの中心） 第３回_記述統計1（2　データの広がり、3　データの偏り） 第４回_記述統計1（4　さまざまな平均値） 第５回_記述統計1（5　度数分布とヒストグラム） 第６回_記述統計1（6　ローレンツ曲線とジニ係数） 第７回_記述統計2（1　物価指数） 第８回_記述統計2（2　数量指数、3 ラスパイレス・パーシェ指数） 第９回_記述統計2（4　経済指標） 第10回_記述統計2（5　2変数データの整理） 第11回_相関と回帰（1　散布図と相関係数） 第12回_相関と回帰（2　単回帰） 第13回_相関と回帰（3　回帰の適合度） 第14回_相関と回帰（4　回帰の諸問題） 定期試験（新型コロナ感染症の流行状況によって課題の提出となる場合がある）		
事前・事後学習の内容	テキストによる予復習を行うこと．		
評価方法	定期試験による．ただし，客観的に本講義修了レベルの到達度が証明できる場合は，相応の成績で単位を与える． なお、新型コロナ感染症の流行状況によって提出された諸課題による評価となる場合がある		
受講生へのコメント	統計学の面白さを伝えたい！		
教材	テキスト：森棟他（2015）『統計学（改訂版）　＜NLASシリーズ＞』		

授業コード	E022065010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	西洋経済史		
英語科目授業名	Economic History of Europe		
科目ナンバー	EAB2J3204		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	塩谷　昌史		
科目の主題	16世紀以降に西欧世界が経済的に発展していった過程を、代表的な文献に基づいて概説する。この授業の特徴は、①自然との相互作用の中で、人間が繁栄してきたことに着目すること、②経済を変革する主要因として科学技術を重視すること、の二つである。また、できる限り、大阪市立大学の元教員の研究にも授業の中で触れ、本学の知的伝統に触れてもらいたい。		
授業の到達目標	歴史を暗記ものと捉える諸君もいると思われるが、この授業では史実を憶える授業ではなく、歴史的概念や経済的概念を理解してもらうことを目標にしたい。毎回、授業の中で重要な概念を紹介するので、その概念の理解に努めてもらえば、授業の目標が達成される。		
授業内容・授業計画	16世紀以降、西欧世界が発展したのは、世界的な分業システムを構築したことと、科学技術を発展させことが挙げられる。なぜ西欧世界が、この二つの特徴を実現させることができたのかを、授業の全体を通じて考えて行きたい。 第１回_オリエンテーション 第２回_人類の特徴（共同主観） 第３回_自然環境と人間の相互作用 第４回_科学技術の誕生 第５回_綿花と産業革命 第６回_国民国家と統計 第７回_資本主義の発展 第８回_ユダヤ人と資本主義 第９回_近代世界システム 第10回_電信と金本位制 第11回_戦争と福祉国家 第12回_米ソの冷戦 第13回_経済のグローバル化 第14回_新興経済諸国の台頭と環境問題 定期試験		
事前・事後学習の内容	毎回、授業の内容に関連する参考文献を紹介するので、授業の後に図書館等で読んでみてもらいたい。		
評価方法	出席が20%、読書感想文が20%、学期末試験が60%の割合で評価を行う。		
受講生へのコメント	文系と理系の学生という区分がありますが、現在では、文系の学生にも科学技術の知識が、理系の学生にも人文社会系の知識が求められます。この授業を通じて学際的な見方を育んでもらえれば、嬉しく思います。この授業は例年対面授業で行っていますが、受講生が100名を超えることが普通でした。しかし今年度は100名を超えれば、遠隔授業にする必要があるため、この授業は遠隔授業になる可能性があることを予め御理解ください。		
教材	テキスト：特にありません。 参考書：その都度、授業の中で紹介します。		

授業コード	E021111010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	応用マクロ経済学		
英語科目授業名	Applied Macroeconomics		
科目ナンバー	EAB2J3207		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	内藤　克幸		
科目の主題	基本的な動学マクロ経済学を修得する。		
授業の到達目標	動学マクロ経済学を修得するとともに、それらの理論を応用しながら現実の経済問題を分析する能力を身に付けることを目標とする。		
授業内容・授業計画	本講義は遠隔（標準手順：発展）により実施する。WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照すること。 第１回_数学準備1：1変数関数の微分と最適化問題 第２回_数学準備2：多変数関数の微分と最適化問題 第３回_所得分配1：基礎 第４回_所得分配2：応用 第５回_ソロー・スワン型経済成長モデル1：基礎 第６回_ソロー・スワン型経済成長モデル2：応用 第７回_消費者理論1：基礎 第８回_消費者理論2：応用 第９回_一般均衡理論1：基礎 第10回_一般均衡理論2：応用 第11回_2期間モデル1：基礎 第12回_2期間モデル2：応用 第13回_世代重複モデル1：基礎 第14回_世代重複モデル2：応用 定期試験		
事前・事後学習の内容	積み上げ式の講義であるため、講義内容をしっかりと復習する必要がある。		
評価方法	定期試験80%、課題提出20%		
受講生へのコメント	講義資料等をWebClassに掲載する。		
教材	テキスト：特になし。 参考書：授業中に適宜指示する。		

授業コード	E021121010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	応用ミクロ経済学		
英語科目授業名	Applied Microeconomics		
科目ナンバー	EAB2J3208		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	ミクロ経済学１、２では、需要サイドの理論、供給サイドの理論及び市場均衡の理論を学んだ。応用ミクロ経済学では、これらの知識を前提にミクロ経済学の応用を学ぶ。		
授業の到達目標	ミクロ経済学１、２で学んだミクロ経済学の知識を基礎として、ミクロ経済学の応用力を身に付ける。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔（標準手順：基本）により実施する。授業日当日までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めること。WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。 市場の失敗(外部効果、公共財)、情報の経済学、ゲーム理論、国際貿易のミクロ理論、動学理論を学ぶ。 第１回_市場機構の限界(１)(外部効果) 第２回_市場機構の限界(２)(公共財) 第３回_不確実性と情報(１)(サンクトペテルブルグの逆説、危険に対する態度) 第４回_不確実性と情報(２)（条件付き財の取引) 第５回_不確実性と情報(３)（情報の非対称性) 第６回_ゲームの理論(１)(ナッシュ均衡、展開型ゲーム) 第７回_ゲームの理論(２)(繰り返しゲーム) 第８回_国際貿易(１)(リカード・モデル) 第９回_国際貿易(２)(H&Oモデル(1)) 第10回_国際貿易(３)(H&Oモデル(2)) 第11回_国際貿易(４)(H&Oモデル(3)) 第12回_国際貿易(５)(関税の効果) 第13回_動学理論(１)(異時点間にわたる消費) 第14回_動学理論(２)(カオス)		
事前・事後学習の内容	前回の授業内容を復習し、次回授業のテキストの該当箇所を読んでおくこと。		
評価方法	遠隔(WebClass)での10回の小テストで評価する予定です。		
受講生へのコメント	質問がある場合は、教材一覧から「質疑応答」を選択して行ってください。質疑応答の進め方は「学生向け遠隔講義入門」の「質疑応答について」を参照してください。 微分を用いた計算ができ、条件付き最大化(最小化)問題が解けることを前提に授業を行います。		
教材	テキスト：西村和雄著『ミクロ経済学(第３版)』(現代経済学入門)(岩波書店) 参考書：特になし。		

授業コード	E047400010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	Lectures on Economics in English B		
英語科目授業名	Lectures on Economics in English B		
科目ナンバー	EAAPE4207		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	阪原　淳		
科目の主題			
授業の到達目標	Econmics is a quite creative academic field and students in this class are expected to learn skills to think creatively and undestand society with economics point of view.		
授業内容・授業計画	Syllabus could be changed/adjusted especially depending on the number of students and future career goals of students. 第１回_Introduction. What is the society? 第２回_How does it develop? What is the economy? 第３回_An introduction to four layers. A story of a tiger. 第４回_What is value system? What is politics? 第５回_Who creates social value system? 第６回_Who is innovator? What is job? 第７回_Being an entrepreneur. Being a scientist/engineer. 第８回_Being a worker for a large corporation. Being a worker for media and religions. 第９回_Being a politician. World’s best tomato. 第10回_How engineering is born and penetrates into society. 第11回_Speed of the change of the four layers. What is corporation? 第12回_Temp work and gig work. Perfect information world. 第13回_Dialectic, story, and innovation. Presentation 第14回_Presentation. 定期試験		
事前・事後学習の内容	Class Participation is a key part of this class. Students are expected to conduct a field work. The output of individual field work is a sound file of an hour interview and a report based on it.		
評価方法	Class participation is 60% and final output of field work is 40%.		
受講生へのコメント	I have a quite unorthodox backgrounds as a lecturer. I will approach this class probably quite differently. Please look up my backgrounds on the web.		
教材	テキスト：「増補 社会原理序説」(dZERO) 参考書：「直線は最短か？」（ヤマハ）		

授業コード	E031010010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	経済原論ＩＡ		
英語科目授業名	Principles of Political Economy ＩA		
科目ナンバー	EAAPJ4201		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	齋藤　幸平		
科目の主題	この授業では、私たちの生活する「資本主義社会」とはいったいどのような社会なのかを分析する。なぜ生活をするための仕事で、過労死をするまで働いてしまうのか。なぜ生きるために必要な生産・消費活動が人類の存在を脅かすほどの環境破壊を引き起こしてしまうのか。本講義では、カール・マルクスの『資本論』を手がかりとして、「商品」「貨幣」「資本」といった日常にありふれたモノの分析から出発し、資本主義社会の全体像を再構築していく。そのうえで、マルクスの経済学批判の現代的意義や資本主義社会の将来的展望について論じる。		
授業の到達目標	具体的には以下の能力を身につけることを到達目標とする。 １．『資本論』の基本的内容が理解できること。 ２．「商品」「貨幣」「資本」などの基本的カテゴリーが説明できること ３．労働価値説について説明できること ４．資本主義社会の歴史的特殊性を理解できること		
授業内容・授業計画	第１回　イントロダクション　社会経済学の成り立ち 第２回　資本主義社会とはどのような社会か 第３回　労働と疎外 第４回　商品と価値 第５回　物象化と物神崇拝 第６回　貨幣 第７回　資本と価値増殖 第８回　絶対的剰余価値の生産 第９回　相対的剰余価値の生産 第１０回　物質代謝の亀裂 第１１回　資本の再生産 第１２回　利潤率の傾向的低下 第１３回　利潤率の傾向的低下と恐慌 第１４回　転形問題		
事前・事後学習の内容	毎回の授業で指定される範囲について、きちんと予習・復習をすること。		
評価方法	授業到達目標の１−４の達成度で評価を行う。 単位を取得するためには、１−４の事項について、半分以上を説明できることが求められる。 期末試験による（割合１００％）。		
受講生へのコメント	現代の資本主義社会においては、とてつもない貧富の格差を生まれ、また環境破壊の進行が人類の生存を脅かすようになっている。そのため資本主義の「限界」や「終焉」が謳われるようになっている。 資本主義システムの仕組みについての理解を深めることで、将来これらの問題解決に向けて取り組む際の役に立てて欲しい。		
教材	教科書としては次のものを用いる。 大谷禎之介『図解社会経済学　資本主義とはどのような社会システムか』（桜井書店、2001年） 授業ではレジュメとPPTを使う。		

授業コード	E031020010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	経済原論ⅡＡ		
英語科目授業名	Principles of Political Economy ⅡA		
科目ナンバー	EAAPJ4203		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	経済の長期的動向に関する諸理論の特徴、問題点、及び今後の理論的発展方向に関して講義する。		
授業の到達目標	長期的な経済成長を理解するうえで、基本となる枠組みを理解すること。		
授業内容・授業計画	長期の経済に関する理論は、需要制約をどう考えるかによって、ケインズ派と新古典派の成長理論に分かれる。それらの諸理論の特徴を、図を描きつつ説明する。		
事前・事後学習の内容	議論の流れを途切れさせないように、授業を受ける前に前回授業を振り返っておく。講義直後の記憶が鮮明なうちに、自分でノートに補足説明を書いておく。		
評価方法	定期試験または試験に代わるレポートで評価する。		
受講生へのコメント	式や記号が多いので、ノートに詳しい説明を書き込むことが役立つ。		
教材	テキストはなし。 参考資料としては、マクロ経済学の標準的教科書中の「経済成長」部分が役立つ。上級用の参考書としては、『経済発展と格差　一簡単な家計モデルによる検討一』、中嶋哲也、2015年、現代図書。		

授業コード	E032020010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	経済統計論		
英語科目授業名	Economic Statistics		
科目ナンバー	EAAPJ4209		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中村　英樹		
科目の主題	経済学におけるデータ分析（特に、回帰分析）を理解し、自ら行えるようになることを主目的とします。 また、確率的な考え方を身につけたい。		
授業の到達目標	確率的な考え方をまず理解します。そして、統計分析の例をもとに、分析の行い方や結果の解釈への理解を深めていきます。最終的には、自分で統計分析できる、そして、確率的分析に慣れるようになることが目標です。		
授業内容・授業計画	この授業は、遠隔（標準、発展、双方向）により実施します。授業日当日までに教材をWebClassにアップするので、各自確認のうえ、受講してください。WebClassの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照してください。 第１回_Introduction（ガイダンス） 第2回_確率を使った経済分析：説明 第3回_確率を使った経済分析：応用 第4回_統計分析の例 第5回_統計的検定：平均の検定 第6回_平均の差の検定：説明 第7回_平均の差の検定：応用 第8回_回帰分析：Introduction 第9回_回帰分析：説明 第10回_回帰分析：応用 第11回_回帰分析：実践 第１2回_回帰分析：高度な応用 第１3回_統計分析の紹介 第１4回_統計分析：補足		
事前・事後学習の内容	授業数日前に、次回の講義に関する資料を本授業のWebサイトに掲載します。事前に内容を確認し、講義に受けてください。そして、授業のあと、復習してください。		
評価方法	レポート課題とします。課題の詳しい内容は、後半の講義で説明します。提出方法は、WebClassへの提出となります。		
受講生へのコメント	質問がある場合は、教材一覧から「質疑応答」を選択して行ってください。質疑応答の進め方は「学生向け遠隔講義入門」の「質疑応答について」を参照してください。		
教材	講義内において、適宜指定します。		

授業コード	E047300010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	流通経済論		
英語科目授業名	Lectures on Distribution Channels		
科目ナンバー	EAAPJ4225		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	柴田　淳		
科目の主題	経済構造がサービス化するなか、価格構造においてもサービスの占める割合が高くなってきている。本講義では、価格構造が決定される要因のひとつとしての流通システムについて、応用ミクロ経済学の立場から分析を行う。国際化や情報化の流れのなかで、分業や競争のメカニズムが変化し、それが価格構造に反映されている状況にも迫る。こうした価格の水準や変動の変化が、貿易や金融政策に与えている影響についても、適宜、言及を行う。		
授業の到達目標	以下の能力を身につけることを目標とする １　流通システムにおける分業と競争のメカニズムについて、応用ミクロ経済学のフレームワークを使って分析ができるようになること。 ２　流通システムの変化が、価格構造に与える影響について説明できるようになること。 ３　流通における変化から、日本経済の構造変化について説明できるようになること。		
授業内容・授業計画	第1回 経済構造の変化と価格構造の変化 第2回 流通と日本経済：産業構造の変化 と 第3回 流通の日本経済：雇用と付加価値の変化 第4回 流通経済の構造と変化 事前、 第5回 流通業のプレイヤーたち：小売 第6回 流通業のプレイヤーたち：中間流通 第7回 流通業のプレイヤーたち：メーカー 第8回 分業と競争のメカニズム：垂直的構造 第9回 分業と競争のメカニズム：外部性 第10回 分業と競争のメカニズム：契約メカニズム 第11回 都市構造と流通：インフラとしての小売 第12回 都市構造と流通：都市の変化と流通 第13回 国際化と流通 第14回 情報化と流通		
事前・事後学習の内容	講読資料の指示がある回は、事前に読んでおくこと。また、講義後にはノートを作成して、理解を着実にしておくこと。		
評価方法	到達目標１～３の達成度で評価を行う。 単位を取得するためには、講義で紹介したテクニカルタームを用いて、60%以上の内容を説明できることが求められる。 成績を評価する手段としては、期末レポートを用いる。課題提示、提出はwebclass経由で行う。		
受講生へのコメント	普段から、新聞記事等を活用して、実際のケースに関心を持つこと。		
教材	教科書は特に指定しない。講読資料は適宜、指示を行う。		

授業コード	E042080010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	経済統計論特殊講義Ｂ(コンピュータ講座)		
英語科目授業名	Special Lecture on Economic Statistics B		
科目ナンバー	EAAPJ4252		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	五十川　大也		
科目の主題	計量経済学の基本的な手法について、統計分析ソフトウェアであるRを使った演習を中心に行う。その中で、因果関係を推定するための最近のアプローチについても可能な限りわかりやすく解説する。受講者が現実のデータを用いて計量経済学的な分析を実際に行えるようにすることを目標とする。		
授業の到達目標	・因果推論の基礎を理解する。 ・統計ソフトウェアを用いてデータ分析を行えるようにする。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 第1回　イントロダクション：回帰分析の目的 第2回　統計の基礎知識 第3回　確率論の基礎 第4回　回帰分析の基礎 第5回　推測統計の基礎 第6回　回帰分析の応用（1）：質的変数モデル 第7回　回帰分析の応用（2）：パネルデータ分析 第8回　相関関係と因果関係 第9回　外生変数と内生変数 第10回　ランダム化実験 第11回　マッチング法 第12回　不連続回帰デザイン 第13回　操作変数法 第14回　実証分析の手順		
事前・事後学習の内容	講義資料に基づいて予習・復習を行うこと。		
評価方法	課題（複数回実施予定）と期末レポートにより評価する。		
受講生へのコメント	統計学および計量経済学についての基本的な知識（学部入門レベル）を有していることが望ましい。		
教材	教科書：星野匡郎・田中久稔『Rによる実証分析回帰分析から因果分析へ』（オーム社）ISBN: 978-4274219474 参考書：講義の中で適宜指示する。		

授業コード	E031070010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	社会経済論		
英語科目授業名	Social Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4206		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	佐藤　光		
科目の主題	戦前の日本で活躍した吉野作造、石橋湛山、高橋是清などの自由主義者の言動と政治経済状況の分析を通して、彼らの強い反対にもかかわらず日本がなぜ日中戦争や太平洋戦争に向かって行ったのかを明らかにする。さらに、そこから今日の世界状況に対する教訓を導き出す。		
授業の到達目標	およそテキストの前半部に沿って講義するが、時事的諸問題などもとり上げたいので、講義内容が予定外の方向に発展していく場合がある。		
授業内容・授業計画	コロナ禍の状況に変化がない限り、この授業は遠隔により実施する。テキストを使用するが、毎回の該当箇所を要約した教材を授業当日までにWebClassにアップもするので各自確認の上、受講を進めること。 WebClassの受講に当たっては「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行なうこと。 第１回　はじめに――なぜ戦前日本のリベラリズムを問題にするのか 第２回　戦前日本における「大衆」の登場 第３回　国際環境―ワシントン体制の成立と崩壊 第４回　政治的リーダーシップの問題 第５回　共産主義と国粋主義の運動 第６回　日本リベラルの政治的・哲学的課題 第７回　戦間期日本経済の可能性 第８回　高橋財政の成果 第９回　山積する諸問題①--財閥と経済格差 第10回　山積する諸問題②―社会経済構造の問題と国際環境 第11回　ありうべき解決策①―高橋是清の政治経済思想 第12回　ありうべき解決策②―石橋湛山の悔恨 第13回　今日の世界への教訓①―欧米 第14回　今日の世界への教訓②―日本 レポートによる成績評価		
事前・事後学習の内容	テキストの該当箇所と教材を講義の前後によく読むこと。		
評価方法	コロナ禍の状況に変化がなければレポートによる。		
受講生へのコメント	質問を歓迎する。		
教材	テキスト：佐藤光『日本リベラルの栄光と蹉跌――戦間期の軌跡』 晃洋書房、2019年。 参考書：特になし		

授業コード	E032040010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	計算機経済学		
英語科目授業名	Computational Economics		
科目ナンバー	EAAPE4212		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	本授業は遠隔授業（オンデマンド）で実施する。 経済現象の多くは、絶えず変化し続ける。コンピュータを利用することで変化し続ける様々な現象を観察し、理解することができるようになった。この授業では、変化し続けるシステムの基礎となっているカオス力学系を中心に、経済現象と深く関わるフラクタルやベキ則分布、そして、その応用として現在研究が進んでいるネットワーク理論について解説する。		
授業の到達目標	カオス力学系、ネットワーク、フラクタルとベキ則分布のそれぞれについて、理解することを目標にする。		
授業内容・授業計画	文部科学省「大学の世界展開力強化事業」の助成を受けてフィリピンのデラサール大学の教室とインターネットで繋ぎCOILを行う。 大阪市立大学とデラサール大学の両方の学生に向けた授業を行うため基本的には英語で授業をする。オンデマンド教材は、日本語で解説した動画と英語で解説した動画の両方を準備する。ボランティアの学生を募り授業時間にZOOMを用いてフィリピンの学生との直接交流の機会も設ける。「聞いて理解する」と同時に「手を動かして理解する」ことにも注力する。 第１回_イントロダクション 第２回_レギュラー・ネットワーク 第３回_スモールワールド・ネットワーク 第４回_スケールフリー・ネットワーク 第５回_ポピュレーションダイナミクス 第６回_フラクタル 第７回_フラクタル次元とベキ則分布 第８回_サンド・パイル・モデル 第９回_軌道と相肖像 第10回_複雑な軌道と相肖像 第11回_ロジスティックマップと相肖像 第12回_不動点に吸引される軌道 第13回_吸引不動点がないケース 第14回_分岐図とカオス		
事前・事後学習の内容	事前学習：授業で使用するパワーポイントとレポートを配布するので、それを予習すること 事後学習：授業中の解説を元にレポートを完成させ提出する。		
評価方法	毎回提出するレポートにより評価する。		
受講生へのコメント	英語での授業であるが十分に解説するので安心して受講してほしい。		
教材	テキスト：特になし 参考書：Barabási, A. L. and Albert, R. (1999). Emergence of Scaling in Random Networks. Science, 286(5439): 509-512. Dorogovtsev, S. N., Mendes, J. F. F., and Samukhin, A. N. (2000). Structure of Growing Networks with Preferential Linking. Physical review letters, 85(21): 4633. Watts, D. J., & Strogatz, S. H. (1998). Collective Dynamics of 'Small-World' Networks. Nature, 393(6684): 440-442. Mandelbrot, B. B. (1983). The Fractal Geometry of Nature (Vol. 173). Macmillan. Devaney, R. (2003). An Introduction to Chaotic Dynamical Systems. Westview Press, 2nd ed.		

授業コード	E038011010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	戦後経済史		
英語科目授業名	Postwar Economic History		
科目ナンバー	EAAPE4214		
単位数	2単位	授業形態	講義／演習
担当教員氏名（代表含む）	JUSTIN AUKEMA		
科目の主題	われわれが生きている経済は戦後においてどのように変遷してきたか？そして今後の経済制度がどこへ向かっているのか？本授業は「戦後経済史」を探ることにより、これらの問いを追求していく。また、政治経済の観点から、経済と社会の複雑な関わりや引き起こす結果について検討する。時期や段階で大きく分けると、戦後経済の構築と構造、冷戦時代の経済、新自由主義時代、そしてポスト資本主義社会について順番に見ていく。講義や読む課題は全て英語で行うが、日本語で解説することもある。		
授業の到達目標	1）戦後経済史における主な変遷と展開を理解すること。2）テキスト解読や講義理解、そして質問回答やディスカッションを通して四つの英語能力（読解、聞き取り、話す、書く）の向上に努めること。3）ディスカッション及び発表を通して主体的に問題提起し、研究方法を身につけ、授業を進めること。		
授業内容・授業計画	毎週、課題として授業テーマに関連する代表的なテキストの一部を読み、教員が示す質問に回答する。授業の前半では教員による講義を聞き、英語の聞き取り能力の向上に努める。後半では、学生主導のディスカッションを行う。中間テストの他、学生は「戦後経済史」に関連する、各々選んだテーマについて研究し、学期末に発表をする。 第１回_　授業紹介 第２回_　戦後経済の構築と構造 第３回_　発展と成長の果て 第４回_　新自由主義（I） 第５回_　新自由主義（II） 第６回_　中間テスト 第７回_　上昇する不平等（I）：ピケティの研究 第８回_　上昇する不平等（II）：女性が輝ける社会？ 第９回_　資本主義VS気候変動 第10回_　資本主義の金融化 第11回_　金利生活資本主義 第12回_　ポスト資本主義 第13回_　学生発表 第14回_　学生発表とフィードバック		
事前・事後学習の内容	毎週、予め次の講義テーマに関連するテキスト（学術書の抜粋など）を読むこと。講義内容の理解のために必要であることに加え、テキストを踏まえ学生ディスカッションを行う。		
評価方法	【定期試験は実施しない。その代わり次のような評価方法と割合になる】 課題（テキスト解読と課題質問）：50% 学生発表（学期末）：25% 中間テスト：15% 授業内ディスカッション：10%		
受講生へのコメント	本授業は、全て英語で行われるため、学生は積極的に英語テキストの読書・解読や講義の聞き取りなどに強い意志があることが条件。		
教材	テキスト：教員による配布プリントのみ		

授業コード	E034020010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	地方財政論		
英語科目授業名	Local Government Finance		
科目ナンバー	EAAPJ4218		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	小川　亮		
科目の主題	本講義では、政府活動のなかでも国の財政とともに車の両輪をなす「地方財政」について学ぶ。講義内容の特徴としては以下の２つの点にある。（1）ミクロ経済学をベースに政府行動を分析する「公共経済学」にもとづいた理論的解説が主になる。（2）統計データを用いた解説を頻繁におこなう。		
授業の到達目標	地方財政に関する基礎的な制度や理論を体系的に理解することや、近年の地方財政改革に関して議論できる力を養うことを目標とする。		
授業内容・授業計画	基本的には、以下の講義計画に沿うかたちで進める。毎回、パワーポイントによる講義とし、その全データを小川の個人サイトに置いて、受講生に閲覧可能状態とする予定である。 第１回_イントロダクション 第２回_資源配分と地方財政Ⅰ：歳出における国と地方の役割 第３回_同上 第４回_資源配分と地方財政Ⅱ：地方分権の理論と実証 第５回_同上 第６回_同上 第７回_住民負担と地方財政Ⅰ：地方歳入の構造 第８回_住民負担と地方財政Ⅱ：地方税 第９回_同上 第10回_同上 第11回_国と地方の財政関係Ⅰ：財政移転 第12回_国と地方の財政関係Ⅱ：国庫支出金 第13回_国と地方の財政関係Ⅲ：地方交付税 第14回_トピックス 定期試験		
事前・事後学習の内容	少なくともテキストを一読し、分からないところを明らかにしたうえで、講義に臨むこと。 講義後、理解できなかったことはそのまま放置せずに、速やかに質問をしたり、他の文献で調べたりすること。		
評価方法	期末試験で評価する。（持ち込み不可）		
受講生へのコメント	積極的に質問をしてください。なお、私語、スマホ操作、居眠り、特別の理由のない遅刻・途中退出といった受講上のマナー違反を慎むこと。		
教材	テキスト：佐藤主光（2009）『地方財政論入門』新世社 参考書：橋本恭之・鈴木善充・木村真・小川亮・吉田素教（2017）『地方財政改革の検証』清文社		

授業コード	E035050010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	福祉経済論		
英語科目授業名	Welfare Economics		
科目ナンバー	EAAPJ4243		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	黒田　雄太		
科目の主題	日本が抱える貧困、少子高齢化、所得格差、医療保険、年金などの諸問題について、経済学的な視点から議論する。 現実のデータおよび最新の研究を概観しながら、日本の社会保障制度の現状と課題について学ぶ。		
授業の到達目標	①社会保障制度の仕組みを理解し，経済学的視点で捉える能力を身につける。 ②日本の社会問題について、実際のデータをもとに説明できるようになる。 ③社会保障制度の問題点およびその解決策を示すことができるようになる。		
授業内容・授業計画	この授業は原則として遠隔授業で行う。 スライドを用いた講義を行い、資料はウェブ上に閲覧可能にする予定である。 第１回_社会保障制度と日本の現状 第２回_所得格差と所得再分配1 第３回_所得格差と所得再分配2 第４回_貧困と低所得者層支援1 第５回_貧困と低所得者層支援2 第６回_少子化と子育て支援1 第７回_少子化と子育て支援2 第８回_公的年金1 第９回_公的年金2 第10回_介護保険と高齢者支援1 第11回_介護保険と高齢者支援2 第12回_医療保険1 第13回_医療保険2 第14回_社会保障制度の展望 定期試験		
事前・事後学習の内容	事前学習は不要だが、日頃からニュースや新聞の関連話題に触れておくことが望ましい。 講義後は適宜復習を行い、質問や意見があれば遠慮なく教員に尋ねること。		
評価方法	最終レポートによって評価する。 レポートの提出はWebclassで行う。		
受講生へのコメント	質問やコメントを歓迎します。 事前の質問がある場合は、教員紹介ページに記載されているメールアドレスに連絡すること。		
教材	テキスト：椋野美智子・田中耕太郎（2019）『はじめての社会保障 － 福祉を学ぶ人へ』有斐閣アルマ 参考書：必要に応じて講義内で紹介する。		

授業コード	E033050010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	アジア経済論		
英語科目授業名	Asian Economy		
科目ナンバー	EAAPJ4237		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	本講義では、韓国、北朝鮮、台湾、中国などの東アジア諸国に光を当て、植民地近代化の実態、解放後の国民経済形成における政府と外資の役割、計画経済から市場経済への移行過程の成果と歪み、民主化のダイナミズム、経済民主化への取り組みなどを学習する。		
授業の到達目標	東アジア諸国の政治経済変動を分析するための経済学の基礎理論を理解し、その理論を用いて東アジア諸国がどのように経済成長してきたか、なぜ通貨危機に陥ったのか、経済のグローバル化はそれぞれの国にどのような影響を及ぼしたのか、などの経済問題について分析できる能力を身につける。		
授業内容・授業計画	①プロローグ：アジア経済の学び方 ②植民地近代化の功罪:台湾の事例 ③植民地近代化の功罪：朝鮮の事例 ④戦後日本の高度成長 ⑤援助と輸入代替工業化：台湾と韓国の事例 ⑥輸出志向工業化と重化学工業：台湾と韓国の事例 ⑦開発独裁と民主化：台湾と韓国の事例 ⑧社会主義計画経済：中国と北朝鮮の事例 ⑨社会主義市場経済：中国の事例 ⑩グローバル化と通貨危機：韓国とタイの事例 ⑪経済格差と経済民主化：日本と韓国の事例 ⑫アジア経済の行方①：後発性利益と後発性不利益 ⑬アジア経済の行方②：高齢化するアジア ⑭アジア経済の行方③：アジア開発銀行とAIIB		
事前・事後学習の内容	それぞれの講義の前にテキストの該当箇所を指示するので、かならず該当箇所を読んで、事前学習を行い、講義に臨んでほしい。		
評価方法	平常点（毎回、コミュニケーション・カードを配布するので、課題に対する解答を書くこと）、レポート、最終テストの総合点で評価する。		
受講生へのコメント	学生との議論しながら、講義を進めていくので、まじめに授業には臨んでほしい。		
教材	テキスト、朴一『20世紀東アジアのポリティカルエコノミー』晃洋書房、2019年		

授業コード	E047480010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	産業政策特殊講義２		
英語科目授業名	Special Lecture on Industrial Policy 2		
科目ナンバー	EAAPJ3204		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	松本　淳		
科目の主題	この講義は学生のキャリア形成を趣旨とするものであり、産業界などで活躍する先輩方を講師として お招きし、産業・企業そして仕事などについての実体験を語っていただくものです。		
授業の到達目標	日本経済を支えるそれぞれの産業は、常に日本および世界経済の変化に対応するとともに、その時々 の国内外の競争の中を生き抜いてきました。そのような日本経済を支える産業経済の生きた、リアル な実体験について理解を深めることを目標とします。		
授業内容・授業計画	この講義は、商友会および経友会（本学商学部・経済学部および大学院経営学研究科・経済学研究科 の卒業生同窓生）による公開講座です。 商学部や経済学部だけではなく他学部も含めた卒業生の中から現役社会人を中心に講師をお迎えし て、幅広い産業経済界の実体験を伝えていただきます。 2021年度の講師の全容は、改めて別途、掲示いたします。		
事前・事後学習の内容	講師の全容は事前に分かるので、その講師の産業について事前に調べておくことが望ましい。また、 講義後にはその内容を復習することが望ましい。		
評価方法	学年末の筆記試験（※レポートになる可能性もあります。その際には随時、ご連絡します）および出席点により評価します。		
受講生へのコメント	講義への毎回の出席と講師への積極的な質問を期待しています。		
教材	テキスト：特になし 参考書：特になし		

授業コード	E022635010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	経済政策論特殊講義２		
英語科目授業名	Special Lecture on Economic Policy 2		
科目ナンバー	EAAPJ3206		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	国際貿易・物流の第一線で働く財務省関税局及び大阪税関職員が、複雑化・多様化する国際物流の現状を踏まえ、貿易の健全な発展と安全・安心な社会の実現に向けた我が国の関税政策・税関行政の取組み等について、関税制度の仕組みや密輸動向など最新の知識・情報を分かりやすく説明し、国際貿易・経済の未来を自らで「考える」きっかけとなるような講義を目指します。		
授業の到達目標	我が国の関税政策や税関行政の基礎的な知識を修得していただきます。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔（標準手順：発展）により実施する。授業日当日までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めること。WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。ただし、第1回、第2回、第14回はリアルタイムでのオンライン講義を予定している。 大阪税関及び財務省関税局職員が交替で講義を行います。 ※講義計画は、財務省関税局及び大阪税関の人事異動やその他諸般の事情等により変更される場合があります。 第１回_イントロダクション（関税・税関を取り巻く環境） 第２回_関税とは何か（関税の役割） 第３回_関税をめぐる国際的な動向Ⅰ（GATT、WTO、貿易救済措置） 第４回_関税をめぐる国際的な動向Ⅱ（EPA/FTA交渉） 第５回_税関行政１（国際物流・経済活動の関所） 第６回_税関行政２（課税価格の決定、貨物の分類と適用税率） 第７回_税関行政３（保税制度） 第８回_税関行政４（知的財産権保護や環境問題等への対応） 第９回_税関行政５（覚醒剤・金等の密輸の水際取締最前線） 第10回_税関行政６（事後調査と犯則調査） 第11回_税関行政７（国際物流のセキュリティ強化と貿易円滑化の両立） 第12回_貿易統計（近畿圏の貿易動向・特色及び貿易統計の利活用） 第13回_関税分野の国際協力 第14回_大阪港及び関西国際空港を取り巻く現状		
事前・事後学習の内容	講義で説明したポイントを中心によく復習をしてください。		
評価方法	毎回提出するレポートにより評価します。		
受講生へのコメント	行政実務の経験を踏まえた講義を目指しますので、積極的な姿勢での受講を希望します。 経済学部に限らず、他学部の学生の履修も大歓迎です。		
教材	毎回の講義で参考資料を配布します。		

授業コード	E047330010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	労働経済論特殊講義１		
英語科目授業名	Special Lecture on Labor Economics 1		
科目ナンバー	EAAPJ3207		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	CHARLES　WEATHERS		
科目の主題	人が生きていく上で、「働くこと」と無縁ではあり得ない。 　一方、近年の日本においては、長時間労働や過労死問題、非正規労働者の増加、ブラック企業、「働き方改革」など、労働を巡る課題が社会問題化している。 　しかし、特に若年層においては、「労働に関する知識が乏しい」、「働くことに漠然とした不安がある」との調査結果もある。 　この講義は、学生に対して「働くこととは」、「労働組合、労働運動とは」、「労働者の権利とは」、「連合大阪の運動とは」等、働くことを巡る諸課題についての理解を深めることを主題とする。 来年度の授業の形態についてはまだ分からないが、対面と遠隔のハイブリッドで行う可能性が高い		
授業の到達目標	実際の労働現場、労使関係の現状を理解した上で、働き、社会活動を行っていく人材を育成する。		
授業内容・授業計画	実際の労働現場、労使関係の現状を理解した上で、働き、社会活動を行っていく人材を育成する。 2021年度の講義の内容は調整中。 以下は2020年度の講義。2021年度はAIと就職、ケアワーカーなどの課題も入れる可能性あり。 第１回_〈オリエンテーション・基礎編①〉「働くこと、労働組合を巡る現状」 第２回_〈オリエンテーション・基礎編②〉「働く人が助け合う仕組みと歴史～労働組合、労働者自主福祉運動」 第３回_①「『働き方改革』の本質～長時間労働・同一労働同一賃金を中心に」 第４回_②「大阪における特徴的な労働・社会的課題と連合大阪の取組み」 第５回_③「最低賃金、賃上げが決まる仕組み(春闘)」 第６回_④「働く人の命と健康を守る～労働安全衛生・メンタルヘルス」 第７回_⑤「働く現場の声～連合大阪に寄せられた労働相談(長時間労働・過労死等、解雇、 ブラックバイト・残業代未払等)と組織化の実例」 第８回_〈特別講義①〉「映画に見る労働観の変遷」 第９回_⑥「中小企業問題の本質は何か」 第10回_⑦「公務労働の現状と課題」 第11回_⑧「非正規労働者の組織化の現状と課題」 第12回_⑨「女性(男性も)が働きやすい職場づくり～ＷＬＢをどう進めるか」 第13回_〈論点整理〉教員によるまとめ 第14回_〈総括講義〉「働くということと労働組合」 期末試験		
事前・事後学習の内容	毎回の出席、ミニ報告、書評および期末試験の成績を総合的に評価する。		
評価方法	講義についてのミニ報告、一冊の書籍についての書評を提出してもらう。 また、期末試験を行う。		
受講生へのコメント	厳しい社会環境の中で、自分らしく生きていくためには、自らを守るための知識と意識が不可欠です。本講義が、その一助となる事を願っています。		
教材	テキスト：毎週、レジュメなどの資料が配布される。		

授業コード	E047090010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	国際経済上級講義		
英語科目授業名	Advanced Lecture on International Economy		
科目ナンバー	EAAPJ5504		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	森脇　祥太		
科目の主題	世界各国に広く存在する発展途上国の経済発展を実現し、貧困状態にある多くの人々の暮らしを豊かにするための方法について考察します。		
授業の到達目標	開発経済学の諸問題をミクロ・マクロ経済学及び計量経済学のフレーム・ワークを使用して理解することが出来るようになること。		
授業内容・授業計画	第1回 経済発展の国際比較① 第2回 経済発展の国際比較② 第3回 経済発展の国際比較③ 第4回 近代経済成長と人口構造① 第5回 近代経済成長と人口構造② 第6回 近代経済成長と人口構造③ 第7回 人口理論と実質賃金の推移① 第8回 人口理論と実質賃金の推移② 第9回 人口理論と実質賃金の推移③ 第10回 農業発展① 第11回 農業発展② 第12回 農業発展③ 第13回 工業化① 第14回 工業化② 定期試験		
事前・事後学習の内容	提示された参考書及び文献によって、 予習復習を行うのが望ましい。		
評価方法	定期試験		
受講生へのコメント	私語は厳に慎むこと		
教材	参考書や参考論文については授業の中で指示します。		

授業コード	E047110010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	経済史上級講義		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Economic History		
科目ナンバー	EAAPJ5501		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	彭　浩		
科目の主題	本講義の目的は、経済史の研究がどのように行われているかを参加者に理解してもらうことである。貿易・都市・産業などのいくつかのテーマを取り上げ、関連する史料を解説する。テーマと史料の選択範囲は、日本・中国の近世・近代期（主に17世紀～19世紀）である。経済史関係の史料の解読と分析の練習を実施する。		
授業の到達目標	経済史研究の方法を理解すること、経済史関係の史料（本講義が扱うテーマの範囲内）が読めることを目標とする。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔により実施する。 主に4つのテーマについて講義を進めていく。①近代経済のダイナミズム、②通商制度の発展、③貿易都市の運営、④商人組織。具体的な課題については、次の授業計画を参照。 第1回　イントロダクション 第2回　港湾都市長崎の形成 第3回　長崎貿易の構造 第4回　長崎貿易と大坂 第5回　唐船貿易に関わる「売込人」 第6回　長崎の荷役「日雇」と「荷漕船」 第7回　信牌システム（上） 第8回　信牌システム（下） 第9回　唐船商人の組織化（上） 第10回　唐船商人の組織化（下） 第11回　オランダ東インド会社（VOC）のアジア貿易 第12回　VOCのバタヴィア経営 第13回　東アジア海域のトレーディング・パス（上） 第14回　東アジア海域のトレーディング・パス（下） ＊授業の進行状況や参加者の反応・要望などに応じて変更する可能性がある。		
事前・事後学習の内容	授業前、次回講義のテーマに関わる基礎知識を自ら調べて予習を行う。授業後、史料分析を中心とした小レポートを作成する。		
評価方法	授業中の取り組み（練習問題の回答と授業の参加度）（50%）と小レポート（50%）による総合評価		
受講生へのコメント	私語は慎むこと。 各回の授業内容は、授業の進行状況や参加者の反応・要望などに応じて変更する可能性がある。		
教材	教科書は用いない。参考資料をWebClassにアップロードする形で配布。		

授業コード	E041100010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	ミクロ経済学上級講義２		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Microeconomics 2		
科目ナンバー	EAAPJ5506		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	北原　稔		
科目の主題	ゲーム理論と情報の経済学について、大学院レベルの内容を学ぶ。		
授業の到達目標	教科書の内容を、いくつか追加するものも含めて、理解する。		
授業内容・授業計画	講義形式で行う。基本的にはテキストに沿い、いくつか基礎的な内容の追加も行う。 第１回 ガイダンス 第２回 同時手番のゲームとナッシュ均衡：ナッシュ均衡 第３回 同時手番のゲームとナッシュ均衡：混合戦略均衡 第４回 同時手番のゲームとナッシュ均衡：補論 第５回 時間を通じたゲームと戦略の信頼性：部分ゲーム完全均衡 第６回 時間を通じたゲームと戦略の信頼性：交渉 第７回 時間を通じたゲームと戦略の信頼性：長期的関係と協調 第８回 時間を通じたゲームと戦略の信頼性：補論 第９回 情報の経済学：ベイジアン・ナッシュ均衡 第10回 情報の経済学：完全ベイジアン均衡 第11回 情報の経済学：シグナリング 第12回 情報の経済学：モラル・ハザード 第13回 情報の経済学：逆淘汰 第14回 情報の経済学：補論 定期試験		
事前・事後学習の内容	事前には、テキストの該当箇所を読んでおく。事後には、練習問題を解く。		
評価方法	期末試験によって評価する。		
受講生へのコメント	講義HP（10月開設予定）：http://www.econ.osaka-cu.ac.jp/kitahara/micro/2021micro.htm		
教材	テキスト：神取道弘『ミクロ経済学の力』日本評論社 参考書：Mas-Colell, A., Whinston, M.D. and Green, J.R.『Microeconomic Theory』Oxford University Press		

授業コード	E041120010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	計量経済学上級講義２		
英語科目授業名	Advanced Lecture on Econometrics 2		
科目ナンバー	EAAPJ5508		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	鹿野　繁樹		
科目の主題	計量経済学は経済学における実証分析の体系であり、経済学の科学性・再現性を担保する上で重要な役割を担う。特に、非実験データによる因果性の統計的推測に重きを置く。		
授業の到達目標	この講義は、計量経済学の標準的な分析ツールの理論と利用法を習得することを目標とする。		
授業内容・授業計画	まず、回帰係数の線形制約の検定を解説する。 次いで、古典的仮定よりもより一般的な仮定のもとでの回帰分析を考える。 そこでは、内生性バイアスとその対処法としての操作変数法が主題となる。 最後に二値反応変数の回帰分析として、プロビットを学ぶ。 第１回_回帰モデルのF 検定（1）：基礎編 第２回_回帰モデルのF 検定（2）：応用編 第３回_漸近理論の基礎 第４回_確率的説明変数（1）：条件付き期待値関数 第５回_確率的説明変数（2）：根源的仮定とOLS 第６回_分散の不均一性と仮説検定（1）：OLSの分散と分布 第７回_分散の不均一性と仮説検定（2）：WLS 第８回_内生性バイアスと操作変数法（1）：内生性バイアスとは？ 第９回_内生性バイアスと操作変数法（2）：IVと2SLS 第10回_内生性バイアスと操作変数法（3）：応用編 第11回_因果関係を立証できるか？ 第12回_最尤法（1）：基礎編 第13回_最尤法（2）：プロビット 第14回_最尤法（3）：トービット 定期試験		
事前・事後学習の内容	講義の進行は、下記テキストに基づく。テキストを講義の前後によく読むこと。 テキスト章末の復習問題を解くこと。		
評価方法	毎回の講義終了後の復習問題、宿題、期末試験に基づき成績を決定する。		
受講生へのコメント	計量経済学上級講義１とセットの科目です。前期に計量経済学上級講義１を受講して下さい。		
教材	鹿野繁樹（2015）「新しい計量経済学」日本評論社。		

授業コード	E061070180	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	基礎演習		
英語科目授業名	Pro-Seminar		
科目ナンバー	EAEXJ1101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中村　健吾		
科目の主題	この演習のテキストに指定するのは、ジュネーブ生まれの異端の啓蒙思想家ジャン=ジャック・ルソーの代表作の１つである『社会契約論』（1762年）です。フランス革命（1789年～）の精神的源泉の１つとなったこの著作には、相反するさまざまな解釈が施されてきましたが、受講生諸君には偏見を解いた眼でこの本を読んでもらいたいと思っています。演習の前半では、このテキストを読み、授業中にその概要を報告してもらう作業に取り組みます。演習の後半では、『社会契約論』の読解をふまえて各自が決めたルソーにかかわるテーマについて、研究とその発表をしてもらうことになります。この研究・発表では、演習で用いるテキスト以外のルソーの著作（たとえば『人間不平等起源論』）、あるいはルソーに関する研究論文を参照してもらいます。そうした研究をふまえて、学期末には3500字以上の基礎演習修了レポートを提出してください。		
授業の到達目標	基礎演習は、文献探索、テキストの読解、プレゼンテーション、問題の発見、文章の執筆などにかかわる大学生としての基礎的なアカデミック・スキルを身につけることを目標にしています。そして、中村健吾が担当するこの基礎演習では、社会科学の古典を読み、それと対話をしながら考えるという経験をしてもらいます。		
授業内容・授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　学術情報総合センターでの研修 第３回　『社会契約論』の読解その１ 第４回　『社会契約論』の読解その２ 第５回　『社会契約論』の読解その３ 第６回　『社会契約論』の読解その４ 第７回　『社会契約論』の読解その５ 第８回　『社会契約論』の読解その６ 第９回　『社会契約論』の読解その７、各自の研究課題の設定 第10回　研究発表その１ 第11回　研究発表その２ 第12回　研究発表その３ 第13回　研究発表その４ 第14回　基礎演習終了レポートの提出		
事前・事後学習の内容	・レジュメ担当者はテキストの内容をまとめた上で、一つ以上の疑問点（ないしは自らの意見・感想）を提起すること。 ・ レジュメ担当者でない場合も、事前にテキストの毎回の該当箇所をしっかり読み、重要な箇所や分からない箇所、気になる箇所に、線を引いたりコメントを入れておくこと。 ・ 修了レポートのテーマにしてみたいことを考えながら、テキストを読み、演習に参加しましょう。		
評価方法	授業での発表の内容と水準、修了レポートの出来具合を総合して、成績を評価します。		
受講生へのコメント	受講生には、この演習と大学４年間の本格的な読書を通じて、事柄を根源的に考える力を養ってもらいたいと思います。		
教材	【テキスト】 　以下のテキストを、この演習の第１回目までに各自で購入して持参してください。 ルソー『社会契約論』岩波文庫。		

授業コード	E061080220	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	Justin Kyle Aukema		
科目の主題	本授業では、学生は小グループで関心のある研究トピックを発展することに努める。原則として、学生が選ぶ研究トピック（主題）は授業の全般的なテーマである「戦後日本の政治経済」。ただしグローバル経済に関わるトピックでも許容できる。本授業の特徴は、学生が研究プロジェクトを全て英語で進めることである。このようにして、学生は高い英語能力を身につける上、研究過程と能力も合わせて取得する。		
授業の到達目標	1）戦後日本政治経済について知識を得ること 2）英語で研究プロジェクトを行うことにより、学術的英語能力を身につけること 3）自主的に学術問いや主張の形成を学ぶこと 4）時事問題の歴史的原因と起源を理解すること		
授業内容・授業計画	コースの前半では、学生は小グループで教員が指定する戦後日本の政治経済に関するトピックについて研究し、報告する。その時に、学生は資料収集のやり方や資料について発表することを練習して行く。コースの後半では、学生は小グループに分かれグループごとにトピックを選び、研究を行う。その最終的な目的は、約2,500語（凡そ10頁）の英語レポートを書くことと発表することである。 第１回_ 授業紹介：資料の探し方 第２回_ 授業テーマの紹介とグループ課題の決定 第３回_ 学生ディスカッション（トピック：占領期と戦後復興） 第４回_ 学生ディスカッション（トピック：高度成長期） 第５回_ 学生ディスカッション（トピック：新自由主義） 第６回_ 学生ディスカッション（トピック：エネルギーと環境政策） 第７回_ 学生ディスカッション（トピック：貧富の差） 第８回_ グループプロジェクトのトピック選定 第９回_ 参考文献リストと研究計画 第10回_ グループワーク及び進展報告（I） 第11回_ グループワーク及び進展報告（II） 第12回_ グループ発表（I） 第13回_ グループ発表（II） 第14回_ フィードバック及び筆記レポートの指導		
事前・事後学習の内容	本授業は積極的な参加度を必須条件とする。コースの前半では、学生はグループで教員が指定する一つのトピックについて研究し、報告をする上、その時にディスカッションを担当してもらうこともある。また、コースの後半では、学生は他のグループメンバーと一緒に自主的に関心のあるトピックについて研究し、プロジェクトを完成させる。		
評価方法	【定期試験は実施しない。その代わり次のような評価方法と割合になる】 授業中のグループワークへの参加度や発言、及び学期末の最終的な筆記レポートと発表で評価する。		
受講生へのコメント	基礎的研究方法だけでなく、経済学の長い風潮を理解するための歴史的方法、及び現代社会に欠かせない英語力を同時に学んで行こう。		
教材	テキスト：教員による配布プリントのみ		

授業コード	E061080210	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	久保　彰宏		
科目の主題	本演習は，基礎演習と論文演習のちょうど中間に位置する科目である。現代社会における問題意識の抽出，および，その現状を整理・理解するプロセスを，グループワークを通じて経験することが本演習のねらいとなる。シンプルな意見を参加者たちで積み上げ、導かれた結論を共有する。		
授業の到達目標	本演習では、日本のみならず国際社会が直面している諸問題について具体的に考え、議論する。また，国内外の諸問題を最終的にグループ単位で共同レポートとして作成・報告することが本演習登録者の最大目標となる。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 まず，基本的なレポート作成の方法を確認していく。その後，グループごとに関心のあるテーマについて選定・報告してもらい，今後の調査方法を議論していく。 第1回　論理的思考に関して解説 第2回　レポート作成と議論の方法 第3回　日本および国際社会の問題① 第4回　日本および国際社会の問題② 第5回　日本および国際社会の問題③第6回　グループワーク1-① 第7回　グループワーク1-② 第8回　グループワーク1-③ 第9回　グループワーク2-① 第10回　グループワーク2-② 第11回　グループワーク2-③ 第12回　指定課題① 第13回　指定課題② 第14回　指定課題③		
事前・事後学習の内容	事前に選択するテーマに関して予備知識を蓄積・共有すること、事後にディスカッションから得られた改善点を反映させること		
評価方法	参加状況（報告，討論，全体討論での発言など）および期末レポートを総合的に評価する。		
受講生へのコメント	主体的に学ぶ（アクティブラーニング）とはいったいどう実践していくのか、その初歩的なコンテンツを体験をすることで、今後の大学での研究活動に生かして欲しい。		
教材	講義の初回に指示する。		

授業コード	E061080110	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	浦西　秀司		
科目の主題	私の担当するイノベーティブ・ワークショップでは、電気・ガス・水道・電話・鉄道・バスなど、いわゆる公共サービスに関するさまざまな問題を取り扱います。皆さんは利用者の立場からのさまざまな疑問や要望についてグループワークを通して自分なりの答えを導き出してください。		
授業の到達目標	グループワークを通して情報収集や分析能力、プレゼンテーション能力が身につくことが到達目標である。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 演習形式です。 第１回_ガイダンス・グループ分け 第２回_テーマ設定 第３回_文献・資料収集（１） 第４回_文献・資料収集（２） 第５回_文献・資料収集（３） 第６回_文献・資料収集（４） 第７回_中間報告（１） 第８回_中間報告（２） 第９回_中間報告（３） 第10回_レポート作成指導（１） 第11回_レポート作成指導（２） 第12回_レポート作成指導（３） 第13回_レポート報告（１） 第14回_レポート報告（２）		
事前・事後学習の内容	事前の学習：自らの担当部分をきちんと仕上げる。 事後の学習：コメントに従って修正する。		
評価方法	ディスカッションへの参加状況（50%）およびレポート課題（50%）で評価する。		
受講生へのコメント	イノベーティブワークショップは、自ら設定した分析テーマについて、数人のグループで情報収集、分析、レポート作成、プレゼンテーションを行う科目です。最初から一人ですべて行うことは誰でも大変ですので、まずは教員のサポートのもと、グループでやってみましょう。		
教材	テキスト：特になし。 参考書：特になし。		

授業コード	E061080240	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	内藤　克幸		
科目の主題	グループワークを通じて大学での学修に必要な能力を修得する。トピックスとしては経済成長・経済発展の問題を取り上げる。		
授業の到達目標	論理的思考力、文章作成能力、プレゼンテーション能力を修得することを目標とする。		
授業内容・授業計画	本演習は対面で実施する。 第１回_ガイダンス 第２回_基礎概念1 第３回_基礎概念2 第４回_グループワーク：テーマ設定 第５回_グループワーク：文献・データ調査1 第６回_グループワーク：ディスカッション1 第７回_中間報告1 第８回_グループワーク：文献・データ調査2 第９回_グループワーク：ディスカッション2 第10回_中間報告2 第11回_グループワーク：文献・データ調査3 第12回_グループワーク：ディスカッション3 第13回_最終報告（前半） 第14回_最終報告（後半）		
事前・事後学習の内容	報告を行う際には入念に準備すること。		
評価方法	演習への参加状況（50%）、報告の内容（50%）		
受講生へのコメント	積極的な演習参加を希望する。		
教材	テキスト：特になし。 参考書：演習中に適宜指示する。		

授業コード	E061080250	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	五十川　大也		
科目の主題	本講義では、「経済統計」に基づいた経済分析という題材でグループワークを中心とした授業を行う。前提としてデータ分析の基礎の習得を目指し、ミニレクチャーと入門書の輪読を授業に含める。受講者は経済統計の基礎や種類について学んだ上で、具体的な統計を選択し、その統計を用いて課題の選定と議論・分析を行う。		
授業の到達目標	・現実の経済統計について基本的な知識を身につける。 ・データに基づいて議論する基礎的な姿勢を養成する。		
授業内容・授業計画	この授業は対面により実施する。 講義の前半ではアカデミック・スキルズに関する基礎を扱った後、データ分析と経済統計について入門書の輪読および簡単なレクチャーを行う。後半では、担当者が選定した経済統計の候補の中から、受講者が関心に応じて統計を選択し、グループを形成する。グループワークを複数回行った上で、グループでの報告を行う。その後、グループワークで扱った課題について発展させた内容を受講者ごとに報告する。 第１回　ガイダンス、オリエンテーション 第２回　アカデミック・スキルズ 第３回　「データ分析の力」輪読（1） 第４回　「データ分析の力」輪読（2） 第５回　「データ分析の力」輪読（3） 第６回　グループ分け、課題発表 第７回　データ分析入門 第８回　グループワーク（1） 第９回　グループワーク（2） 第10回　グループワーク（3） 第11回　グループ報告 第12回　小括とフィードバック 第13回　個人発表（1） 第14回　個人発表（2）		
事前・事後学習の内容	講義内で文献を指定することがあるので、それを事前に読んでおくこと。グループワークでは、メンバー間でコミュニケーションを取りながら主体的に参加すること。また、発表資料作成の時間を確保すること。		
評価方法	発表の内容、グループワークへの参加状況、授業態度等を踏まえて総合的に行う。		
受講生へのコメント	主体的・積極的な姿勢での参加を期待します。		
教材	テキスト：伊藤公一朗『データ分析の力因果関係に迫る思考法』（光文社）ISBN:978-4334039868 参考書：佐藤望（編）『アカデミック・スキルズ第2版-大学生のための知的技法入門』（慶應義塾大学出版会）		

授業コード	E061080080	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森　瑞季		
科目の主題	本ワークショップでは，グループディスカッションを通じて，社会のさまざまな課題を解決する方法を考えてもらいます. 昨今，営利だけを目的とせず，社会的な意義をもって運営されるソーシャルビジネスに注目が集まっています．本演習では，受講者のみなさんに模擬的にソーシャルビジネスをおこなう組織の設立をおこなってもらい，それを通じて，社会的な困難の根深さや，解決方法を考えていきます.		
授業の到達目標	第一の到達目標は，グループディスカッションを重ねることで，他者の前で自分の意見を述べる力を身につけること，また，自らの意見を述べた上で，他者の意見をも尊重することです．バランスの取れた考え方を身につけてください. 　第二の到達目標は，社会的な課題を他人事，関わりがなくてもよいことと認識せずに，自分にも起こりうること，解決すべきことと認識する力を身につけることです．人はとても脆弱な生き物なので，人生のいたるところで他者のお世話になります．現在の社会的課題は，未来の自分にとっても課題だと意識できるようになってください.		
授業内容・授業計画	第１回_イントロダクションならびに自己紹介 第２回_ソーシャルビジネスとは何か（１）-社会的な課題について知る- 第３回_ソーシャルビジネスとは何か（２）-具体的な活動例- 第４回_グループ決定ならびにグループごとのテーマ決定 第５回_ディスカッション-誰をターゲットにするか- 第６回_ディスカッション-どういった運営形態にするか- 第７回_ディスカッション-何を売りにするか- 第８回_ディスカッション-競合他社にどう対抗または共存するか- 第９回_中間報告会 第10回_中間報告会の反省 第11回_交流戦-他のグループの人に意見を聞いてみよう- 第12回_コンペティション①-私はこのソーシャルビジネスにかけたい- 第13回_コンペティション②-私はこのソーシャルビジネスにかけたい- 第14回_まとめ-表彰式-		
事前・事後学習の内容	社会で課題となっていることを知るために，ニュースを頻繁にチェックするようにしてください．また，ソーシャルビジネスに関連した論文等も読むようにしてください. 　さらに，第4回以降，グループ決定をしたあとは，授業中だけでなく，空き時間やLINE，Zoom等を駆使して，ディスカッションを重ねるようにしてください.		
評価方法	出席を含めた授業への参加姿勢（50%）+報告資料，レポートの出来具合（50%）で評価します.		
受講生へのコメント	みなさんの斬新な意見に期待しています．「間違っていたらどうしよう」，「笑われたらどうしよう」とは考えずに，思いのままに意見を出してください．ブラッシュアップはあとから一緒におこなえばよいのです.		
教材	テキスト：授業時にレジュメを配布します. 参考書：特にありません.		

授業コード	E061080130	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	田中　俊二		
科目の主題	本演習ではデジタル産業に関するの題材でグループワークを行う。デジタル産業の問題点の抽出・整理を行いグループ議論を通して自分なりの答えを見つける。		
授業の到達目標	主題のテーマについて調査、分析、問題点、プレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。		
授業内容・授業計画	第１回_ガイダンス 第２回_デジタル産業の概要 第３回_課題とグループ分け 第４回_グループワーク　テーマの設定と理由 第５回_クループワーク　調査（1） 第６回_グループワーク　討論（1） 第７回_グループワーク中間発表（1） 第８回_グループワーク　調査（2） 第９回_グループワーク　討論（2） 第10回_グループワーク中間発表（2） 第11回_グループワーク　調査（3） 第12回_グループワーク　討論（3） 第13回_プレゼン　個人発表(1) 第14回_プレゼン　個人発表(2)		
事前・事後学習の内容	各人が関連するテーマを学習し、レポートとして簡潔にまとめ発表する。		
評価方法	出席、レポート、プレゼンテーションの内容から判断する。		
受講生へのコメント	積極的な演習参加を期待いたします。		
教材	テキスト：特に指定しない 参考書：適宜、関連分野の重要論文を指定する		

授業コード	E061080140	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	西川　弘展		
科目の主題	グループ・ワークと英語を通じて経済学を実践的に学びます。そのために、まず英文の経済学の入門書を共通テキストにして輪読を行い、これを踏まえて、所得と生産、格差と貧困、労働問題、グローバル化、政府の役割などテーマを決めてグループワークを行います。		
授業の到達目標	次の２点を主な到達目標としています。 （１）英文で書かれた短い本で経済学を学び、経済学の見通しが大まかに得られたと自覚できること。 （２）その上で、グループワーク（調査、話し合い、成果の取りまとめ、発表、質疑応答）を経験し、この経験を生かしてより効果的に学習を進めるスキルを身に付けること。		
授業内容・授業計画	4～3名を１グループとしてグループ・ワークを行います。最終的に履修者全員が分担で執筆する「ワークショップ・レポート」ないしこれに相当する課題を完成させることにします。 第１回_（対面）イントロダクション 第２回_（対面）共通テキスト第１章 第３回_（対面）共通テキスト第２章 第４回_（対面）共通テキスト第３章 第５回_（対面）共通テキスト第５章 第６回_（対面）グループ・ワークを進めるために、リサーチ・テーマの概要、グループ分け 第７回_（遠隔）グループ・ワーク（１） 第８回_（遠隔）グループ・ワーク（２） 第９回_（遠隔）グループ・ワーク（３） 第10回_（遠隔）中間報告会の準備 第11回_（対面）中間報告会 第12回_（遠隔）最終報告に向けて（１） 第13回_（遠隔）最終報告に向けて（２） 第14回_（遠隔）最終報告会、「ワーク・ショップレポート」の最終提出		
事前・事後学習の内容	１）共通テキストを事前に精読してくること。 ２）授業外でのグループ・ワークないしグループ内で役割分担された個人単位の調査・学修（時にメンバーと連絡を取りながら、時間を確保して進めてください）。		
評価方法	授業外での個別学習およびグループ学習を含む授業への参加状況と中間報告の内容、最終報告の内容、「ワーク・ショップレポート」の内容によって総合的に評価します。		
受講生へのコメント	簡単に解答が出ないような問題を設定し、対話や議論を通じて問題を解決に向かわせ、また課題を完成させることで確かな力を身につけてほしいと思います。 英文も含めてできるだけ多くの資料にあたってください。		
教材	テキスト：Ha-Joon Chang, Economics: the User's Guide, Pelican, 2014.		

授業コード	E061080020	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中島　義裕		
科目の主題	この授業は混合で実施する。また西川先生のクラスと合同で行う可能性もある。対面、遠隔によらず金曜4限の授業時間にはグループ討論を行う。また、全員が一定期間グループリーダーを務める。グループリーダーの期間は、中島担当のグループは木曜3限もしくは4限の時間に、西川担当のグループは、木曜４限もしくは金曜３限の時間に、教員と遠隔で個人面談を行う。（木曜3限、4限、あるいは、木曜４限、金曜３限とも面談が困難な場合は、個別に面談時間を調整する。） この授業の主題は、アクティブラーニングとグループワークにより、特定の課題について自ら調査し解決策を提案することにある。この授業では、住民生活や地域コミュニティーの形成をテーマに調査研究を行う。更にグループ毎に「所得と雇用」、「人口」、「教育」、「移民」、「健康」のいずれか１つを選択し、持続可能性の観点から課題発見と、その解決の提案を行う。この授業は文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の助成を受け、デラサール大学で開講している開発経済論と連携したCOIL型授業を行う。		
授業の到達目標	1）アクティブラーニングとグループワークにより適切な研究計画を立案し、実行できる。 2）与えられた課題について実態及びそれについての先行研究を調査できる。 3）討論を通して適切な解決策を提案できる。 4）論理的に構成されたプレゼンテーションを実施できる。		
授業内容・授業計画	4人からなるグループに分かれて、上記の課題の一つについて調査し、その解決策を提案する。授業では、各人で 割り当てた調査内容について報告しあい、それに基づいて次の週までに調査する内容を決めるという形で進める。 フィリピンのデラサール大学と二回接続して報告会を行う。 第１回（対面）_ガイダンス 第２回（対面）_テーマ決定と調査 第３回_調査報告と次週までの研究計画 第４回_調査報告と次週までの研究計画 第５回_（対面）日本語発表会 第６回_（対面）中間報告（デラサール大学との接続授業） 第７回_デラサール大学学生へのレポート作成 第８回_調査報告と次週までの研究計画 第９回_調査報告と次週までの研究計画 第10回_調査報告と次週までの研究計画 第11回_調査報告と次週までの研究計画 第12回_（対面）最終報告（デラサール大学との接続授業） 第13回_（対面）最終報告（日本語版） 第14回_（対面）まとめと振り返り		
事前・事後学習の内容	毎回の授業中に計画し、分担した内容について、調査し、考察する。		
評価方法	授業中の相談や討論への参加、中間報告と最終報告の内容による。		
受講生へのコメント	英語が苦手な学生の受講を歓迎する。（もちろん、得意な学生も）。発表や討論などはグループで行うので、怖がる必要はない。受講生にはOCUメールで連絡を取るので必ず読むこと。		
教材	テキスト：特になし 参考書：特になし		

授業コード	E061080160	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	イノベーティブ・ワークショップ		
英語科目授業名	Innovative Workshop		
科目ナンバー	EAEXJ2101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	西川　弘展		
科目の主題	この授業の主題は、アクティブラーニングとグループワークにより、特定の課題について自ら調査し解決策を提案することにあります。この授業では、住民生活や地域コミュニティーの形成をテーマに調査研究を行います。更にグループ毎に「所得と雇用」、「人口」、「教育」、「移民」、「健康」のいずれか１つを選択し、持続可能性の観点から課題発見と、その解決の提案を行います。この授業は文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」の助成を受け、デラサール大学で開講している開発経済論と連携したCOIL型授業を行います。 この授業は、対面授業とオンライン授業の混合で実施します。また中島教授のクラスと合同で実施する予定です。場合によっては、中島教授のクラスと混成のグループを編成することになります。対面、遠隔によらず金曜4限の授業時間にはグループ討論を行います。また、全員が一定期間グループリーダーを務める。グループリーダーの期間は、中島担当のグループは木曜3限もしくは4限の時間に、西川担当のグループは、木曜４限もしくは金曜３限の時間に、教員と遠隔で個人 面談を行います。（木曜3限、4限、あるいは、木曜４限、金曜３限とも面談が困難な場合は、個別に面談時間を調整します。）		
授業の到達目標	次の２点を主な目標としています。（１）共通の目標を持つ複数人でのグループ・ワーク（学修・調査・研究、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）について相当の経験を積むこと。（２）時には外国語を用いたグループ間でのやりとりの経験を積むこと。特に、グループ・ワークでは、文献調査も含む資料検索、資料の整理、問いの設定、発表内容の確定、プレゼンテーションが課せられますので、ここでの経験は、個人の作業・学修・研究においても役立つことになります。		
授業内容・授業計画	４名程度を１グループとして、それぞれのグループで「所得」、「雇用」、「人口」、「教育」、「健康」のうちから主題を選択し、グループ・ワーク（学修・調査、確認・話し合い、成果の取りまとめ、発表などの活動）を行います。デラサール大学の開発経済学の講座とのインターネット環境を通じた交流により、グループワークの成果をさらにバージョンアップさせて、最終的な成果に纏めます。 第１回_（対面）イントロダクション、ガイダンス 第２回_（対面）デラサール大学との第１回接続授業 第３回_（対面）グループワークの実際 第４回_（遠隔）調査報告と次週までの計画 第５回_（遠隔）調査報告と次週までの計画 第６回_（対面）日本語発表会 第７回_（対面）中間報告、デラサール大学との第２回接続授業 第８回_（遠隔）デラサール大学の発表に対する感想、質問のレポート作成 第９回_（遠隔）調査報告と次週までの計画 第10回_（遠隔）調査報告と次週までの計画 第11回_（遠隔）調査報告と次週までの計画 第12回_（遠隔）調査報告と次週までの計画 第13回_（遠隔）最終報告（日本語で）、他のグループとの合同発表会、質問の作成 第14回_（対面）まとめと振り返り		
事前・事後学習の内容	授業外でのグループでの学習、調査、研究およびグループ内で役割分担された個人単位での学習、調査、研究。 すなわち、授業時間内だけでなく、授業外に時間を確保して、十分に学習、調査、研究を行うことが必須です。		
評価方法	授業外でのワークを含む授業への参加状況と中間報告の内容、最終報告の内容、最終報告書の内容によって総合的に評価します。 毎回の課題の取り組み状況、進展状況を評価するので、コンスタントに学習成果を積み上げることが必要です。		
受講生へのコメント	英語が苦手な学生の受講を歓迎します。もちろん、得意な学生も歓迎します。学習、調査、研究、発表はグループ単位で行いますので、恐れずに参加することができます。OCUメールやWebClassを通じて受講者への連絡を行いますので、必ず読むようにしてください。		
教材	テキスト：指定しません。 参考書　：適宜、紹介します。		

授業コード	E061090110	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	論文演習		
英語科目授業名	Writing Course		
科目ナンバー	EAEXJ3101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	朴　一		
科目の主題	この講義では、テーマにそってレポートや論文を書く上で必要な基本的ツール、テーマの見つけ方、情報やデータの収集、フィールドワークの方法、 簡潔な文章の書き方などを学ぶ。		
授業の到達目標	レポートや卒業論文を書く基礎的能力を身につけること。		
授業内容・授業計画	①イントロダクション ②テーマの見つけ方、章別構成の立て方 ③テーマに関する情報収集、データの見つけ方 ④テーマに関する情報収集 ❺先行研究を見つける ❺データの見つけ方 ⑥フィールドワークの方法 ⑦インタヴュー調査 ⑧アンケート調査 ⑨ライフヒストリーの書き方 ⑩簡潔な文章の書き方 ⑪レポートにまとめる ⑫露文にまとめる（１ ⑬パワポを使ったプレゼン（１） ⑭パワポを使ったプレゼン（２）		
事前・事後学習の内容	毎回、課題をだすので、週1回1～2次官程度の予習が必要になります。		
評価方法	講義への参加度、課題達成度、講義で作成したレポート、小論文を総合して採点する。		
受講生へのコメント	講義への意欲的に参加する学生の受講を期待する。やる気の無い人、講義に興味がない人は遠慮されたい。		
教材	教材は未定です。最初の授業で案内する予定です。		

授業コード	E061090010	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	論文演習		
英語科目授業名	Writing Course		
科目ナンバー	EAEXJ3101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	森　瑞季		
科目の主題	本演習は，経済学にに関連した論文を書くものです．とはいえ，テーマ設定自体は広範囲に，柔軟におこない，論文を探す，論文を読む，論文を書くということ自体に慣れてもらいます．		
授業の到達目標	研究の世界にはあまたの論文がありますが，読みやすい論文からそうでない論文，理解しやすい論文からそうでない論文，さまざまです．受講者のみなさんにはよい論文を見つけ出す能力を身につけ，また，自身もよい論文を書く能力を身につけることを目標としてもらいます．		
授業内容・授業計画	第１回_イントロダクションならびに自己紹介 第２回_レポートのテーマ決定 第３回_よい論文とは何か-起承転結- 第４回_よい論文とは何か-ひらがな- 第５回_よい論文とは何か-接続詞- 第６回_よい論文とは何か-「私はきれいだと思いました」，「私は暑いと思いました」- 第７回_中間報告（前半組） 第８回_中間報告（後半組） 第９回_よい論文の先達-先行研究を探そう- 第10回_よい論文の先達-研究分野の有名人を探そう- 第11回_よい論文の先達-参考文献- 第12回_最終報告（前半組） 第13回_最終報告（後半組） 第14回_まとめ		
事前・事後学習の内容	CiniiやJ-stageなどのデータベースを利用して，本演習のテーマに沿った内容の論文を最低1本は読んできてください．		
評価方法	出席を含めた授業への参加姿勢（50%）+論文の出来具合（50%）で評価します．		
受講生へのコメント	最初は誰でも論文を書けません．しかし，他人の書いたよい論文を読み，形式を整えるだけで，かなりよい論文を書けるようになります．私も未だに論文を書くことが苦手ですが，受講者のみなさんと共に研鑽を積んでいきたいです．		
教材	テキスト：授業時にレジュメを配布します． 参考書：特にありません．		

授業コード	E061090140	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	論文演習		
英語科目授業名	Writing Course		
科目ナンバー	EAEXJ3101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	田中　俊二		
科目の主題	本演習の授業では、我が国のデジタル産業の拡大・縮小現象に関する問題について論文作成を行うことを目的とする。		
授業の到達目標	独自の視点で対象論文を読み、自説を4000字程度に簡潔にまとめる。		
授業内容・授業計画	論文演習の前半では、テーマの選定、関連する文献の調査、研究方法のついての指導を行う。後半は、各自が論文作成に取りかかり、報告、ディスカッションを通して論文を仕上げる。 第１回_ガイダンス 第２回_論文テーマの選択、論文の書き方 第３回_関連する論文の報告、ディスカッション（1） 第４回_関連する論文の報告、ディスカッション（2） 第５回_関連する論文の報告、ディスカッション（3） 第６回_先行研究の収集と調査（1） 第７回_先行研究の収集と調査（2） 第８回_中間報告 第９回_論文指導（1） 第10回_論文指導（2） 第11回_論文指導（3） 第12回_論文指導（4） 第13回_論文報告（1） 第14回_論文報告（2）		
事前・事後学習の内容	事前：授業前に必ず発表する内容を簡潔に整理しておく。 事後：検討すべき内容を簡潔にまとめ次回授業で発表する。		
評価方法	授業への参加、報告、ディスカッション、論文を総合的に評価する。		
受講生へのコメント	主体的に興味を持って取り組んで欲しい。		
教材	テキスト：特になし 参考書：適宜、関連分野の重要論文を指定する		

授業コード	E061090130	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	論文演習		
英語科目授業名	Writing Course		
科目ナンバー	EAEXJ3101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	中嶋　哲也		
科目の主題	受講生自らテーマを設定し、小さな論文作成の体験をする。		
授業の到達目標	論文作成の基本を学び、自分が関心あるテーマを絞り込み、7000字程度の論文作成をする。		
授業内容・授業計画	最初に、論文作成の案内書を輪読し、作成の基本的作法を学ぶ。次に、各自の関心あるテーマで、関係資料・論文を報告・紹介し議論する。さらに、それら関係文献をふまえながら、自らの論文の構想や途中経緯を報告し、最後に、完成版の報告を行う。		
事前・事後学習の内容	事前に指定された文献や自らの論文草稿の報告準備を行う。授業での議論を踏まえた修正作業を行う。		
評価方法	中間報告と発言内容、及び最終の提出論文にもとづき評価する。		
受講生へのコメント	「自分なりの論文」作りを楽しんでもらえればよい。		
教材	1回目の授業で、輪読文献については指定する。		

授業コード	E061090020	開講年度・学期	2021年度後期
科目授業名	論文演習		
英語科目授業名	Writing Course		
科目ナンバー	EAEXJ3101		
単位数	2単位	授業形態	演習
担当教員氏名（代表含む）	辻　賢二		
科目の主題	経済学に関する論文を作成する。		
授業の到達目標	現実の金融・経済問題を理解し、経済学の論文を作成する技術を学ぶ。		
授業内容・授業計画	この授業は遠隔（標準手順：基本）により実施する。授業日当日までに教材をWebClassにアップするので各自確認の上、受講を進めること。WebClassでの受講にあたっては、WebClassのコース「学生向け遠隔講義入門」の「受講方法」を参照し、受講の準備および当日の受講を行うこと。 現実の金融・経済問題を学びながら、論文作成の技術を学ぶ。 第１回_ガイダンス 第２回～第14回 金融・経済問題 ･･･ 新聞記事を基に、金融・経済問題を考える。 論文の書き方について ･･･ 論文の書き方について資料を配布する。 経済記事報告 ･･･ WebClass の掲示板（質疑応答）を使って経済記事について報告してもら います。事前に担当者を決めます。		
事前・事後学習の内容	前回の授業内容を復習しておくこと。 次回の授業の準備をしておくこと。		
評価方法	受講状況、報告(WebClassの掲示板を利用)、修了論文(WebClassへの提出)等によって総合的に評価します。		
受講生へのコメント	質問がある場合は、教材一覧から「質疑応答」を選択して行ってください。質疑応答の進め方は「学生向け遠隔講義入門」の「質疑応答について」を参照してください。 新聞の経済記事を読む習慣を身につけてください。		
教材	テキスト：使用しない。 参考書：特になし。		

集 中 講 義 開 講 科 目

授業コード	E034010010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	公共経済学		
英語科目授業名	Public Economic		
科目ナンバー	EAAPJ4216		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	新居　理有		
科目の主題	社会保障、国と地方の財政問題，財政の持続可能性など，日本の財政は様々な課題に直面している．このような課題について自分なりに考え，解決策を探るためには，財政の現状や公共経済学に関する基礎的な理論を理解することが不可欠である． この授業では，日本の財政の現状と政府の持つ役割を把握し，日本財政の将来について考える基礎を身につけることを目指す．		
授業の到達目標	以下の3点を，本授業の到達目標とする． 日本の財政の現状を把握し，政府の活動が必要となる状況を理解する． 財政の歳入面に関するや制度を把握し，様々な税制度が経済活動に与える影響について理解する． 公債や財政の維持可能性に関する理論や考え方について理解する．		
授業内容・授業計画	この授業は，対面により実施する予定である． 第１回：イントロダクション　財政の三つの機能 第２回：日本の財政の現状 第３回：社会保障と政府の役割　社会保障制度の現状 第４回：社会保障と政府の役割　なぜ政府が社会保障を提供するのか 第５回：公的投資と政府の役割　政府による公共投資の現状 第６回：公的投資と政府の役割　なぜ政府が公共投資を行うのか 第７回：日本の租税制度の現状 第８回：直接税の効果　一括固定税と労働所得税 第９回：直接税の効果　資本所得税 第１０回：間接税の効果　誰が負担するのか 第１１回：間接税の効果　従量税と従価税 第１２回：日本の政府債務の現状 第１３回：政府の予算制約式と財政の持続可能性 第１４回：日本財政の持続可能性に関する分析		
事前・事後学習の内容	事前学習について： ミクロ経済学の基礎的な内容については，授業の前提とするので，あらかじめ復習しておくことが望ましい． （完全競争市場における価格決定と余剰分析，どんなときに市場の失敗が起こるか，など） また，以下にあげる参考書などを事前に読み，財政に関する知識を学んでおくと，スムーズに学習が進むことが期待できる．ただしこちらは授業の前提とはしない．		
評価方法	最後に対面にて実施するペーパーテストによって成績を評価する． ただし授業の進行に大きな貢献をした受講生に対して，成績全体の10%を上限としてプラス評価をすることがある． 逆に授業の進行を妨げる振る舞いをする受講生に対して，マイナス評価をすることがある．		
受講生へのコメント	財政の問題は，実は私の生活と大きくかかわる課題です．短い時間ですが，ぜひ一緒に学びましょう．		
教材	教科書は指定しない．必要な資料はオンラインにて配布する予定である． なお，参考書として，例えば以下（のいずれか）を並行して読むことを勧める． 赤井伸郎ら（2017）『実践 財政学--基礎・理論・政策を学ぶ』，有斐閣． 小塩隆志（2016）『コア・テキスト財政学　第２版』，新世社．佐藤主光（2018）『公共経済学15講（ライブラリ経済学15講APPLIED編）』，新世社．		

授業コード	E033100010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	国際協力論		
英語科目授業名	International Cooperation		
科目ナンバー	EAAPE4231		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	徳原　悟		
科目の主題	開発途上国の持続的な経済・社会の発展と人々の生活の質の向上が世界的な課題となっています。開発途上国自身の主体的な取り組みが何よりも必要であるが、グローバル化した市場経済のもとでは、途上国同士や先進工業国との協力が一層求められています。この講義では、これまでの国際協力を支えてきた理論や概念を紹介します。また開発途上国への国際協力のあり方について、貧困、環境、政治、経済などの諸問題を取り上げながら、その知識や考え方を幅広く取り上げます。		
授業の到達目標	本講義では、途上国の持続的発展と生活の質の向上を達成することの重要性を理解し、講義で修得した知識をもとに途上国の諸問題を多面的に分析を行う能力を身につけることを目的として、現実の問題に対して自分なりの解決策を示すことができることを到達目標とします。		
授業内容・授業計画	事前に配布する講義資料の内容を中心にして対面での講義を行います。また講義内容に関連する部分について、事前に参考図書に目を通しておくことをお勧めします。 第１回_持続可能な社会の構築に向けての国際協力：講義概要の説明 第２回_国際協力の基本的な仕組み 第３回_途上国支援アプローチの変化①-途上国概念の登場（1960年代まで） 第４回_途上国支援アプローチの変化②-貧困削減のミロク的視点の重視（1970-1980年代まで） 第５回_途上国支援アプローチの変化③-人間開発・参加型開発論の展開（1990年代） 第６回_開発途上国の貧困削減の意義 第７回_開発途上国と経済のグローバル化の功罪 第８回_国際協力（開発協力）における効率と平等とのバランスをもとめて 第９回_国際協力の重要性：地球環境 第10回_国際協力の重要性：安全保障 第11回_ミレニアム開発目標（MDGs）と持続的開発目標（SDGs）の比較 第12回_フェア・トレードの効果と限界 第13回_貧困層を対象とした新たなビジネス展開：BOPビジネス 第14回_貧困削減の策としてのベーシックインカムの効果と限界 定期試験		
事前・事後学習の内容	事前に講義資料や参考書に目を通し、講義内容の予習をしてください。事後では、講義の内容を踏まえ、もう一度資料を読み、十分に理解ができなかった点をまとめ、講義時に積極的に質問してください。		
評価方法	学期末試験により評価します。持ち込みは不可です。		
受講生へのコメント	国際協力というと、とかくボランティアを想像するかも知れませんが、政府、国際機関、民間企業、NGO・NPOなどの各主体の利害関係で動いています。そうした関係を解き明かすために、いろいろな角度から学んでいきましょう。		
教材	テキスト：特になし 参考書：下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由紀子『国際協力（第３版）』有斐閣、2016年刊。		

授業コード	E038020010	開講年度・学期	2021年度前期
科目授業名	ヨーロッパ経済論		
英語科目授業名	European Economy		
科目ナンバー	EAAPJ4236		
単位数	2単位	授業形態	講義
担当教員氏名（代表含む）	影浦　亮平		
科目の主題	現在のヨーロッパ経済の本質を理解するために、その特徴であるヨーロッパの資本主義に対する理解を深める。		
授業の到達目標	ヨーロッパの資本主義の形成・発展をヨーロッパを取り巻く歴史的環境とそれに付随する思想との関係から把握できるようになる。		
授業内容・授業計画	ヨーロッパの資本主義の形成・発展の概観をおさえていく。思想的な議論にとりわけ重きを置きたい。 第１回_イントロダクション-資本主義とは何か 第２回_中国とアラビアの商人資本主義 第３回_ヨーロッパの商人資本主義 第４回_植民地支配と世界交易 第５回_株式会社 第６回_プランテーション経済と奴隷制 第７回_農業資本主義とプロト工業 第８回_啓蒙主義 第９回_工業化とグローバル化 第10回_オーナー資本主義から経営者資本主義へ 第11回_金融化 第12回_資本主義における労働 第13回_市場と国家 第14回_ヨーロッパ資本主義の今後 第15回_定期試験		
事前・事後学習の内容	講義を受けた後、講義内容を復習すること。		
評価方法	第15回講義で実施する試験で成績評価をする。		
受講生へのコメント	特になし		
教材	テキスト：なし。 参考書：ユルゲン・コッカ『資本主義の歴史』人文書院、2018年		

論文採点基準表

各項目の採点基準　0：大学入学レベルをクリアしていない。1：大学生として極めて不十分、2：大学生として不十分、3：大学生として合格レベル、4：大学生としては秀逸

項目	採点	修了小論文	論文演習	卒業論文		素点	詳細説明
問題意識と課題設定の明確性とオリジナリティ	0，1，2，3，4	×3	×3	×2	＝		この論文で明らかにしたい問題および明らかにするために必要な課題設定が明確に提示されているか。課題設定に著者自身の思考に立脚したオリジナリティがあるか。
研究課題の意義	0，1，2，3，4	×1	×1	×2	＝		取り組んだ課題は、解決する必要性が何らかの形で認められ、答えが知りたくなり、その解決によって有意義な知見を獲得できるか？その解決は専門分野において有意義であると十分プレゼンテーションできているか。
研究課題の新規性	0，1，2，3，4	×0	×0	×1	＝		取り組んだ課題は未解決か。
研究課題の先行研究への位置付け	0，1，2，3，4	×1	×1	×2	＝		先行研究の関係の明確化。必須先行研究への依拠。
問題解決の明確さと貢献度	0，1，2，3，4	×3	×3	×2	＝		提示された課題にどの程度答えられているか？はぐらかしになっていないか。解決された結果は当該専門分野でどの程度評価すべき物か。
今後の課題の明確化	0，1，2，3，4	×2	×2	×1	＝		今後の課題の明示とその考察。その妥当性。学術的課題としての今後の課題のみではなく，自分の努力の不十分さ，論文執筆によって開けた視野から見えるやり残したことへ意識をみる.
根拠の展開・提示法の妥当性	0，1，2，3，4	×5	×5	×4	＝		著者の選択した根拠の信頼性・妥当性を問題にする。課題解決の為の根拠の選択に関する考察があるか。その議論は妥当か。根拠の論理的操作や提示がこなれているか。
根拠の新規性、独創性	0，1，2，3，4	×0	×0	×1	＝		根拠は従来からその分野で使用されているものか、それとも初めてか。根拠の使用法は、独創的なものであるか。
論文のわかりやすさ	0，1，2，3，4	×4	×4	×4	＝		読者の想定は妥当か。特に、学術用語の選択、その説明の細かさ、当該分野の暗黙の前提の扱い方。論文の構成、文章、図表はわかりやすいか。
論文の形式要件	0，1，2，3，4	×4	×4	×4	＝		論文の字数、体裁などが指定された物になっているか。十分な註が付けられているか。参考文献リストは明示されているか。剽窃・盗用はないか。形式要件を満たさないものは0点。
その他特筆すべき点	0，1，2，3，4	×2	×2	×2	＝		努力等の評価
論文評価（A）							
卒論の場合のみ専門性評価（B）							
卒業論文評価：（A+B)/2							

遠隔授業における WebClass が停止した際の対応について

遠隔授業は、本学においては WebClass を使用しているが、予期せぬトラブルにより WebClass が停止する可能性が否定できないため、WebClass が停止した際の対応につき以下の通り定めることとする。（本対応は、医学部医学科、医学研究科は除く）

記

〇遠隔授業における休講措置に係る考え方

１）オンデマンド型（基本型・発展型）は休講措置をとらず、使用可能になった後に教材を掲載し授業を進める。 ２）同時双方向型に限り、原則として休講措置をとる。（授業担当教員が学生に直接連絡することができる場合はこの限りでない。）

この考え方に伴い、「交通機関の運休、気象条件の悪化による授業の休講および定期試験の延期措置について」について別紙の通り改正する。

〇WebClass 停止時の教職員、学生に対する周知について

全学的な対応としては、通信障害の状況にもよるが、OCU UNIPA、全学ポータルサイト、全学ホームページ、大学公式 Twitter（@OCU_PR）、などを利用して周知することを基本とする。

以　上

【改正】交通機関の運休、気象条件の悪化等による授業の休講
および定期試験の延期措置について

【杉本キャンパス、梅田サテライト】

(1) 交通機関の運休による授業の休講について

次の交通機関の①または②のいずれかが運休（事故等による一時的な運行停止を除く）を行った場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり運行再開の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、運休の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

●杉本キャンパス

① JR阪和線全線

② Osaka Metro 御堂筋線全線およびJR大阪環状線全線が同時

●梅田サテライト

代替交通機関があることから、交通機関の運休による休講の措置については行いません。

(2) 気象条件の悪化による授業の休講について

「大阪府下に暴風警報又は特別警報（すべて対象とする）のいずれか」が発令された場合の授業は原則として休講とします（定期試験の延期措置を含む）。ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、警報発令の有無にかかわらず別段の決定を行うことがあります。

(3) 遠隔授業（同時双方向型に限る）においてWebClassが停止した場合の休講について

WebClassが停止した場合は同時双方向型の授業に限り、原則として休講とします（授業担当教員から履修者への個別の連絡がある場合は除く）。ただし、別表のとおりWebClassの復旧の時刻により、全部又は一部の授業を行います。また、遠隔授業（オンデマンド型）については休講の措置を行いません。

（別表）

●杉本キャンパス

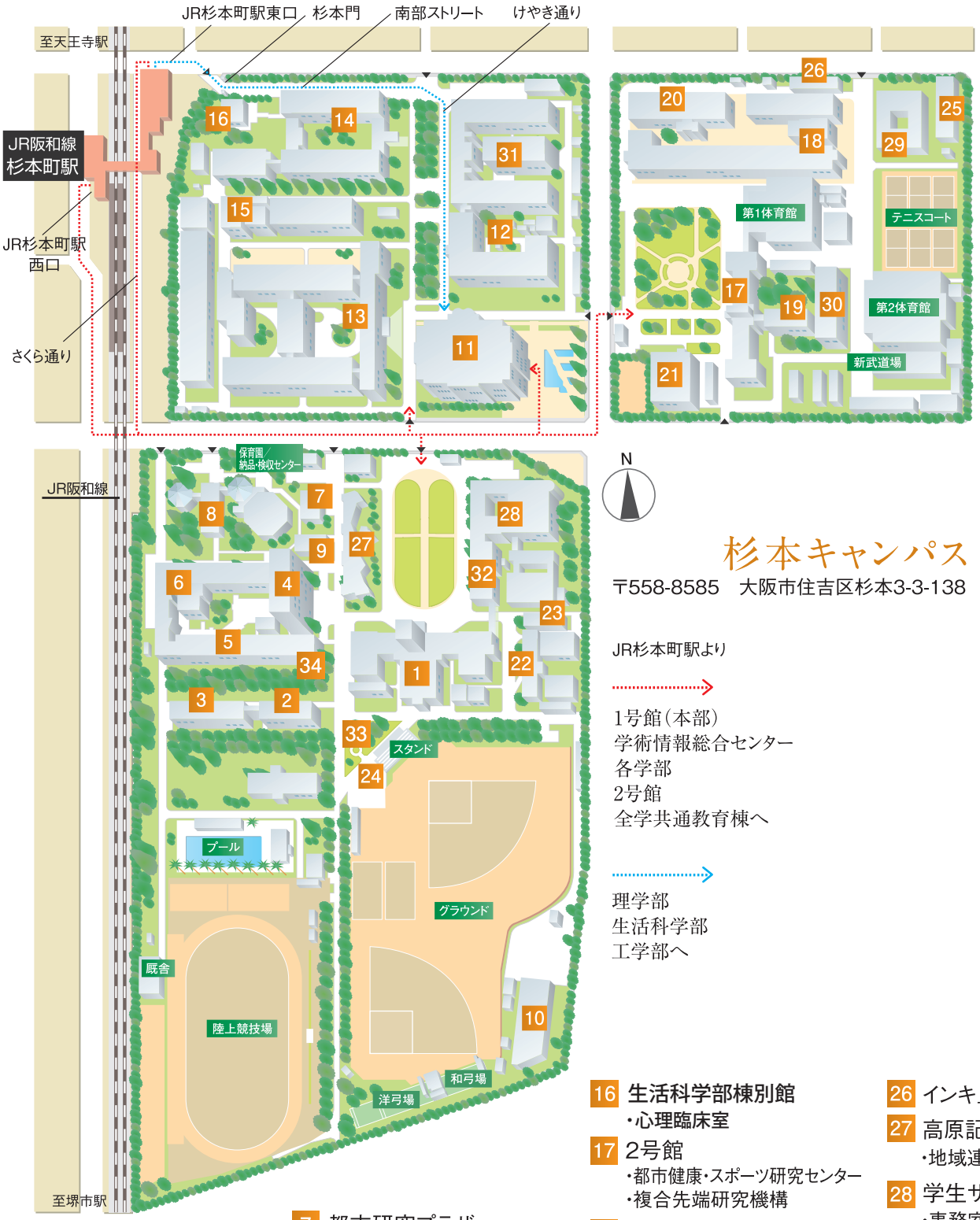
運行再開・警報解除・WebClassの復旧の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午　前　7　時　以　前		全時限
午　前　10　時　以　前	１・２ 時限	３・４・５ 時限
午前1 0 時を過ぎても解除されない場合	全時限	

●梅田サテライト

（梅田サテライト）月～金曜日の授業		
警報解除・WebClass の復旧の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午　後　3　時　以　前		全時限
午後 3 時を過ぎても解除されない場合	全時限	

（梅田サテライト）土曜日の授業		
警報解除・WebClass の復旧の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午　前　7　時　以　前		全時限
午　前　10　時　以　前	１～３時限	４～７時限
午前 10 時を過ぎても解除されない場合	全時限	

※交通機関の運休とは、事故、気象現象、地震、交通ストライキ、その他の理由により交通機関が運行休止になり、通学が困難な場合をいう。
※授業中または試験中に、暴風警報又は特別警報が発令された場合は、原則として、実施中の授業・試験についてはそのまま行い、その次の時限から授業は休講とする。
※このほか、必要がある場合は、各学部又は各研究科において別に定める。



杉本キャンパス

〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138

JR杉本町駅より

1号館（本部）
学術情報総合センター
各学部
2号館
全学共通教育棟へ

理学部
生活科学部
工学部へ

1 1号館
・URA センター
・事務室
（人事課、財務課、管理課
社会連携課、研究支援課）

2 商学部棟

3 経済学部棟

4 法学部棟

5 文学部棟

6 経済研究所棟
・都市経営研究科
・創造都市研究科
・人権問題研究センター
・証券研究センター

7 都市研究プラザ

8 田中記念館
・事務室
（大学サポーター交流室）

9 保健管理センター

10 河海工学実験場

11 学術情報総合センター
・大学史資料室
・事務室
（情報推進課、学術情報課）

12 理学部棟
・数学研究所

13 工学部棟

14 生活科学部棟

15 工作技術センター

16 生活科学部棟別館
・心理臨床室

17 2号館
・都市健康・スポーツ研究センター
・複合先端研究機構

18 全学共通教育棟
・英語教育開発センター
・大学教育研究センター
・学修支援推進室
（OCU ラーニングセンター）
・Global Village
・事務室
（共通教育支援室（教育推進課））

19 4号館

20 基礎教育実験棟

21 第1学生ホール

22 第2学生ホール

23 第3学生ホール

24 スポーツハウス

25 ゲストハウス

26 インキュベータ

27 高原記念館
・地域連携センター

28 学生サポートセンター
・事務室
（監査室、大学戦略担当
就職支援室、安全衛生管理室
教育推進課、学生課
入試課、広報課、大学計理担当
国際交流課）

29 共通研究棟

30 人工光合成研究センター

31 理系共通実験棟

32 本部棟
・事務室
（企画総務課）

33 戦没学友の碑

34 五代友厚像

杉本キャンパス　教室一覧

建物	階層	教室番号
3　経済学部棟	１階	ＣＡ
1　１号館	２階	１２Ａ　～　１２Ｇ １２０　～　１２８
	３階	１３Ａ　～　１３Ｇ １３２　～　１３７
19　４号館	１階	４１０
6　経済研究所棟	２階	５２Ｅ１ ５２１　～　５２４
	３階	５３Ｅ２
4　法学部棟	３階	７３０
	４階	７４０
	１１階	７１１Ａ　～　７１１Ｃ
18　全学共通教育棟	１階	８１Ａ、８１Ｂ ８１０　～　８１６ 自習室
	２階	８２０　～　８２２
	３階	８３Ａ　～　８３Ｌ ８３０　～　８３５
	４階	８４Ａ ８４０　～８４９ 外国語特別演習室１　～　５
	５階	８５Ａ ８５０、８５１
20　基礎教育実験棟	１階	階段教室
	２階	物理学実験室等
	３階	生物学・化学実験室等
	４階	化学実験室等

教員名簿

			研究室 TEL	E－mail
			06 - 6605 -	
有賀　敏之	教授	世界経済論	2492	alga@osaka-cu.ac.jp
浦西　秀司	〃	産業経済論	2264	uranishi@econ.osaka-cu.ac.jp
小川　亮	〃	地方財政論	2268	r-ogawa@osaka-cu.ac.jp
金子　勝規	〃	東南アジア経済論	2265	kaneko@osaka-cu.ac.jp
北原　稔	〃	ミクロ経済学	2276	kitahara@econ.osaka-cu.ac.jp
久保　彰宏	〃	国際経済学	2291	kubo@econ.osaka-cu.ac.jp
滋野　由紀子	〃	日本経済論	2289	shigeno@econ.osaka-cu.ac.jp
髙塚　創	〃	空間経済学	2285	takatsuka@econ.osaka-cu.ac.jp
辻　賢二	〃	金融経済論	2284	tsujiken@econ.osaka-cu.ac.jp
中嶋　哲也	〃	経済原論Ⅱ	2281	nakajima@econ.osaka-cu.ac.jp
中島　義裕	〃	計算機経済学	2273	yoshi@econ.osaka-cu.ac.jp
中村　健吾	〃	社会思想史	2279	nakamura@econ.osaka-cu.ac.jp
中村　英樹	〃	経済統計論	2271	hnakamur@econ.osaka-cu.ac.jp
朴　一	〃	アジア経済論	2262	paku@econ.osaka-cu.ac.jp
松本　淳	〃	財政学	2282	matumoto@econ.osaka-cu.ac.jp
森脇　祥太	〃	経済開発論	2269	fai74566@osaka-cu.ac.jp
若森　みどり	〃	経済学説史	2260	wakamori@econ.osaka-cu.ac.jp
Justin Aukema	准教授	Global Economy	2266	aukemajk@osaka-cu.ac.jp
五十川　大也	〃	産業政策論	2283	isogawa@osaka-cu.ac.jp
岡澤　亮介	〃	マクロ経済学	2286	okazawa@econ.osaka-cu.ac.jp
黒田　雄太	〃	福祉経済論	2287	ykuroda@osaka-cu.ac.jp
齋藤　幸平	〃	経済原論Ⅰ	2275	saito@econ.osaka-cu.ac.jp
塩谷　昌史	〃	西洋経済史	2270	shiotani@econ.osaka-cu.ac.jp
柴田　淳	〃	流通経済論	2277	shibata@econ.osaka-cu.ac.jp
杉田　菜穂	〃	社会政策論	2296	sugita@econ.osaka-cu.ac.jp
内藤　克幸	〃	経済変動論	2288	naito@osaka-cu.ac.jp
中川　満	〃	統計解析論	2261	nakagawa@econ.osaka-cu.ac.jp
彭　浩	〃	日本経済史	2295	penghao@econ.osaka-cu.ac.jp

副学長

橋本文彦	教授	行動情報論

特任教員

森　　瑞　季
田中　　俊二
西　川　弘　展

非常勤講師

新　居　理　有	公共経済学特殊講義	愛知大学　経済学部
岩波　由香里	専　門　演　習　4	
C.ウエザーズ	労働経済論特殊講義1	
上　田　智　巳	経　済　情　報　論	
小　田　和　幸	商業簿記基礎論	大原学園
影　浦　亮　平	ヨーロッパ経済論	千葉商科大学
鹿　野　繁　樹	計量経済学上級講義	大阪府立大学大学院経済学研究科
木下　　祐輔	関　西　経　済　論	一般財団法人アジア太平洋研究所
阪　原　　淳	Lectures Economics B	京都精華大学
佐　藤　　光	社　会　経　済　論	大阪市立大学名誉教授
徳　原　　悟	国　際　協　力　論	拓殖大学国際学部
廣　野　　誠	経　済　数　学	
野　村　　魁	環　境　経　済　学	